

岩手県産業教育振興会

令和6年度

事業活動報告書

－ 事業活動報告書 目次 －

| | | |
|-----|--|----|
| I | 岩手県産業教育振興会 会長挨拶 | 1 |
| II | 各専門部会が主催する「全国大会」の競技内容 | 2 |
| | 全国商業高等学校協会主催 全国高等学校簿記競技大会 実施要項（例） | |
| III | 大会助成事業及びキャリアアップサポート事業 | |
| 1 | 農業 | |
| | （1）日本学校農業クラブ全国大会大会運営及び全国高等学校フラワーアレンジメント県予選 | |
| | ア 盛岡農業高等学校 | 7 |
| | （2）全国高等学校フラワーアレンジメントコンテスト | |
| | ア 大船渡東高等学校 | 14 |
| | イ 花巻農業高等学校 | 15 |
| | （3）和牛甲子園 | |
| | ア 盛岡農業高等学校 | 18 |
| | （4）キャリアアップ事業 | |
| | ア 盛岡農業高等学校 | 19 |
| 2 | 工業 | |
| | （1）高校生ものづくり東北及び全国大会化学分析部門・全国高等学校ロボット競技大会予選 | |
| | ア 水沢工業高等学校 | 20 |
| | イ 盛岡工業高等学校 | 21 |
| | （2）全国高等学校ロボット競技大会 | |
| | ア 水沢工業高等学校 | 25 |
| | イ 盛岡工業高等学校 | 26 |
| | （3）キャリアアップ事業 | |
| | ア 盛岡工業高等学校 | 27 |
| | イ 種市高等学校 | 30 |
| | ウ 黒沢尻工業高等学校 | 31 |
| | エ 水沢工業高等学校 | 32 |
| 3 | 商業 | |
| | （1）簿記競技大会 | |
| | ア 水沢商業高等学校 | 33 |
| | イ 宮古商工高等学校 | 34 |
| | ウ 盛岡商業高等学校 | 35 |
| | （2）情報処理競技大会 | |
| | ア 盛岡商業高等学校 | 36 |
| | イ 水沢商業高等学校 | 37 |
| | ウ 花北青雲高等学校 | 38 |

| | |
|-----------------|----|
| (3) ビジネス計算競技大会 | |
| ア 花北青雲高等学校 | 39 |
| イ 宮古商工高等学校 | 40 |
| ウ 盛岡商業高等学校 | 42 |
| (4) ワープロ競技大会 | |
| ア 花北青雲高等学校 | 43 |
| (5) 英語スピーチコンテスト | |
| ア 宮古商工高等学校 | 44 |
| (6) キャリアアップ事業 | |
| ア 大東高等学校 | 45 |
| イ 宮古商工高等学校 | 49 |
| ウ 釜石商工高等学校 | 51 |
| エ 水沢商業高等学校 | 52 |

4 水産

| | |
|----------------------------|----|
| (1) 全国水産・海洋高等学校産業教育意見体験発表会 | |
| ア 宮古水産高等学校 | 53 |

5 家庭

| | |
|---------------|----|
| (1) キャリアアップ事業 | |
| ア 平舘高等学校 | 54 |
| イ 宮古水産高等学校 | 56 |

6 総合学科

| | |
|---------------|----|
| (1) キャリアアップ事業 | |
| ア 岩谷堂高等学校 | 57 |
| イ 紫波総合高等学校 | 59 |
| ウ 北上翔南高等学校 | 64 |
| エ 久慈東高等学校 | 66 |
| オ 北桜高等学校 | 68 |

7 中学校技術・家庭

| | |
|--------------------------|----|
| (1) 大会参加 | |
| ア 岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会和賀大会 | 70 |

IV 全国産業教育フェア さんフェア栃木2024

| | |
|-------------|----|
| 1 大会パンフレット等 | 71 |
|-------------|----|

V 研究文・作文コンクール

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1 応募要領 | |
| (1) 公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会募集要領 | 73 |
| (2) 岩手県産業教育振興会募集要領 | 75 |

2 研究文の部

(1) 産業教育振興中央会

- ア 佳作 盛岡工業高等学校 土木科 77
「松尾鉾山開発を学び四十四田ダムの役割と課題を探る(その1)」

(2) 岩手県産業教育振興会

- ア 最優秀賞 盛岡農業高等学校 食品科学科 85
「広めよう！梅でつなぐ私たちの特産品」～盛農から沿岸地域への活力を～
イ 優秀賞 盛岡農業高等学校 人間科学科 88
「地域資源と私たちの可能性」～世代を超えて笑顔を広める～

3 作文の部

(1) 産業教育振興中央会

- ア 佳作 釜石商工高等学校 電気電子科2年 成田 慧七さん 93
「私の運命を変えた一言」

(2) 岩手県産業教育振興会

- ア 最優秀賞 花巻農業高等学校 生物科学科3年 高橋 孝太さん 95
「私にきっかけをくれた存在」
イ 優秀賞 盛岡農業高等学校 環境科学科2年 平田 彩笑さん 97
「伝統工芸品を地域のために」

VI 御下賜金記念優良卒業生表彰

1 表彰規定

- (1) 公益財団法人産業教育振興中央会選奨規定 99
(2) 岩手県産業教育振興会選奨規定 100

2 優良卒業生表彰数一覧 101

VII 支援対象校一覧 103



岩手県産業教育振興会

会 長 鎌 田 英 樹

(株式会社 I B C 岩手放送 代表取締役会長)

ご 挨拶

まずもって会員各位のご支援のもと、令和6年度における「岩手県産業教育振興会」の事業を、ほぼ終了することができたことに心より御礼を申し上げます。

令和6年1月1日に最大震度7の能登半島地震が発生しました。家屋の倒壊、津波の発生、道路の寸断、断水や停電など多くの被害が発生し、多くの方が被災されました。発災直後から復興作業が続けられておりますが、まだ生活インフラさえ復旧していない地区もあるようです。心より一日も早く復旧・復興されますようお祈り申し上げます。

本県も東日本大震災で、大変大きな被害を受けましたが、阪神淡路大震災の被災地区の方々や全国各地から暖かいご支援をいただきました。沿岸の高等学校は大変多くの支援をいただきました。釜石商工高校の今野校長先生は、直接、被災した高校の校長先生と連絡を取り、高校として本当に支援してもらいたい事項をお聞きした上で、できる範囲で支援をされたと伺っています。その他、県教委、県立学校長協会、多くの高校やその生徒会が支援を行ったと聞いております。

また、大船渡市と陸前高田市で立て続けに発生した山火事は、山林に加えて人家にまで被害が及びました。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げますと共に、消火活動にあたられた多くの方々のご労苦に心より感謝申し上げます。

さて、令和6年度は本県において、専門教育に係る全国大会が開催されました。全国の農業高校の関係者が集まる「日本学校農業クラブ全国大会」が本県8箇所で開催されましたし、工業部会では「高校生ものづくり全国大会」の旋盤作業部門と化学分析部門が本県で行われ、全国から多くの関係者が来県し、岩手の専門教育をご覧いただきました。さらに、令和7年度は工業部会が「全国工業高等学校長協会」第73回研究協議会を開催する予定になっています。

また、生徒の活躍も目立ち、全国産業教育フェア栃木大会で開催された、全国高等学校フラワーアレンジメントコンテストで、花巻農業高等学校、生物科学科2年の伊東さんが全国第2位にあたる銀賞を受賞しました。フラワーアレンジメントコンテストでの銀賞受賞は本県初の快挙となりました。さらに、産業教育振興中央会主催の研究文・作文コンクールにおいて、盛岡工業高校土木科の研究「松尾鉦山開発を学び四十四田ダムの役割と課題を探る

(その1)」が応募総数43編の中で佳作に入賞しました。釜石商工高校電気電子科2年の成田さんの作文は、作文の部応募総数260編の中で佳作に入賞しました。

その他、多くの学校や生徒が東北大会や全国大会で大いに活躍しています。令和6年度までは財政的に厳しく、東北大会出場者への助成の取り止めや全国大会出場者への助成額の上限額を設定するなどしてきました。令和7年度からは学校協力金の値上げが認められたことにより、助成内容や助成額を見直し、より多く助成を行う予定です。

本県産業振興及び産業教育の発展を目指し、今後も活動を進めて参りますので、会員の皆様方におかれましては、引き続き、専門教育を学ぶ高校生への貴重な御支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、会員様の関連諸団体の方々に本会の活動を紹介いただき、新規会員として、新たな御支援を賜れば幸いに存じます。

全国高等学校簿記競技大会についての解説

商業部会では、高校で学習した企業経営に必須の財務・経理等に関する知識・技能等について全国の高校生と競い合う場として「全国高等学校簿記競技大会」が開催されます。難易度の高い問題が出題され、県予選を勝ち抜いた団体代表1校と、個人代表2名が各県から出場します。

この大会の内容について抜粋ですが紹介をします。

I 実施要項等（抜粋）

- 1 目的 簿記教育の振興を図り、商業教育の発展に寄与する。
- 4 参加資格 全国商業高等学校長協会の会員校に在籍する生徒であること。
- 5 参加校数および選手登録人数
 - (1) 団体代表校は各都道府県1校とする。

団体代表校の選手登録は1校3名とする。ただし、団体代表校には1名の補欠登録者を認め、選手登録した者が出場できない場合に、その補欠登録者のみが出場できる。

(注) 生徒の会場への入場は1校4名までとする。
 - (2) 個人代表は各都道府県の団体代表校以外の会員校から2名以内とする。
- 6 出題範囲「簿記」・「財務会計Ⅰ」・「原価計算」に関するすべての内容を範囲とする。
- 7 時間および出題形式
 - 第1部 45分、第2部 45分の計90分で競技する。
 - 第1部は取引の記帳および決算の問題、第2部は計算の問題とする。
- 8 成績
 - (1) 第1部（100点）と第2部（100点）の合計得点を個人の得点とする。
 - (2) 個人表彰は、団体出場・個人出場を問わず、個人得点で決定する。
 - (3) 学校団体表彰は、団体出場校の出場選手3名の個人得点の合計で決定する。
- 9 審査
 - 審査委員会を設け、審査基準に従い、正確に、迅速に、整然と記帳・処理されているかを審査する。

II 実施細則（抜粋）

- 1 答案作成上の注意
 - ① 筆記用具は黒と赤のボールペン、ならびに定規を使用する。ただし、消しゴムで消せるボールペンの使用は認めない。
 - ② 数字は3桁ごとにコンマ（,）で区切る。ただし、位取り線のある場合は、コンマを必要としない。
 - ③ 誤記の訂正は、文字は誤字だけを訂正するが、数字は全数字を訂正すること。なお、訂正印は省略する。

- ④ 使用する勘定科目については、科目が指定されているときのほかは、現行教科書に用いられている科目で同一の内容を表わすものであればよい。
- ⑤ 次のような答案は誤答となる。
 - ア 誤字・脱字がある場合。
 - イ 漢字で書くべき勘定科目等をかなで書いた場合。
 - ウ 勘定科目を略称で書いた場合。

4 同点の場合の順位決定方法

出場者3人の合計点を学校得点とし、次の順序で順位を決定する。

- (1) 第1部の学校得点が高い学校を上位とする。
- (2) 問題番号1の学校得点の高い学校を上位とする。
- (3) 問題番号2の学校得点の高い学校を上位とする。
- (4) 問題番号3の学校得点の高い学校を上位とする。
- (5) 問題番号5の学校得点の高い学校を上位とする。
- (6) 問題番号6の学校得点の高い学校を上位とする。
- (7) 問題番号7の学校得点の高い学校を上位とする。
- (8) 簿記研究部長の判断による。

※なお、個人の部における同点の場合の順位決定の順序は、団体の部に準じて行います。

岩手商事株式会社（会計期間2023年4月1日から2024年3月31日）の決算整理前元帳残高（解答用紙の残高試算表欄に記入済み）と次の決算整理事項により精算表を完成しなさい。なお、解答の便宜上、金額を小額で示している。

元帳勘定残高

| | | | | | |
|----------|----------|--------|----------|---------|----------|
| 当座預金 | ¥ 82,050 | 電子記録債権 | ¥ 16,700 | 売掛金 | ¥ 12,800 |
| 売買目的有価証券 | 7,590 | 繰越商品 | 3,076 | 仮払消費税 | 20,967 |
| 建物 | 26,800 | 備品 | 3,120 | 土地 | 179,527 |
| その他有価証券 | 9,520 | 繰延税金資産 | 4,971 | 買掛金 | 22,770 |
| 仮受消費税 | 37,584 | 借入金 | 100,000 | 退職給付引当金 | 10,050 |
| 資本金 | 100,000 | 利益準備金 | 36,854 | 繰越利益剰余金 | 709 |
| 売上 | 375,840 | 仕入 | 207,612 | 給料 | 102,993 |
| 水道光熱費 | 2,301 | 保険料 | 270 | 支払利息 | 3,510 |

決算整理事項

- a. 期末商品は次のとおりである。なお、棚卸減耗損および商品評価損は売上原価の勘定に含めずに表示する。

| | 帳簿棚卸数量 | 実地棚卸数量 | 原価（単価） | 正味売却価額（単価） |
|----|--------|--------|--------|------------|
| A品 | 10個 | 10個 | ¥265 | ¥130 |
| B品 | 8個 | 5個 | ¥204 | ¥310 |

- b. 売上債権に対して5%の貸倒引当金を設定する。なお、電子記録債権¥16,700は得意先秋田商店に対する債権を2024年2月1日に電子データ化し、電子債権記録機関に登録したものである。

- c. 建物および備品について、減価償却費を計上する。

| | 使用開始日 | 取得原価 | 残存価額 | 耐用年数 | 償却方法 | 償却率 |
|----|------------|---------|------|------|------|------|
| 建物 | 2014年6月1日 | ¥48,000 | 零(0) | 20年 | 定額法 | 0.05 |
| 備品 | 2021年12月1日 | ¥6,000 | 零(0) | 5年 | 定率法 | 0.40 |

- d. 保有する有価証券は次のとおりである。

| | 分類 | 株数 | 時価（1株あたり） |
|-----------|----------|-----|-----------|
| 南北物産株式会社 | 売買目的有価証券 | 10株 | ¥312 |
| 東西工業株式会社 | 売買目的有価証券 | 5株 | ¥803 |
| 北海道運送株式会社 | その他有価証券 | 10株 | ¥992 |

- e. 保険料勘定残高のうち、当期の保険料は月額¥15の¥180であり、残額は2024年4月1日から2024年9月30日までの6か月分である。

- f. 借入金の明細は次のとおりである。よって、当期末における利息の未払高を計上する。

借入金明細表

(単位：円)

| 借入先 | 期末現在高 | 利息発生額(期中) | 利息未払高(当期首) | 利息支払高(期中) | 借入理由 |
|-----|--------|-----------|------------|-----------|------|
| 甲銀行 | 50,000 | 2,200 | 880 | 2,640 | 土地購入 |
| 乙銀行 | 50,000 | 2,100 | 350 | 2,100 | 運転資金 |

～ 以下省略 ～

精 算 表

2024年3月31日

(単位：円)

| 勘 定 科 目 | 残高試算表 | | 整 理 記 入 | | 損益計算書 | | 貸借対照表 | |
|-------------------------|---------|---------|---------|----|-------|----|-------|----|
| | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 |
| 当 座 預 金 | 82,050 | | | | | | | |
| 電 子 記 録 債 権 | 16,700 | | | | | | | |
| 売 掛 金 | 12,800 | | | | | | | |
| 売買目的有価証券 | 7,590 | | | | | | | |
| 繰 越 商 品 | 3,076 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 仮 払 消 費 税 | 20,967 | | | | | | | |
| 建 物 | 26,800 | | | | | | | |
| 備 品 | 3,120 | | | | | | | |
| 土 地 | 179,527 | | | | | | | |
| そ の 他 有 価 証 券 | 9,520 | | | | | | | |
| 繰 延 税 金 資 産 | 4,971 | | | | | | | |
| 買 掛 金 | | 22,770 | | | | | | |
| 仮 受 消 費 税 | | 37,584 | | | | | | |
| 借 入 金 | | 100,000 | | | | | | |
| 退 職 給 付 引 当 金 | | 10,050 | | | | | | |
| 資 本 金 | | 100,000 | | | | | | |
| 利 益 準 備 金 | | 36,854 | | | | | | |
| 繰 越 利 益 剰 余 金 | | 709 | | | | | | |
| 売 上 | | 375,840 | | | | | | |
| 仕 入 | 207,612 | | | | | | | |
| 給 料 | 102,993 | | | | | | | |
| 水 道 光 熱 費 | 2,301 | | | | | | | |
| 保 険 料 | 270 | | | | | | | |
| 支 払 利 息 | 3,510 | | | | | | | |
| | 683,807 | 683,807 | | | | | | |
| 棚 卸 減 耗 損 | | | | | | | | |
| 商 品 評 価 損 | | | | | | | | |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 | | | | | | | | |
| 貸 倒 引 当 金 | | | | | | | | |
| 減 価 償 却 費 | | | | | | | | |
| 有 価 証 券 評 価 損 | | | | | | | | |
| そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | | | | | | | | |
| 前 払 保 険 料 | | | | | | | | |
| 未 払 利 息 | | | | | | | | |
| 未 払 消 費 税 | | | | | | | | |
| 退 職 給 付 費 用 | | | | | | | | |
| 繰 延 税 金 負 債 | | | | | | | | |
| 法 人 税 等 調 整 額 | | | | | | | | |
| 法 人 税 等 | | | | | | | | |
| 未 払 法 人 税 等 | | | | | | | | |
| 当 期 純 利 益 | | | | | | | | |

第 部問題(計算問題)

出典：全国商業高等学校協会 簿記競技大会 出題問題から抜粋

大阪商事株式会社（決算年1回 3月31日）は令和X6年1月18日から、アメリカの企業との商品売買取引を外貨建てで行うことになった。下記の資料にもとづいて各問いに答えなさい。

ただし、i 本問では外貨建て取引以外の取引について考慮しなくてよい。

ii 会計処理は振当処理によること。

iii 為替予約にともなう差額はすべて当期の損益として処理する。

- (1) 令和X6年2月15日の取引における仕入高
- (2) 令和X6年2月26日の取引後の為替差損益勘定残高
(解答の際に借方残高の場合は借、貸方残高の場合は貸を○で囲むこと)
- (3) 令和X6年3月14日の取引における売上高
- (4) 令和X6年3月31日時点における売掛金勘定残高
- (5) 令和X5年度（令和X6年3月31日）の貸借対照表に記載される「買掛金」の金額
- (6) 令和X6年5月9日の取引後の為替差損益勘定残高
(解答の際に借方残高の場合は借、貸方残高の場合は貸を○で囲むこと)

資 料

I 為替相場

| 日 付 | 直物為替相場 | 日 付 | 直物為替相場 |
|------------|---------|------------|---------|
| 令和X6年1月18日 | 135円／ドル | 令和X6年4月8日 | 136円／ドル |
| 令和X6年2月12日 | 137円／ドル | 令和X6年4月11日 | 137円／ドル |
| 令和X6年2月15日 | 139円／ドル | 令和X6年4月17日 | 137円／ドル |
| 令和X6年2月21日 | 140円／ドル | 令和X6年5月9日 | 138円／ドル |
| 令和X6年2月26日 | 141円／ドル | | |
| 令和X6年3月14日 | 143円／ドル | | |
| 令和X6年3月15日 | 143円／ドル | | |
| 令和X6年3月31日 | 141円／ドル | | |

II 外貨建取引および決算

令和X6年1月18日 DC社からA商品\$5,000を購入する契約を結び、内金として\$2,000を普通預金より支払った。

令和X6年2月12日 NY社からB商品\$4,000を輸入し、代金は令和X6年4月8日に支払うこととした。

令和X6年2月15日 DC社に発注していたA商品が納品され、内金を差し引いた残額は令和X6年4月11日に支払うこととした。

令和X6年2月21日 OK社にC商品\$6,000を売り上げ、代金は令和X6年4月17日に受け取ることとした。

令和X6年2月26日 OK社に対する売掛金\$6,000に対して、\$1あたり¥139の先物為替相場で為替予約をした。

令和X6年3月14日 TX社にD商品\$3,000を売り上げた。代金は令和X6年5月9日に受け取ることとした。

令和X6年3月15日 TX社に対する売掛金\$3,000に対して、\$1あたり¥141の先物為替相場で為替予約をした。

令和X6年3月31日 決算を迎えた。

令和X6年4月8日 NY社に対する買掛金を決済し、代金を普通預金口座から支払った。

令和X6年4月11日 DC社に対する買掛金を決済し、代金を普通預金口座から支払った。

令和X6年4月17日 OK社に対する売掛金が決済され、代金を普通預金口座に預け入れた。

令和X6年5月9日 TX社に対する売掛金が決済され、代金を普通預金口座に預け入れた。

【大会運営 農業：フラワーアレンジメントコンテスト県予選】

岩手県立盛岡農業高等学校

【大会名】第23回岩手県フラワーアレンジメントコンテスト兼第34回全国産業教育フェア栃木大会（さんフェアとちぎ2024）岩手県予選

【期 日】令和6年7月30日（火）

【場 所】岩手県立盛岡農業高等学校 作物実習棟

【大会概要】第23回岩手県フラワーアレンジメントコンテストを実施し、「第34回全国産業教育フェア栃木大会（さんフェアとちぎ2024）」に出場する岩手県代表を2名選出します。

（1）岩手県予選出場者

| 番号 | 学 校 | 学科名 | 学年 | 生徒氏名 |
|----|----------|-------|----|---------|
| 1 | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 3 | 伊 東 愛 生 |
| 2 | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 2 | 山 田 若 菜 |
| 3 | 遠野緑峰高等学校 | 生産技術科 | 3 | 菊 池 翔 |
| 4 | 遠野緑峰高等学校 | 生産技術科 | 3 | 佐 藤 椿 |
| 5 | 大船渡東高等学校 | 農芸科学科 | 3 | 田 中 愛 子 |
| 6 | 大船渡東高等学校 | 農芸科学科 | 2 | 出 羽 涼 夏 |
| 7 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 2 | 宿 泰 平 |
| 8 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 2 | 木 暮 恵梨佳 |

（2）審査員 目 時 泰 子 （盛岡市） フラワー装飾一級技能士
煙 山 誠 （雫石町） フラワー装飾一級技能士

（3）結 果 金 賞 花巻農業高等学校 伊 東 愛 生
銀 賞 盛岡農業高等学校 田 中 愛 子
銅 賞 金賞・銀賞以外全員

※金賞・銀賞受賞者が全国大会へ出場します。



競技風景



閉会行事

【感 想】

夏季休業中に開催、猛暑の中の大会となりました。その中でも参加生徒は集中して競技を行っており、レベルの高い技術を競い合いました。競技後に行われた審査委員長によるワンポイントレッスンは、個々の選手に対して熱のこもったアドバイスが行われ、選手も聞き入っていました。金賞及び銀賞の2名は、10月に開催される全国大会（栃木県）に岩手県代表として出場することになり、全国大会でのさらなる活躍を期待いたします。

【大会運営 農業：農業クラブ全国大会・プロジェクト発表】

岩手県立盛岡農業高等学校

【大会名】第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会
プロジェクト発表会

【日時】令和6年10月22日（火）・23日（水）

【場所】盛岡市民文化ホール（マリオス）

【大会概況】

日頃のプロジェクト活動の成果を発表し、クラブ員の3大目標（科学性、社会性、指導性）を高めるとともに、専門的な能力や態度を高めることを目的とする。

（1）競技部門・内容

- ①分野Ⅰ類（農業生産・農業経営）
- ②分野Ⅱ類（国土保全・環境創造）
- ③分野Ⅲ類（資源活用・地域振興）

（2）参加者数

- ①分野Ⅰ類（農業生産・農業経営）9校（計45名）
- ②分野Ⅱ類（国土保全・環境創造）9校（計50名）
- ③分野Ⅲ類（資源活用・地域振興）9校（計56名）
- ④水沢農業高等学校、一関第二高等学校の生徒が運営として参加

【写真】



発表の様子



発表の様子

【感想】

分野Ⅰ類では、地域の農畜産業や特産品の活用、そして、SDGsの視点及び資材高騰等の生産者の所得向上につながる地域課題解決に直結した内容が多く、探究型学習の先駆者である農業高校生ならではの学びが見られました。

分野Ⅱ類では、全体的に地域の課題からSDGsや、みどりの食料システム戦略と絡めた持続可能な活動や、地域の中の学校の役割を果たしている取り組みが多く見られました。また、産学官が連携した取り組みも多く、どの発表も今後の国土保全・環境創造につながる優れた発表内容でした。

分野Ⅲ類では、学習の場を学校外へと広げ、地域の方々や企業、行政機関等と連携した研究がなされており、プロジェクト学習をとおり、農業高校が地域から必要とされる存在となっていることが実感できる発表を多く見受けることができました。

【大会運営 農業：農業クラブ全国大会・意見発表会】

岩手県立盛岡農業高等学校

【大会名】第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会
意見発表会

【日時】令和6年10月22日（火）・23日（水）

【場所】いわて県民情報交流センター（アイーナ）

【大会概況】

クラブ員の身近な問題や将来の問題について抱負や意見を交換し、クラブ員の3大目標（科学性、社会性、指導性）を高めるとともに、主体的に問題を解決する能力と態度を養うことを目的とする。

（1）競技部門・内容

- ①分野Ⅰ類（農業生産・農業経営）
- ②分野Ⅱ類（国土保全・環境創造）
- ③分野Ⅲ類（資源活用・地域振興）

（2）参加者数

- ①分野Ⅰ類（農業生産・農業経営）・9名（9校）
- ②分野Ⅱ類（国土保全・環境創造）・9名（9校）
- ③分野Ⅲ類（資源活用・地域振興）・9名（9校）

（3）大会成績

遠野緑峰高等学校、千厩高等学校の生徒が運営として参加

【写真】



発表の様子



発表の様子

【感想】

分野Ⅰ類では、農畜産業への愛情、農業経営や地域への熱い思いが伝わる発表が多く、農畜産業を知り好きになり、周囲の協力を得ながら課題解決に取り組んでいる様子がうかがえました。また、日々の学習等から農業を取り巻く環境の変化を自分なりに受け止め、高校生らしく将来への夢を描く内容が多かったです。

分野Ⅱ類では、どの発表も全国大会にふさわしい素晴らしい内容であり、高校生らしい視点や感性で国土保全や環境創造に取り組み、発表方法や態度も含めて、大変良かったです。

分野Ⅲ類では、地域資源の活用や地域振興という課題に対し、自らの経験や日頃の農業に関する専門教科をとおして学んだ事柄を活かし、高校生ならではの工夫や発想を持って実践している内容が多かったです。

【大会運営 農業：農業クラブ全国大会・農業鑑定競技】

岩手県立盛岡農業高等学校

【大会名】第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会
農業鑑定競技会

【日時】令和6年10月23日（水）

【場所】岩手県立花巻農業高等学校 体育館

【大会概況】

教科の学習や学校農業クラブ活動で身に付けた農業に関する知識・技術を活用し、鑑定・判定・診断・審査・計算等によって、その実力を競い合うことにより、職業人として必要となる実践的な資質・能力を高めることを目的とする。

（1）競技部門

- ①作物 ②野菜 ③果樹 ④草花 ⑤畜産 ⑥食品 ⑦森林 ⑧農業土木
⑨造園 ⑩生活

（2）参加者数

①全国

- ・作物 85名 ・野菜 203名 ・果樹 57名 ・草花 123名 ・畜産 103名
・食品 181名 ・森林 45名 ・農業土木 66名 ・造園 67名 ・生活 69名

②岩手県

| 部門 | 学校名 | 学科 | 学年 | 氏名 |
|------|----------|-------|----|-------|
| 作物 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 2年 | 濱 康貴 |
| | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 2年 | 高橋 一珠 |
| 野菜 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 3年 | 小笠原啓清 |
| | 大船渡東高等学校 | 農芸科学科 | 2年 | 馬内 絆 |
| | 千厩高等学校 | 生産技術科 | 3年 | 加藤 拓海 |
| 果樹 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 2年 | 菊地功士郎 |
| | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 2年 | 久保 真敏 |
| 草花 | 久慈東高等学校 | 総合学科 | 3年 | 乱場 結心 |
| | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 3年 | 庭 治晴 |
| | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 3年 | 菊池 悠華 |
| | 水沢農業高等学校 | 農業科学科 | 2年 | 藤井 笑那 |
| 畜産 | 盛岡農業高等学校 | 動物科学科 | 3年 | 久慈 渚紗 |
| | 花巻農業高等学校 | 生物科学科 | 2年 | 紺野 裕希 |
| 食品 | 花巻農業高等学校 | 食農科学科 | 3年 | 藤瀬心乃美 |
| | 盛岡農業高等学校 | 食品科学科 | 3年 | 古川 一護 |
| | 水沢農業高等学校 | 食品化学科 | 3年 | 國分 由衣 |
| 森林 | 盛岡農業高等学校 | 環境科学科 | 3年 | 佐々木琥珀 |
| 農業土木 | 花巻農業高等学校 | 環境科学科 | 3年 | 多田 咲嬉 |
| 造園 | 花巻農業高等学校 | 環境科学科 | 3年 | 関口 幹太 |
| 生活 | 盛岡農業高等学校 | 人間科学科 | 3年 | 川村 夏音 |
| | 花巻農業高等学校 | 食農科学科 | 3年 | 千田 心春 |
| | 遠野緑峰高等学校 | 生産技術科 | 3年 | 奥友 凜 |
| | 千厩高等学校 | 生産技術科 | 3年 | 小山 真未 |

③花巻農業高等学校、北上翔南高等学校の生徒が運営として参加

【大会運営 農業：農業クラブ全国大会・農業鑑定競技】

(3) 大会成績（優秀賞受賞）

| 部門 | 学校名 | 学科 | 学年 | 氏名 |
|----|----------|-------|----|-------|
| 果樹 | 盛岡農業高等学校 | 植物科学科 | 2年 | 菊地功士郎 |
| 草花 | 水沢農業高等学校 | 農業科学科 | 2年 | 藤井 笑那 |
| 畜産 | 盛岡農業高等学校 | 動物科学科 | 3年 | 久慈 渚紗 |
| 食品 | 盛岡農業高等学校 | 食品科学科 | 3年 | 古川 一護 |
| 森林 | 盛岡農業高等学校 | 環境科学科 | 3年 | 佐々木琥珀 |

【写真】



競技会場の様子



競技会場の様子



競技会場の様子



競技会場の様子

【感想】

各分野共通する問題として、「農業と環境」から出題され、内容も広範囲でしたが、自分の専門と異なる内容であっても、幅広く準備してきた様子が見られました。多くの選手が、日頃の学習成果を発揮して意欲的に解答しており、新規の分野が多いなか、積極的に解答する姿を見ることができました。また、難易度が高い問題にも果敢に挑戦し、諦めることなく解答しようとする姿が随所に見られました。どの分野も、普段の実習で得た知識が定着しており、実際に利用している器具や機械などの正答率が高かったです。

岩手県の選手たちも、日頃の成果を発揮し、5名が入賞することができ、次年度につながる大会となりました。運営に関しても、準備がきちんとされていました。

【大会名】第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会
平板測量競技会

【日時】令和6年10月23日（水）

【場所】花巻市総合体育館、日居城野運動公園

【大会概況】

教科の学習や学校農業クラブ活動を通して得た測量技術の成果を発表し、その実力を競い合い、職業的能力を高めることを目的とする。

（1）競技部門

平板測量競技

（2）参加者数

①全体 49組（49校、計179名）

②花巻農業高等学校 環境科学科4名

3年 小野寺 胡珀

2年 高橋 祐也、柳原 里音、橋本 大翔

③花巻農業高等学校、岩谷堂高等学校、盛岡農業高等学校が運営として参加

（3）大会成績

全国大会出場

【写真】



1次作業



2次作業



3次作業（三斜法）



3次作業（3辺法）

【感想】

作業動作にあたっては、どのチームも大きな声を出し、迅速に取り組んでいる様子が見られ、今大会に向けて練習を積まれてきた様子が伺えました。測距の際、巻尺が地面につかないように器械士も協力して測定することができました。また、ほぼすべてのチームが測量器具類を丁寧に取り扱いしているという印象を受けました。

雨が心配される中での大会運営でしたが、岩手県の運営補助員生徒は自分たちの仕事を理解し、責任感を持って行動することができました。

【大会名】第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会
家畜審査競技会（乳用牛の部）

【日時】令和6年10月23日（水）

【場所】くずまき高原牧場

【大会概況】

教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た家畜審査競技の成果を発表するとともに、専門的な能力を養うことを目的とし、乳用牛（雌成牛及び雌子牛）の体型審査を行う。

（1）競技部門・内容

審査する供試牛の状態と競技時間

| 区分 | 頭数 | 年齢 | 状態 | 競技時間 |
|-----|----|----------|--------|------|
| 雌成牛 | 4頭 | 3～5歳 | 搾乳中のもの | 20分 |
| 雌子牛 | 4頭 | 6～12か月未満 | 育成中のもの | 10分 |

（2）参加者数

①全国42名

②岩手県1名

盛岡農業高等学校 動物科学科3年 井上 夏桜

③盛岡農業高等学校、久慈東高等学校の生徒が運営として参加

（3）大会成績

全国大会出場

【写真】



競技の様子



競技の様子

【感想】

今大会は葛巻町をはじめ、一般社団法人葛巻町畜産開発公社や葛巻町同志会に全面的に協力を賜り、供試牛においてもレベルの高い牛を揃えていただき、全国大会としてレベルの高い家畜審査競技会を開催することができました。

選手たちは、家畜審査競技に参加するマナーが良く、熱心に審査に取り組み、牛を近くからだけでなく遠くからも比較し、実際に供試牛に触れて審査する姿に日ごろの学習活動の取組状況が伺えました。また、運営を担当した盛岡農業高校、久慈東高校の生徒たちは、大会に向けて多くの時間をかけて準備しており、スムーズに運営することができました。

【大会助成 農業：フラワーアレンジメント全国大会】

岩手県立大船渡東高等学校

【大会名】 第34回全国産業教育フェア栃木大会 さんフェアとちぎ2024
第23回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト

【日時】 令和6年10月26日（土）

【場所】 ライトキューブ宇都宮

【概要】 全国の専門高校生で学ぶ高校生が、フラワーデザインに関する知識と技術を活用し自らの考えを表現する力や創造性・芸術性を高め合い、新たな未来を切り拓く職業人としての資質を育むことを目的とする。

（1）テーマ 『Imagination』

※花材のうち、ムギもしくは麦わらストローのいずれかは必ず使用すること。

（2）参加人数 69名

（3）入賞者 本校なし

【写真】



<会場入口にて>



<競技中の様子>



<完成作品>

【生徒感想 農芸科学科3年 田中 愛子】

岩手県大会で銀賞を受賞し、全国大会に出場する機会をいただきました。大会前にたくさんの先生方からご指導いただき、花の配置・デザインなどを一緒に考えていただきました。全国大会では緊張しながらも今まで支えてくださったたくさんの方々に感謝して制作しました。また競技の様子がライブ中継され、運よく私も映ることができたため競技終了後に先生からとても良かったといってもらえて嬉しかったです。残念ながら入賞することができませんでしたが、楽しく作品を制作することができました。来年、私は社会人となります。高校生活の集大成として、全国大会に出場できたことは一生に残る良い思い出となりました。本当にありがとうございました。

【顧問感想】

本校選手は3年間コンテスト県予選に出場し研鑽を積んできた生徒であり、3年生になって念願の全国大会出場のを頂きました。限られた時間の中での練習となりましたが、大会では落ち着いて臨み自分の納得のいく作品作りができたようでした。入賞は叶いませんでしたが、生徒にとって貴重な経験を積むことができました。

【大会助成 農業：フラワーアレンジメント全国大会】

岩手県立花巻農業高等学校

【大会名】 第34回全国産業教育フェア栃木大会 さんフェアとちぎ2024
第23回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト

【日時】 令和6年10月26日（土）

【場所】 ライトキューブ宇都宮

【概要】 全国の専門高校生で学ぶ高校生が、フラワーデザインに関する知識と技術を活用し自らの考えを表現する力や創造性・芸術性を高め合い、新たな未来を切り拓く職業人としての資質を育むことを目的とする。

（1）テーマ『Imagination』

※ 花材のうち、ムギもしくは麦わらストローのいずれ必ず使用すること。

（2）参加人数 69名

（3）入賞者 銀賞 生物科学科3年 伊東愛生

【実施規則】

1 制作規定

- （1）支給された花材・資材・花器を使用し、テーマに基づいて作品を制作する。
- （2）テーマは、大会1ヶ月前を目処に大会ウェブページ上で発表する。
- （3）デザインは自由で、テーマに合う作品とする。
- （4）制作した作品についての説明文を、競技時間内に指定用紙に記入する。
- （5）支給された花材・資材・花器のすべてを使用する必要はない。
- （6）作品のサイズ規定は、大会1ヶ月前を目処に大会HP上で発表する。

2 花材・資材・花器及び用具

- （1）花材・資材・花器は、大会1ヶ月前を目処に大会HP上で発表する。ただし、花材については、当日、多少変更の可能性はある。
- （2）花材・資材・花器、ゴミ袋、花バケツは受付・問合わせ校で準備する。
- （3）競技会場へ持ち込むことができる用具は、次のとおりとする。
なお、同種の用具は、用途別や予備のため複数を持ち込んでもよい。

ア 出場者が必ず持参するもの

ハサミ、吸水性スポンジ用カッター類、シート（床用）、養生テープ、雑巾、
筆記用具

イ 出場者が必要と判断すれば持ち込んでもよいもの

ナイフ、ステープラー、メジャー、シート（机用）、裸ワイヤ（長さ・太さ自由）、
ワイヤ用カッター類、フローラルテープ（色・幅自由）、腕時計、エプロン、ハンド
タオル類、絆創膏、用具運搬用バッグ類、両面テープ（幅自由）

- （4）競技会場へ持ち込んではいけない用具は、次のとおりとする。

通信機器、電動工具類（腕時計を含まない）

【大会助成 農業：フラワーアレンジメント全国大会】

3 競技時間

- (1) 制作時間は 60 分以内とする。(説明文の記入、後片付けを含む)
- (2) 残り時間について、30 分前、10 分前、5 分前、1 分前を口頭で知らせる。

4 競技規則概要

- (1) 競技開始後は、花材・資材の交換、補充を原則として行わない。
- (2) 競技中は、用具の貸し借り・譲渡、アラーム類の使用、私語を禁止する。
- (3) ワイヤは、補強・セキュアリング・装飾に使用してもかまわない。
ただし、事前にフローラルテープを巻いた物・ワイヤを加工した物は持参してはならない。
- (4) 机上の片付けは、競技時間内で行う。
- (5) 使用しなかった支給花材・資材は、適切に扱う。
- (6) 作品制作が完了した場合であっても、競技終了までその場を離れてはいけない。
- (7) 非常事態が生じたときは、その場で挙手により合図し、係員の指示に従う。
- (8) 次の場合は、失格とする。

ア 支給された花材・資材、及び持込が認められた持参用具以外のものが作品に含まれる場合。

イ 他人の作品に何らかの損害を与えた場合。

ウ 競技時間終了後に作品制作を行った場合。

エ その他、競技規則に違反したとみなされる場合。

5 審査方法

フラワーデザインに関する専門的な知識・技術を有する有識者等 5 名により、作品内容及び作品制作の技術・態度について総合的に審査する。

6 表彰

金賞 1 作品、銀賞 2 作品、銅賞 2 作品、審査員奨励賞 5 作品とする。

テーマ『 Imagination 』

| | | |
|--|-----|----------------------|
| サイズ規定：机サイズ W180×D45 H（自由）cm幅員に収める | | |
| ＊ムギもしくは麦わらストローのいずれかは必ず使用すること。 ただし、自分のデザインに必要な本数のみ使用すれば良い。 | | |
| 公 表 花 材 | | |
| 花 材 名 | 数 量 | 備 考 |
| 八重ユリ | 2本 | 白（栃木県産） |
| バラ | 5本 | 赤3本とピンク2本（栃木県産） |
| SP バラ | 2本 | ピンク（栃木県産） |
| キンギョソウ | 3本 | （栃木県産） |
| カーネーション | 3本 | ピンク（栃木県産） |
| スプレーマム | 3本 | 黄（栃木県産） |
| グロリオサ | 2本 | |
| ヒペリカム | 3本 | |
| ウンリユウヤナギ | 2本 | |
| レザーファン | 5本 | |
| ユーカリ | 3本 | グニー（栃木県産） |
| ニューサイラン | 10本 | |
| ムギ | 20本 | ドライ・穂付き・長さは60～80cm程度 |
| シクラメンの葉 | 10枚 | 葉柄の長さは5～10cm程度 |

| | |
|--|-----|
| 花 器 | 備 考 |
| てづくり 株式会社 大橋新治商店 Plastic Pot 55-343 30.5×22×H17 グレー | 1個 |
| 資 材 | 備 考 |
| 吸水性スポンジ（アクアフォーム スタンダード） | 2個 |
| 麦わらストロー（15～25cm 程度） | 15本 |

＊入荷状況により花材の種類や本数が増減になる場合があります。



てづくり 55-343
30.5×22×17

ムギ 60～80cm 程度
＊写真は10本
＊茎の曲がり等あり・色むらあり



シクラメンの葉 葉柄は5～10cm 程度
写真は5枚



麦わらストロー
15～25cm 程度
＊写真は10本
＊色づきにばらつきあり



第23回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト 結果一覧

| 賞 | 学校名 | 学年 | 氏名 |
|------------|------------------------|----|--------|
| | 学科名 | | |
| 金賞 | 東京都立園芸高等学校 | | |
| | 園芸科 | 3年 | 小嶋 杏 |
| 銀賞 | 岩手県立花巻農業高等学校 | | |
| | 生物科学科 | 3年 | 伊東 愛生 |
| 銀賞 | 茨城県立水戸農業高等学校 | | |
| | 園芸科 | 3年 | 和田 侑莉亜 |
| 銅賞 | 栃木県立真岡北陵高等学校 | | |
| | 生物生産科 | 3年 | 中三川 慶樹 |
| 銅賞 | 熊本県立熊本農業高等学校 | | |
| | 園芸・果樹科 | 3年 | 中尾 優心 |
| 審査員 奨励賞 | 青森県立五所川原農林高等学校 | | |
| | 生物生産科 | 3年 | 能登谷 颯大 |
| 審査員 奨励賞 | 長野県佐久平総合技術高等学校 白田キャンパス | | |
| | 創造実践科 | 3年 | 山口 心渚 |
| 審査員 奨励賞 | 愛知県立安城農林高等学校 | | |
| | フラワーサイエンス科 | 3年 | 大川 愛可 |
| 審査員 奨励賞 | 佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス | | |
| | 生物科学科 | 1年 | 松見 海羽 |
| 審査員 奨励賞 | 沖縄県立北部農林高等学校 | | |
| | 園芸工学科 | 3年 | 比嘉 幸及華 |

※ 同賞の場合、名簿順で表記しています。

【大会助成 農業：和牛甲子園】

岩手県立盛岡農業高等学校

【大会名】第8回和牛甲子園

【期 日】令和7年1月16日（木）・17日（金）

【場 所】品川グランドホール 東京都中央卸売市場食肉市場

【大会概要】

将来の畜産業の担い手である高校生の就農意欲の向上を目的とし、全国の農業高校から畜産を学ぶ高校生と自分たちが育てた和牛が集まり、授業やクラブ活動の一環として取り組んでいる和牛飼育について発表し、成果となる枝肉の肉質を競い合う大会です。また、日本各地で同じ志を持つ「高校牛児」同士のネットワークを創出し、意欲と技術の向上を図るための情報交換や交流が行われるなど、貴重な機会も設けられています。

（1）競技部門及びその内容

①取組評価部門

体験発表会の発表を事前に動画で提出し、審査委員により50点満点で評価されます。

②枝肉評価部門

公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉格付規格に基づく肉質審査により出品牛の格付けが行われ、大会基準にあわせた50点満点で評価されます。

③総合評価部門

取組評価部門と枝肉評価部門の合計点数（100点満点）で最優秀賞が決められます。

（2）参加者数・氏名（全国及び自校）

①全国 40校

②岩手県立盛岡農業高等学校

| | | |
|-------|----|---------|
| 動物科学科 | 3年 | 久 慈 渚 紗 |
| 動物科学科 | 3年 | 坂 本 裡 音 |

（3）大会成績

総合評価部門 奨励賞受賞

【写 真】



高校牛児交流（グループ）



高校牛児交流（個人）



大会記念撮影ブース

【感 想】

本校では、和牛甲子園班6名が出品牛の飼育や体験発表会に向けた取り組みを行っています。今回の和牛甲子園大会には代表として2名が参加し、全国各地の工夫された飼育方法を実際に見聞きすることができ、大変有意義な大会参加となりました。来年度は取組評価・枝肉評価の2部門での入賞を目指し、日々の学習・飼育の指導にあたりたいです。

【キャリアアップ農業：フラワー装飾技能検定講習会】

岩手県立盛岡農業高等学校

【事業名】フラワー装飾技能検定講習

【期 日】令和6年7月6日（土）

【場 所】岩手県立盛岡農業高等学校 土・肥料実験室

【事業概要】フラワー装飾技能の技術を習得し、検定3級（国家資格）合格を目指します。
合格するための技術を習得するために20時間の受講を必要としています。
キャリアアップサポート事業は20時間のうち4時間（7/6（土））が対象です。
また、講習内容は、本資格を熟知している本県の第一人者である講師に一任しています。

（1）講師

（社）日本フラワーデザイナー協会 名誉本部講師 小綿 麻美子 先生

（2）受講者

受講者は検定受検者：2名 植物科学科3年 茅橋 結、澤村 奏良

（3）受講日程・場所

| 月日 | 時間 | 場所 |
|----------|------------------|------|
| 5月24日（金） | 11:20～16:05（4時間） | 講師教室 |
| 6月14日（金） | 11:20～16:05（4時間） | 講師教室 |
| 6月28日（金） | 11:20～16:05（4時間） | 講師教室 |
| 7月5日（金） | 10:50～15:35（4時間） | 本校 |
| 7月6日（土） | 13:00～17:00（4時間） | 本校 |

（4）検定日及び会場

実技試験 令和6年7月11日（木） 盛岡市中央卸売市場

筆記試験 令和6年7月14日（日） いわて県民情報交流センター（アイーナ）

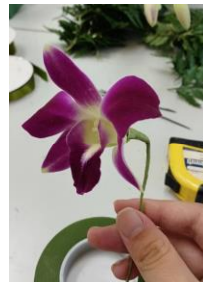
【写 真】



ブーケ作成中



アレンジ作成中



ブートニア作成中



実技試験会場にて

【感 想】

梅雨時期でもあり蒸し暑い中、冷房がない場所で講習を実施しました。生徒にとっては検定直前の講習であり、緊張感が漂う雰囲気の中本番を意識して取り組む姿が見られました。この講習を通して、時間内に3パターンの作品を仕上げる技術は確実に向上し完成度も増してきました。それでも生徒は不安な気持ちがぬぐえない様子でしたが、本資格を熟知している講師の先生からのアドバイスや技術指導のおかげで、実技試験並びに筆記試験を無事に終了することができました。検定者の進路は岩手県立農業大学校の花き経営科への進学を予定しています。農業大学校に進学後は本検定の2級取得を目標としており、今から意欲に満ちています。

【大会運営 工業：ロボット競技大会県予選】

岩手県立水沢工業高等学校

【大会名】令和6年度全国高等学校ロボット競技大会岩手県選考会

【日時】令和6年8月24日（土）

【場所】岩手県立水沢工業高等学校

【大会概要】 ロボット競技をとおして、仲間とともに「ものを作り、完成させる」喜びを体験する機会を与え、技術への関心と夢を育み、自発的な学習態度を育成する。また、この選考会は全国大会の予選と位置づける。

(1) 参加チーム

盛岡工業高等学校 盛工 F.A.S.T.

盛岡工業高等学校 盛工 ME2024

花北青雲高等学校 SCORPION

黒沢尻工業高等学校 KRK

水沢工業高等学校 水工紫魂

大船渡東高等学校 イーストシップ号

宮古商工高等学校 宮古商工高校工作部

(2) 大会結果

第1位 水沢工業高等学校 水 工 紫 魂

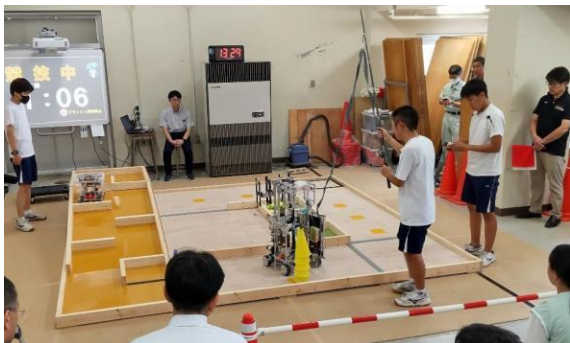
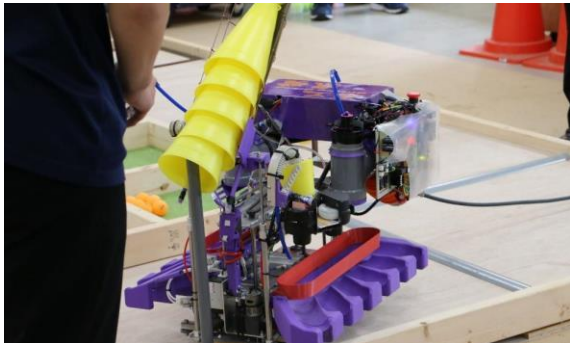
全国大会出場

第2位 盛岡工業高等学校 盛工 F.A.S.T.

全国大会出場

第3位 盛岡工業高等学校 盛工 ME2024

【写真】大会の様子



【大会運営の感想】 年々参加台数が減少する中で規模を縮小しての開催であったが、各校工夫を凝らしたロボットを披露し、開催目的に沿った有意義な大会となった。
開催にあたり頂いたご支援に感謝申し上げます。

【大会運営 工業：高校生ものづくり東北大会 化学分析部門】

岩手県立盛岡工業高等学校

【大会名】高校生ものづくりコンテスト 2024 東北大会（岩手大会）「化学分析部門」

【日時】令和6年7月19日（金）～20日（土）

【場所】岩手県立盛岡工業高等学校

【大会概要】

全国大会の目的に沿い、東北地区工業高校生の技術・技能の向上と相互交流を図る。東北地区の工業高校で学ぶ生徒のものづくりに対する関心意欲を喚起させ、ものづくりを担う人材育成の強化を図ることを目的とし、「高校生ものづくり推進事業」に基づいて「高校生ものづくりコンテスト 2024 東北大会」化学分析部門を開催する。また、本大会は高校生ものづくりコンテスト 2024 全国大会の選考を兼ねる。

(1) 競技部門

化学分析部門は、「キレート滴定法により試料水（2種類）のカルシウム及びマグネシウムの定量を行い、各試料水の硬度を求め、測定結果報告書を提出する」という課題で競技を行った。

(2) 出場選手

| 県 | 代表選手名 | 学 校 名 | 学 科 名 | 学年 |
|-----|-----------|-------------------------|-----------|----|
| 岩 手 | 伊 藤 美 羽 | 岩 手 県 立 盛 岡 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 3 |
| 岩 手 | 佐 々 木 結 衣 | 岩 手 県 立 盛 岡 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 3 |
| 宮 城 | 五十嵐 玲 実 | 宮 城 県 工 業 高 等 学 校 | 総 合 産 業 科 | 3 |
| 秋 田 | 佐 々 木 奨 眞 | 秋 田 県 立 由 利 工 業 高 等 学 校 | 材 料 化 学 科 | 3 |
| 山 形 | 戸 田 綾 奈 | 山 形 県 立 米 沢 工 業 高 等 学 校 | 環 境 科 学 科 | 3 |
| 福 島 | 村 上 絵 斗 | 福 島 県 立 勿 来 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 2 |

(3) 大会成績

| 順 位 | 代表選手名 | 学 校 名 | 学 科 名 | 学年 |
|-----|-----------|-------------------------|-----------|----|
| 第1位 | 村 上 絵 斗 | 福 島 県 立 勿 来 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 3 |
| 第2位 | 佐 々 木 奨 眞 | 秋 田 県 立 由 利 工 業 高 等 学 校 | 材 料 化 学 科 | 3 |
| 第3位 | 五十嵐 玲 実 | 宮 城 県 工 業 高 等 学 校 | 総 合 産 業 科 | 3 |
| 第4位 | 戸 田 綾 奈 | 山 形 県 立 米 沢 工 業 高 等 学 校 | 環 境 科 学 科 | 3 |
| 第5位 | 佐 々 木 結 衣 | 岩 手 県 立 盛 岡 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 3 |
| 第6位 | 伊 藤 美 羽 | 岩 手 県 立 盛 岡 工 業 高 等 学 校 | 工 業 化 学 科 | 3 |

【大会写真】



【感想】

11 月に開催される全国大会の運営を見据えて東北大会を実施した。審査は「作業態度」「技術度」「実験結果報告書」の 3 観点で行われ、中でも測定結果の値（精度）が最も重要であり、各選手は丁寧かつ手際の良い操作を行った。全国大会出場を決めた選手は、測定結果の精度が高く、報告書も素晴らしい出来栄であった。

審査員長の講評では、選手間の作業態度や技術度に差はほとんどなく、試料水硬度設定値に対する測定結果の僅かな差が勝敗を決したとのことだった。全選手が力を出し切り、素晴らしい大会となった。

【大会名】第24回高校生ものづくりコンテスト全国大会「化学分析部門」

【日時】令和6年11月9日（土）～10日（日）

【場所】岩手県立盛岡工業高等学校

【大会概要】

近年、若者の製造業離れが進み、ものづくりの技術・技能の継承が危ぶまれている。我が国の持続的発展を維持するためには、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者を確保し、育成することが急務である。

公益社団法人全国工業高等学校長協会（以下、全工協会という）では、各高等学校で取り組んでいる、ものづくりの学習効果の発表の場として、全国の高校生が一堂に会して、技術・技能を競い合う全国的な大会を企画し、過去22回実施した。

第12回大会より全国9地区を廻っての開催となり、今回は東北地区において、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量、溶接の8部門で実施する。

（1）競技部門

化学分析部門は、「キレート滴定法により試料水（2種類）のカルシウム及びマグネシウムの定量を行い、各試料水の硬度を求め、測定結果報告書を提出する」という課題で競技を行った。

（2）出場選手

| 地 区 | 代表選手名 | 学 校 名 | 学 科 名 | 学年 |
|-----|----------------------|------------------|----------|----|
| 北海道 | みやこし ともなり 宮 腰 知 斉 | 北海道旭川工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |
| 東 北 | むらかみ かいと 村 上 桧 斗 | 福島県立勿来工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |
| 関 東 | まえしま きさき 前 嶋 季 咲 | 神奈川県立神奈川総合産業高等学校 | 総合産業科 | 3 |
| 北信越 | たかみ さき 高 見 紗 希 那 | 石川県立小松工業高等学校 | 材料化学科 | 3 |
| 東 海 | たかはし すずね 高 橋 涼 音 | 愛知県立岡崎工科高等学校 | 環境科学科 | 3 |
| 近 畿 | ロメロ ビクトリア | 兵庫県立姫路工業高等学校 | 工業化学科 | 2 |
| 中 国 | こばやし なつき 小 林 夏 希 | 鳥取県立米子工業高等学校 | 環境エネルギー科 | 3 |
| 四 国 | いけだ いちろ 池 田 一 路 | 愛媛県立今治工業高等学校 | 環境化学科 | 1 |
| 九 州 | ながた きらり 永 田 煌 星 | 熊本県立玉名工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |
| 開催地 | いと う み う 伊 藤 美 羽 | 岩手県立盛岡工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |

【大会運営 工業：高校生ものづくり全国大会 化学分析部門】

(3) 大会成績（入賞者）

| 順位 | 代表選手名 | 学 校 名 | 学 科 名 | 学年 |
|-----|-------------------|--------------|-------|----|
| 第1位 | ロメロ ビクトリア | 兵庫県立姫路工業高等学校 | 工業化学科 | 2 |
| 第2位 | ながた きらり 永田 煌星 | 熊本県立玉名工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |
| 第3位 | むらかみ かいと 村上 桧斗 | 福島県立勿来工業高等学校 | 工業化学科 | 3 |

【 大会写真 】



【 感 想 】

全国大会出場を果たした選手のレベルは高く、競技会場は緊張感のある雰囲気にも包まれた。審査は「作業態度」「技術度」「実験結果報告書」の3観点で行われ、中でも測定結果の値（精度）が最も重要であり、各選手は丁寧かつ手際のよい操作を行った。競技終了間際まで時間をかけて作業する選手も見られたが、全選手が制限時間内に無事終えることができた。

審査員長の講評では、選手間の作業態度や技術度に差はほとんどなく、試料水硬度設定値に対する測定結果の僅かな差が勝敗を決したとのことだった。全選手が力を出し切り、素晴らしい大会となった。

【大会助成 工業：全国高校ロボット競技大会】

岩手県立水沢工業高等学校

【大会名】第32回 全国高等学校ロボット競技大会 栃木大会

【日時】令和6年10月26日（土）から10月27日（日）

【場所】日環アリーナ栃木（栃木県宇都宮市）

【大会概要】 全国の専門高校等で学ぶ高校生が、ロボット競技大会への参加を目指し、仲間と協力しながら新鮮な発想で工夫を凝らし、創造力を発揮してロボットを製作する。また、その取組の過程をとおして、ものづくりの技術・技能を習得し、次世代を担う技術者としての資質を向上させることを目的とする。

（1）競技概要

競技時間は3分間。競技は、とちまるくん（リモコン型ロボット）とルリちゃん（自立型ロボット）により、各種アイテムを指定されたエリアに設置する。また、「とちまるくん」・「ルリちゃん」の連携によりアイテムの輸送、受け渡しをおこなうことで得点し、その合計を競うものである。

（2）出場台数

全 国：96チーム

本 校：ゼッケン7番 すいこうしこん [水工紫魂]

（3）大会成績

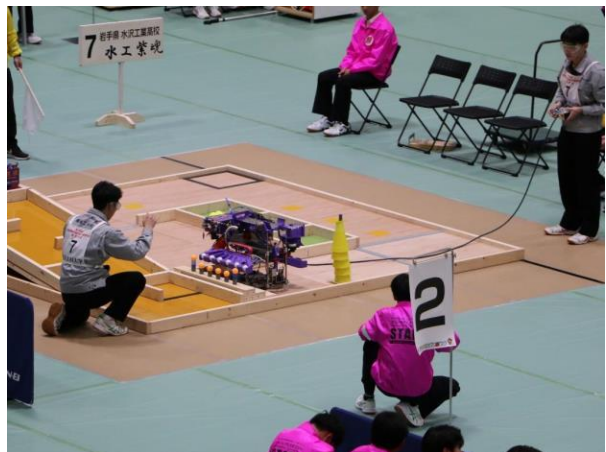
予 選：17位／96チーム（準決勝進出）

準決勝：28位／32チーム（準決勝敗退）

【写 真】



（開会式の様子）



（競技の様子）

【感想】 部員12名がよく協力し合い、ロボットの性能を余すところなく引き出した立派な競技でした。決勝進出とはならなかったものの、待機時間に他校の生徒と積極的な情報交換や交流があり、次年度に向けて大変有意義な大会となりました。これまでのご支援に感謝申し上げます。

【大会助成 工業：全国高校ロボット競技大会】

岩手県立盛岡工業高等学校

【事業名】 第34回全国産業教育フェア栃木大会
第32回全国高等学校ロボット競技大会栃木大会

【日時】 令和6年10月26日(土)、27日(日)

【場所】 日環アリーナ栃木

【大会概要】 全国の専門高校等で学ぶ生徒が、ロボット競技大会への参加を目指し、仲間と協力しながら新鮮な発想で工夫を凝らし、創造力を発揮してロボットを製作する。

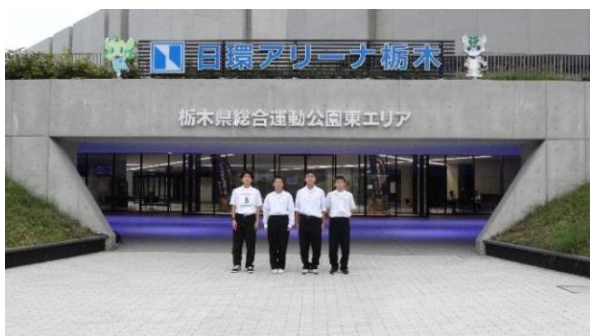
また、その取組の過程を通して、ものづくりの技術・技能を習得し、次世代を担う技術者としての資質を向上させる。

(1) 参加チーム 96チーム

(2) 参加者 3年 相澤 陵太、佐々木 健斗、舘澤 悠馬、晴山 雄太

(3) 大会結果 優勝 長野県駒ヶ根工業高等学校
機械科 予選 71 位

【写真】



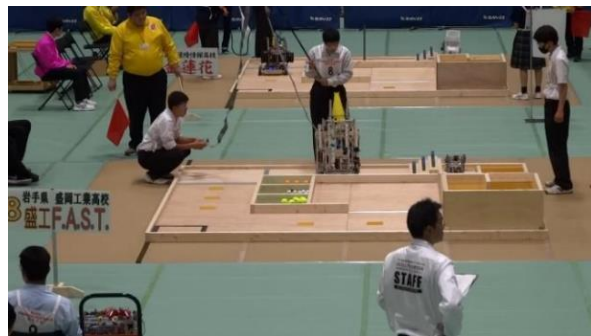
会場入口



競技 1



競技 2



競技 3

【生徒感想】

全国から参加している 96 チームのロボットは、動作の機構や操作するコントローラも様々で、とても参考になりました。上位チームのロボットは移動がとても早く、アイテムの設置動作もスムーズでした。

競技結果は、リモコンロボットは得点を取ることができましたが、自律ロボットが故障してしまい得点を増やせず、予選を通過することができませんでした。メンバーで協力して製作作業や練習を行ってきたので残念でした。

競技の間に他チームの選手達と交流することが出来てとても良い経験ができました。

【事業名】土木科1年生 GNSS 測量講習会

【日時】10月9日(水)

【場所】盛岡工業高等学校 ラグビー場(8測点)、陸上競技場(8測点)、測量実習室

【事業概要】GNSS(衛星測位システム)による測量について、実際に現場で使用されている測量器械に触れることにより、GNSS測量の仕組みを理解し、「測量士・測量士補」の資格取得に向けた知識理解の向上を図る。

また、ドローンを使った測量について学び、現場に即した測量の理解を深める。

(1) 講習会の内容

測量用人工衛星から送信されるデータを受信して、観測点の緯度経度を測定する。本実習では、VRキネマテック法として仮想基準点をダウンロードして精度を高めた。

ドローンの操縦や活用方法について実技と座学をとおして、ICT技術を習得した。

(2) 参加者数 土木科1年生36名と土木科職員8名

(3) 参加者の様子・感想等

北日本測機株式会社様からの御協力を得て、土木科1年生はGNSS測量の実習を行いました。生徒の皆さんは、臆することなく手際よく観測を実施することができました。VRキネマテック法は観測時間も5分以内と短く、生徒たちはその速さと精度の高さに驚いていました。最新の人工衛星を利用した実習は今年で11年目を迎えます。実習後は、座学の中でドローンの空撮やドローンを活用した測量技術などを学びました。

本講習会の実施にあたりましては、岩手県産業教育振興会キャリアアップサポート推進事業から支援をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

【写真】

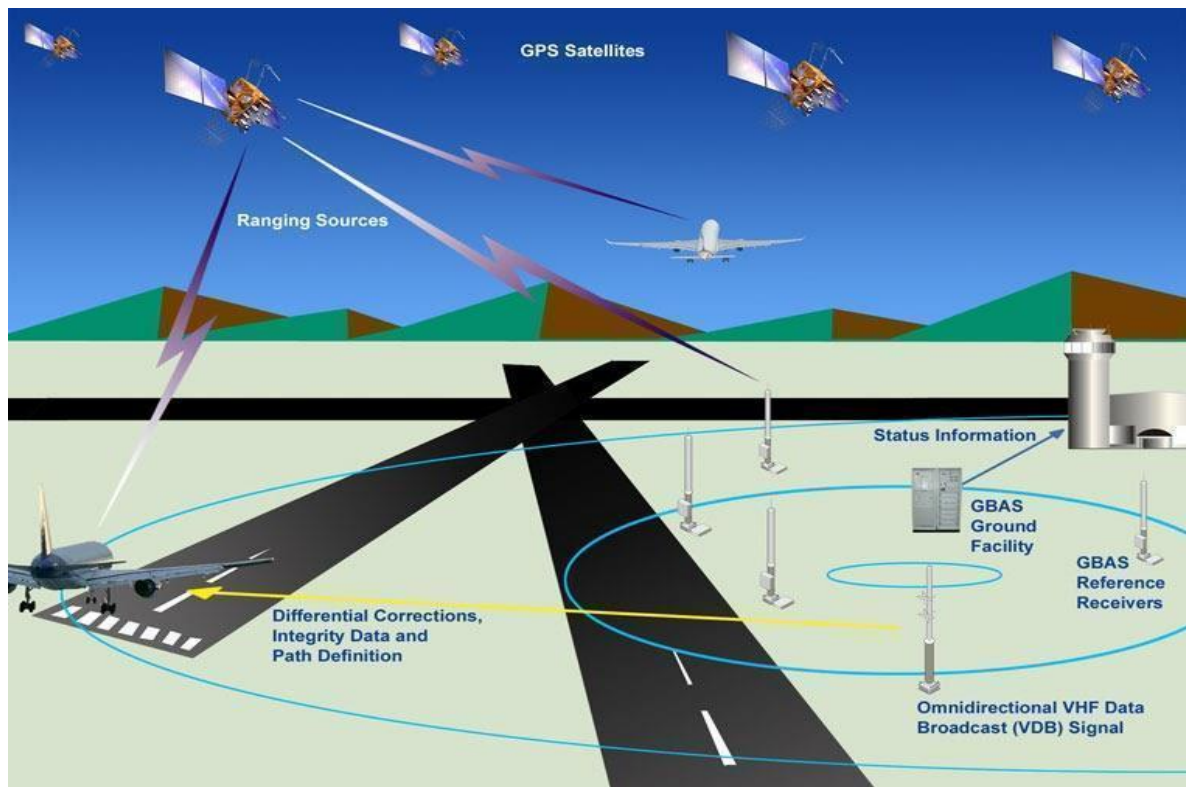


(事業風景等1) 受信機の設営と観測



(事業風景等2) ドローン操縦の説明

【キャリアアップ 工業：GNSS 測量講習会】



[この写真](#) の作成者 不明な作成者 は [CC BY-NC-ND](#) のライセンスを許諾されています

【キャリアアップ 工業：化学の出前授業】

岩手県立盛岡工業高等学校

【事業名】工業化学科 化学の出前授業

| | | |
|----------------------|--------|------------------|
| 【日時・場所】令和6年10月18日（金） | 煙山小学校 | 科学クラブ（4, 5, 6年生） |
| 11月5日（火） | 矢巾東小学校 | 以下同上 |
| 11月21日（木） | 飯岡小学校 | |

【事業内容】液体窒素を使った実験の体験

実験の指導をする高校3年生(4～5名)に対し、材料と器具等の確認および予備実験を行うことでスムーズかつ安全に実験が進むように準備した。

当日は各テーブルに実験器具を配置し、小学生を4～5人を1グループとし、5班に分けて実施した。最初に、液体窒素の説明を行い空気中から液体の酸素を取り出す実験を行った。次に、各テーブルごとに分かれライデンフロスト効果などの液体窒素に触れる実験や、空気から液体になった酸素を取り出す実験を体験した。

液体窒素は取り扱いに注意が必要なため、安全や取り扱いには十分に配慮した。液体窒素を使い酸素を取り出す実験で、酸素が線香を激しく燃焼させる様子を見て小学生から大きな歓声があがっていた。また、ゴムボールを凍らせる実験では凍ってカチカチのゴムが柔らかく戻っていく様子や、もやしガラス細工のようにくだける事に大きく興味を持っていた

【写真】



小学生は普段テレビや教科書でしか教わらない液体窒素の実験を、直接触ったり目の前で自分たちの手で実験することができ、化学の面白さに興味を持ってくれたと感じた。今回出前授業に参加した高校3年生は普段の「教わる側」から、「教える側」になることで教えることの難しさを実感しながらも、コミュニケーションスキルを養う絶好の機会であった。

今後も化学の楽しさや不思議さを伝える機会として継続してこの事業を行っていきたいと考えています。

【事業名】令和6年度岩手県立種市高等学校開放講座

ヘルメット式潜水体験講座（海洋教育促進事業）

【日時】6月15日（土）

【場所】本校潜水プール

【事業概要】本校の人的・物的資源を地域社会と共有・連携することにより、積極的に本校の特色・魅力を広く伝え、入学生の確保に努める。

（1）地域住民を対象にヘルメット式潜水体験講座を行い、潜水機材の説明と取扱い、装着練習、潜水体験等を実施した。

（2）参加者数7名

（3）参加者からは以前文化祭で潜水体験をしたことがあり、久しぶりにヘルメット潜水ができ有意義であった等の感想があった。

【写真】



（事業風景等1）



（事業風景等2）

【生徒または引率者の感想等】

以前に文化祭でヘルメット式潜水を体験した方が、リピーターで今回も参加していただきうれしく思います。今後もスキューバ式潜水体験、水中溶接体験、第2回ヘルメット式潜水体験を通して潜水の魅力を発信していきたいと考えています。

【キャリアアップ 工業：小中学校への出前授業】

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【事業名】北上市内小中学校への出前授業【飯豊中】

【日時】令和6年10月30日（水）

【場所】北上市立飯豊中学校

【事業概要】高校生が実験を指導することにより、中学生の工業高校に対する興味関心を高める。

（１）出前授業の内容

授業テーマを、機械科「機械ってなに？」、電気科「電気は生活で欠かせない」、電子科「電子制御」、電子機械科「機械の制御とは」、土木科「水質浄化と液状化の実験」、材料技術科「化学の不思議」として実験を行いました。中学生は3学科を選択し体験しました。

（２）参加者数

飯豊中学校：2年生103名、黒沢尻工業高校：3年生49名

（３）参加者の様子・感想等（中学生の感想）

- ・わかりやすいスライドで科の魅力、黒工の魅力をたくさん教えていただくことができ良かったです。
- ・静電気の実験や燃焼実験などがとても楽しかったです。
- ・材料技術科の液体窒素の実験が一番すごかったです。
- ・土木の液状化の実験や、電子のタイマーの実験が面白かったです。

【写真】



【感想】（指導者の感想）

- ・出前授業をととして、生徒は発表内容に対して真摯に取り組み、試行錯誤しながらも、中学生にとって分かりやすい授業を展開することにより、主体性や協調性が身に付きました。
- ・準備や授業をととして、思考力が高まり共同作業によりコミュニケーション力も向上しました。自分の母校の後輩たちに対して堂々と説明している姿に、中学校の先生からも高い評価をいただきました。

【キャリアアップ 工業：施設見学会】

岩手県立水沢工業高等学校

【事業名】 令和6年度岩手県立水沢工業高等学校インテリア科2年施設見学

【日時】 令和7年1月28日（火）

【場所】 こども本の森 遠野

たんぽぽこども園移転新築工事（佐々木組）一関

【事業概要】

（1）こども本の森の施設見学

たんぽぽこども園移転新築工事（佐々木組）一関見学

（2）岩手県立水沢工業高等学校インテリア科2年 39名

【写真】（事業の様子がわかる写真）



事業風景等

【引率者の感想】

こども本の森の施設見学では、この施設ができた経緯を遠野市役所環境整備部の方から説明を受け、建築家、安藤忠雄先生からの寄贈という形となっていることを知る。また、内部を見学し、今後のインテリア、デザインの参考としました。

たんぽぽこども園移転新築工事見学では建築途中の実際の現場を見ることにより、建築物の構造や工程などを学習しました。進路意識の向上にも影響したと思われます。

【大会助成 商業：全国高等学校簿記競技大会】

岩手県立水沢商業高等学校

大会名 令和6年度 第40回全国高等学校簿記競技大会

期 日 令和6年7月24日（水）

場 所 千葉商科大学

大会概要

（1）内容

競技は前半（第1部）、後半（第2部）それぞれ45分で行われ、第1部は仕訳と帳簿の問題、第2部は計算と決算の問題となっている。

出題範囲は「簿記」「財務会計Ⅰ」「原価計算」に関するすべての内容とされ、正確に、迅速に、整然と記帳・処理されているかを審査基準に従って審査し総合得点で成績が決定される。

（2）参加者数

- ・団体代表は各都道府県1校
出場団体総数 47校
- ・個人代表は各都道府県の団体代表校以外の会員校から2名以内、
出場選手総数 231名

（3）結果

団体 23位／47校

個人 62位／231名 90位／231名 106位／231名

写 真



開会式



会場入り口

所感（引率者）

県大会とは違う会場の広さ、選手の多さなど、全国大会独特な雰囲気の中、本校の選手は緊張しながらもお互い声を掛け合いながら、普段の実力を発揮できるよう冷静さを保ちながら最後まで臨むことができた。

前年度と比べて全体の平均点が下がり、難易度が上がった問題に苦戦しながらも本校の選手は全員が平均点以上の得点を取り、取り組んできた成果を発揮した。入賞には至らなかったが、活動を通して団結を深め、この大舞台の経験が今後の人生の糧となるような貴重な経験であったと感じる。

【大会助成 商業：全国高等学校簿記競技大会】

岩手県立宮古商工高等学校

【大会名】 令和6年度第40回全国高等学校簿記競技大会

【日時】 令和6年7月24日（水）

【場所】 千葉商科大学

【大会概要】 岩手県大会で個人第3位に入賞し、岩手県代表として参加

競技 第1部 45分

第2部 45分

出場校・選手 団体の部47校

団体の部を含む個人231名参加

【大会成績】 個人127位 岩手県立宮古商工高等学校 中村 暖来



「令和6年度 第40回 全国高等学校簿記競技大会の報告」

【感想等】

私は得意な簿記で自分がどこまでできるのか試してみようと同好会に所属し、授業や放課後の時間を使い努力を続けてきました。県大会競技後、手応えがなく自信がなかったため、結果発表で名前を呼ばれた時はとても驚きました。私は弓道部にも所属しており、弓道でも大事な時期だったため、放課後の時間を有効活用し弓道と簿記を両立して全国大会に臨みました。

県大会では出場人数が30人ほどの中、団体の仲間たちと出場したため気楽に居られましたが、全国大会では慣れない場所で250人以上の参加者が居たため比べ物にならないくらい緊張しました。競技前に練習している人の電卓を打つ音がより緊張感を高めていて、とても空気が重く変に体が強張った状態で本番を迎えることとなりました。確実に点を取るために対策を立て過去の問題をたくさん解いてきましたが、過去問でも見たことのないような問題で難易度が高く良い結果は得られませんでした。しかし、時間いっぱい問題に向き合い最後まで諦めず最大限力を発揮しようと挑戦することができたので、とても良い機会になりました。

今回の大会を通して上には上がいて自分の知っている世界は狭いことを実感しました。私は高校卒業後、税理士を目指して専門学校に進学したいと考えています。そのため今以上に簿記の勉強に力を入れ、進路実現できるよう精進したいと思います。

【大会助成 商業：全国高等学校簿記競技大会】

岩手県立盛岡商業高等学校

【大会名】商業教育140周年記念 令和6年度 第40回全国高等学校簿記競技大会

【日時】令和6年7月24日（水）

【場所】千葉県 千葉商科大学

【大会概要】(1) 競技

第1部（45分） 第2部（45分）

(2) 参加者 団体47校 個人275名

(3) 大会成績

個人の部 今松 流維（3年） 49点 第180位

【写真】



【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】

本生徒は運動部と商業研究部の両立を果たしながら、個人の部で全国大会に出場しました。過去に出題された問題を中心に練習を積み重ねましたが、全国大会の問題は難易度が高く、時間内に全ての範囲を終わらせることができず課題を残しました。特に第2部は出題の傾向が変わってきており、様々な出題を想定しながら対策が必要だと感じました。次年度は団体での全国大会出場及び入賞を目指し、基礎・基本から取り組みたいと考えています。この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

【大会助成 商業：全国高等学校情報処理競技大会】

岩手県立盛岡商業高等学校

【大会名】商業教育 140 周年記念 令和 6 年度第 36 回全国高等学校情報処理競技大会

【日時】令和 6 年 7 月 14 日（日）

【場所】千葉県 千葉商科大学

【大会概要】(1) 競技

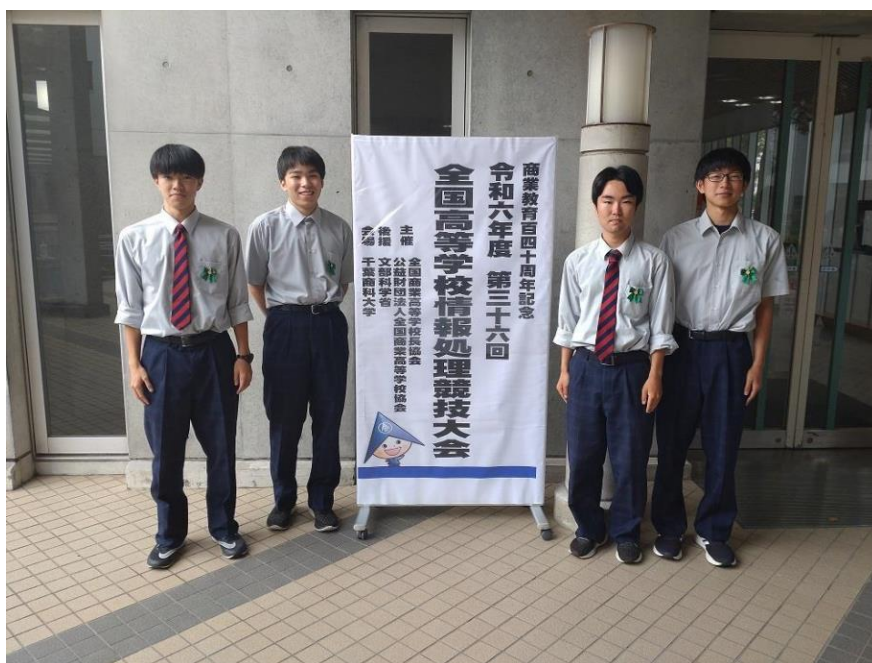
第 1 部（40 分） 第 2 部（40 分）

(2) 参加者 団体 47 校 141 名 個人 90 名 計 231 名

(3) 大会成績

団体の部 第 25 位

【写真】



【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】

本県の団体代表校として正選手 3 名、補欠 1 名の生徒を引率し大会に出場してきました。結果は団体の部で 25 位と、全国大会での入賞はできませんでした。昨年より出題傾向が変わり、教科書の内容のみならず、国家試験に出題されるような知識も多く出題されるようになってきました。問題演習を数多くこなし、来年度は入賞できるように、また生徒とともに頑張っていきたいと思います。

この度は、助成いただき大変ありがとうございました。

【大会助成 商業：全国高等学校情報処理競技大会】

岩手県立水沢商業高等学校

【大会名】 全国商業高等学校長協会主催 全国高等学校情報処理競技大会

【日時】 7月14日（日）

【場所】 千葉商科大学

【大会概要】

（1）目的

情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施するもの。

（2）出題範囲

全商情報処理検定試験1級程度の出題範囲とし、出題は次の2部門とする。

第Ⅰ部 関連用語とデータベース（40分）

第Ⅱ部 表計算とアルゴリズム（40分）

（3）競技方法

筆記試験による個人の得点を基準とし、団体賞及び個人賞を決定する。

（4）参加者数

団体の部 47校（各都道府県代表校） 個人の部 231名

（5）本校参加生徒および成績

個人の部 第91位 情報システム科3年 安倍 悠起（あんばいゆうき）

【写真】



【参加生徒所感】

私は、昨年度の2年次から情報処理選抜として岩手県情報処理競技大会に参加しました。昨年度の成績は個人7位。全国大会出場は叶わず、来年度は必ず全国大会に出場するという強い気持ちを覚えました。そして本年度の岩手県予選、高い目標を持った8名で臨みました。勝手ながらプレッシャーを感じ、結果が出るまで不安でご飯も喉を通りませんでした。そして結果発表の時、個人2位で全国への切符を掴むことができ嬉しさが込み上げました。後輩たちに大きな背中を見せることができたと感じています。その後全国大会への勉強に着手しましたが、あまりの難易度の高さに何度も頭を抱えました。それでも、全国という舞台で結果を出したい気持ちと、友人や先生方からの応援を胸に勉強に励みました。全国大会本番では、新しい傾向の問題が多く苦戦しましたが、上手く点数を重ねることができました。結果は、目標にしていた50位には届かず悔しい気持ちも残りましたが、今までの積み重ねた努力と経験は、何にも変えられない貴重なものになったと感じています。

【大会助成 商業：全国高等学校情報処理競技大会】

岩手県立花北青雲高等学校

- 1 大会名称 令和6年度第36回全国高等学校情報処理競技大会
- 2 実施日 令和6年7月14日（日）
- 3 会場 千葉商科大学
- 4 目的 情報処理教育の振興を図る事業の一環として
- 5 大会概要
 - I部 関連用語とデータベース（100点）
 - II部 表計算とアルゴリズム（100点）
- 6 参加生徒
 - 3年ビジネス情報科 牛崎 美琴
- 7 大会結果
 - I部 41／100点 II部 18／100点
 - 59点／200点 順位 161位／231名
- 8 写真



競技会場案内



大会看板前にて

9 感想

競技問題は、どうやって差をつけさせるかを考えて作成されており、全体的に難易度の高い問題が多かったようです。今年度の平均点は76.1点（第I部48.9点・第II部27.2点）でした。これまで大会に向けて取り組んで得られた知識と経験を発揮しようと、本人は全力で問題に挑戦しました。今回参加して得られたことを今後の人生に生かして欲しいと願っています。

【大会名】 令和6年度全国高等学校ビジネス計算競技大会

【日時】 令和6年7月30日（火）

【場所】 横浜武道館

【大会概要】 ビジネス計算の技術向上を目指す

（1）出場部門

珠算競技 団体の部

普通計算（乗算、除算、見取算）、応用計算の合計点で競う

（2）参加者数 227名（珠算の部）

本校参加生徒 大澤 歩佳 松島 佳那 牛崎 眞子

（3）大会成績

個人順位 126位 松島 佳那

168位 大澤 歩佳

183位 牛崎 眞子

【写真】



【感想】

1、2年生での参加となりました。初めての大きな会場での大会で緊張していましたが、競技が始まると集中して競技に臨むことができました。

思うような結果にはなりませんでした。今回の全国大会の経験を活かし、今後の活動に意欲的に取り組みたいと思います。

ご支援ありがとうございました。

【大会助成 商業：全国高等学校ビジネス計算競技大会】

岩手県立宮古商工高等学校

【大会名】 令和6年度第71回全国高等学校ビジネス計算競技大会

【日時】 令和6年7月30日（火）

【場所】 横浜武道館

【大会概要】 岩手県大会で上位入賞し、岩手県代表として参加

競技（電卓の部）（1）団体および個人総合競技

（2）種目別競技 ①応用計算競技 ②読上算競技

出場校・選手 団体の部47校

団体の部を含む個人235名参加

【大会成績】 個人54位 岩手県立宮古商工高等学校 島貫 あやり

個人70位 岩手県立宮古商工高等学校 伊藤 美遥

【写真】



【感想等】

私は「県大会で団体1位を取り、全国大会に出場すること」を目標に、仲間と協力して日々の練習を頑張ってきました。全国大会に出られると決まったときは驚きと同時に、不安な気持ちが大きかったです。しかし、少ない時間で県大会以上に仲間とともに練習を重ねたことで自信を持って全国大会にも臨むことができました。全国大会は自分よりも遥かにレベルの高い選手ばかりで、緊張もしましたが、身近で凄さを感じられることに楽しみな気持ちもあったため、落ち着いて挑むことができました。（伊藤美遥）

【大会助成 商業：全国高等学校ビジネス計算競技大会】

私は、3年間商業同好会に所属し、電卓のスキルを磨いてきました。しかし、本番ではうまく練習の成果が出せないことが続き、昨年の新人戦では、共に練習をしてきた仲間たちが東北大会に進む中私だけ県予選を突破できず、とても悔しい思いをしました。その気持ちをバネに最後の県大会では、団体1位通過を目標とし、チーム全員で協力し支え合いながら頑張りました。団体1位通過はできませんでしたが、私個人では、初の全国大会出場が決定し、諦めなくて本当に良かったと感じました。そして、全国大会本番では、レベルの違いを目の当たりにすることになりました。しかし、個人的には、目標としていたビジネス計算の点数を取れたこと、間違いが少なかったこと、なにより県では負けてしまった盛岡商業の選手よりも高い点数が取れたことが嬉しかったです。諦めず努力を続けることで、結果につながるということを同好会での活動を通し学ぶことができました。この学びを今後の就職活動や学生生活に活用していきたいです。（島貫あやり）

【大会助成 商業：全国高等学校ビジネス計算競技大会】

岩手県立盛岡商業高等学校

【大会名】商業教育 140 周年記念 令和 6 年度 第 71 回全国高等学校ビジネス計算競技大会

【日時】令和 6 年 7 月 30 日（火）

【場所】神奈川県 横浜武道館

【大会概要】1 競技

(1) 団体および個人総合競技（普通計算・応用計算）

(2) 種目別競技

ア 応用計算競技

イ 読上算競技

2 参加者 団体 47 校 個人 235 名

3 大会成績

団体総合競技 第 26 位

個人総合競技 中森 陽南（3 年） 第 80 位

田口 遥陽（3 年） 第 106 位

木下 月渚（3 年） 第 111 位

【写真】



【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】

現 3 年生は令和 5 年度第 50 回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会において初の団体優勝を成し遂げたメンバーであり、全国大会入賞が期待されましたが、残念ながら、目標にしていた 2 年連続の入賞を果たすことができませんでした。しかし、ここに至るまで、多くの時間を練習に費やし、持てる力を全て出し切ることができたと思います。

次年度は、今年度を上回る成績を残せるよう継続して練習に取り組みたいです。全国大会出場を通じて、成果と次年度に向けての課題を見つけることができ、大変貴重な機会となりました。この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

【大会助成 商業：全国高等学校ワープロ競技大会】

岩手県立花北青雲高等学校

【大会名】令和6年度第71回全国高等学校ワープロ競技大会

【日時】令和6年8月1日（木）

【場所】東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館

【大会概要】商業に関する知識や技術・技能を高める。

（1）競技部門及びその内容

速度競技（制限時間10分間）

（2）参加者数・氏名

出場校（団体） 47校 出場選手（団体＋個人） 235名

花北青雲高校 ビジネス情報科 阿部龍明、田村滯央

（3）大会成績

個人 第169位 田 村 滯 央（2年） 1,229字

第184位 阿 部 龍 明（3年） 1,144字

【写真】



（大会会場）



（前日練習）

【感想】

県大会後、練習不足の部分もありましたが、気持ちを切らすことなく地道に練習を重ねたことで技術を高めることができました。

大会前日での練習では、トップレベル選手の技術を目の当たりにして気持ちが落ち込んでしまうこともありましたが、本番では機械トラブルもなく落ち着いて競技に臨むことができました。結果は誤字が多く、満足した成績とはなりませんでした。選手は力を出し切りました。全国大会出場にあたり、多くの方々の御支援と御協力を頂いたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

【大会助成 商業：全国高等学校英語スピーチコンテスト】

岩手県立宮古商工高等学校

【大会名】令和6年度第41回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト

【日時】令和6年9月15日（日）

【場所】全商会館（東京都）

【大会概要】岩手県大会でレシテーションの部で優勝し、岩手県代表として参加
競技 スピーチの部・レシテーションの部で分かれて実施
原稿を見ずに、3分程度での発表

【大会成績】Recitation の部 出場 岩手県立宮古商工高等学校 山岸 聖恋
※入賞者以外の成績発表なし



「令和6年度 第41回全国商業高等学校英語スピーチコンテストの報告」

【感想等】

私は2年生のときの悔しさを晴らすために今回も英語スピーチコンテストに挑みました。その結果、全国大会に出場することができ、その場で名前を呼ばれることはありませんでしたが貴重な体験をすることが出来ました。

県予選ではレシテーションの部、スピーチの部共に出場者が20人もおらず、また、会場も暗かったためスムーズにスピーチすることができましたが、全国大会の会場には全都道府県から生徒が来ているためレシテーションの部だけでも47人、加えて保護者の方や審査員もいたため約70～80人近くの前でスピーチする必要がありました。会場内も明るいままだったため、県予選のときと比べてかなり緊張しました。その中でも練習したことを活かして会場の方々にスピーチが届くよう、頑張りました。結果、私の名前が出ることはありませんでした。しかし、全国大会という大きな場に出場することができて良かったと思います。

今回の大会で、全国大会のレベルの高さと自分がそのレベルにまだ達していないことを実感しました。また、他の県の生徒との関係も作ることができました。この経験を活かして、これからの生活でもいろいろなことに挑戦していきたいです。

【事業名】新入社員教育研修会

【日時】令和6年7月26日（金）9：00～12：00

【場所】岩手県立大東高等学校 1年C組教室

【事業概要】

情報ビジネス科1年生に、ジョブカフェセンター長の今野馨様から「社会人として求められるマナー」について、マナーの必要性和就職した後を考えて今から取り組んでもらいたいこと等をご指導いただきました。

長島製作所代表取締役社長の新宮由紀子様から「経験から学ぶ仕事の在り方」についての講演をいただきました。ご自身のご労苦を交えたお話しに耳を傾けていました。

【写真】



金野センター長の自分に向き合う姿勢の大切さについて語る姿。



新宮社長の生後3か月の子供を背負いながらもトヨタの下請けとして頑張ったことを語る姿。

【生徒の感想から】

- ①自分だったらできるかと常に考えながら新宮社長の言葉を噛みしめてみた。自分も努力を惜しまない人間になりたいと思った。（女子）
 - ②新宮社長のような人の下で働いてみたいと感じました。（男子）
 - ③トヨタの社長からも認められる新宮社長はすごいなと思った。（男子）
- 等有意義だという感想が多く見られました。

【事業名】POP作成講習会

【日時】令和6年7月29日（月）10：00～12：00

【場所】岩手県立大東高等学校 産振棟1階 簿記実習室

【事業概要】

情報ビジネス科2年生に、KPOP代表の菊池勝也様をお招きして、お客様に響くPOPの書き方について指導を受けました。文字を強調するために必要に応じて省略したり、丸い箇所を太く大きめに書いたりすることで、味わいのある文字になるなど、幅広くご指導いただきました。

【写真】



講義の様子：POPの魅力を語る講師の様子



実習の様子：バランスの良いPOPが書けるようになった

【生徒の感想】

POP講習会と聞き、ドンキホーテのようなポスターをパソコンで作成するのだと思っていましたが、手書きで作成することに、時代遅れだと初めは感じていました。ペンの使い方とA4版の用紙にすらすらと書く講師の姿に、すごいなという感想をもちました。ひらがなやカタカナ、漢字や数字といった文字の練習をしているうちに、こんなに簡単なのだと気が付きました。私は将来デザイン関係の仕事を志望しているので、今回の講習会がとても有意義に感じることができました。（中略）黒の細いペンの役割と、赤の太いペンの役割があることを知り、確かにスーパーで見たことがあるなあと感じました。この講習をいかしてチャレンジショップなどの販売時に、手書きのPOPでお客様を魅了したいと考えました。本日はありがとうございました。（女子）

本日の講座大変ありがとうございました。文字を書く場合手首を動かすのが当たり前となっていたため、最初にしたものはとっても雑だったと感じました。先生の指導で、肘を動かすように書くといわれて、初めは戸惑っていましたが、確かにペンの太さを統一するには必要だと思いました。練習していく中で、なんとなくコツが見えてきた気がします。本来であれば3時間学ぶ内容を2時間でまとめておこなってもらい、もっと時間があればと感じた講座でした。マーケティングの授業でコトポップやモノポップなども学んだので、価格だけのポップではなく、お客様に感動を伝えるポップを書いてみたいと思いました。（男子）

【事業名】 チャレンジショップ

【日時】 令和6年10月11日（金）～13日（日）10：00～16：00

【場所】 一関市にぎわい創造センター「なのはなプラザ」2階

【事業概要】

情報ビジネス科1～2年生計30名が、生徒が直接企業から仕入れた商品を一般市民に向けて販売しました。3日間店舗の運営を行うことで、商業人としての在り方を考え、ビジネスの難しさを実感することで、常に考えて行動できる生徒を育むことを目的として実施しています。昨年度は25名の生徒で取り組み、売上も好調で生徒は充実した感があり、効果的であったと感じたが、今年度は他のイベントが他の地域で開催されるなど、客足の確保に苦戦を強いられました。しかし、1年生にとっては笑顔でお客様に接する機会を得ることができ、2年生にとっても、工夫を凝らしたものとなりえたものは大きいと感じました。



オリジナル商品であるとりもちいバーの販売にあたる1年生

（生徒の感想）

初めて自分たちが仕入れた商品を販売することができて、様々な反省点や良かったことについてまとめたいと思います。まず初めに、商品についてです。大量に在庫が余ったことからわかるように、なんでその商品を選んだのかが、疑問に残った商品が多数ありました。自分たちが売れると思った商品は、一般の人たちにはあまり魅力を感じなかったのではないかと思います。一般の人にアンケートをとるなどの事前準備が足りなかったのではと思い反省として次年度は改善したいと考えました。また、週末の営業なのに、来店数が少ないことも反省点です。場所的には駅から近いメリットはあるのですが、町の中もそれほど人が歩いていないのが現状です。売上を増やしたければ場所も考え直す必要があると思いました。ですが、自分たちが仕入れた商品でお客様を接客でき、商品説明をおし

【キャリアアップ 商業：チャレンジショップ】

で多くの方々に接することができたのはとても良かったと感じています。(1年女子)

今年は文化祭の翌週がチャレンジショップだったため、準備が行き届かなかったと思います。商品も文化祭で販売した商品の残りや、ゼロから自分たちで企業様に連絡して仕入させていただいたもので販売できました。「毎年楽しみにしている」と声をかけていただいた方や、「今年は何があるか気になってラジオを聞いて駆けつけました」とお話しいただいたお客様もいて、自分たちの取り組みも認められてきたと感じました。

去年に比べ、売り上げも客数も減少したのですが、同じ期間に一関市バルーンフェスタが郊外で行われており、そちらに客をとられたのだと考えました。他のイベントなどもしっかりと考えて計画したかったのですが、難しいと思います。在庫をこれからどう処分するかをみんなで考えていきたいと思いました。販売という良い機会をいただきありがとうございました。(2年女子)



在庫品の一掃セールに励む生徒

【キャリアアップ 商業：IBCまつり】

岩手県立宮古商工高等学校

【事業名】IBCまつり2024 in アピオ

【期 日】令和6年9月7日（土）～8日（日）

【場 所】ツガワ未来館 岩手産業文化センターアピオ特設会場

【大会概要】高校生が出店するブースをメインステージ付近に「岩手の担い手マーケット」という特設コーナーを設けて実施した。

（1）「岩手の担い手マーケット」出店校

岩手県立宮古商工高等学校

宮古の銘菓・課題研究で地域色「エターナルグリーン」を活用した商品開発を行い販売する。

【写真】



金銭授受と商品渡しの様子



接客の様子

【参加生徒6名の感想】

IBCまつりの販売実習では、商品が売れる並べ方や声掛けなどをよく考え工夫しました。声をかけても無反応で通り過ぎてしまうお客様がいたのが少ししかったです。表情には出さないように意識しました。中には、宮古商工高校の名前を知って、商品を購入してくださるお客様もいて、とても嬉しかったです。この経験を生かして商工祭の販売実習や将来の進路選択につなげていこうと思いました。

IBCまつりの販売実習では、店先でお客様を呼び込み、金銭管理を行いました。普段から大きな声を出すことが少なく緊張してしまいましたが、商品が売れたときはすごく嬉しかったです。また、金銭の取り扱いでは、仲間と声をかけながら、釣銭の間違いもなく正確に仕事をこなすことができました。この経験を生かして商工祭の販売実習や将来の職業選択につなげていこうと思いました。

販売実習を通して、どのようにお客様に声をかけたら興味を持ってもらい、足を止めてくれるのかを試行錯誤しながら取り組みましたが、お客様に商品の内容を伝えることの難しさを感じました。商品によって売れるものと売れ行きが悪いものはありましたが、すべてを売ること

【キャリアアップ 商業：IBCまつり】

ができました。この経験を10月に宮古で行われる産業まつりに生かして活動したいと思います。

販売実習を通して、売るためには目立つことが大事だと思いました。商品を知ってもらうためにお客様に声をかけると、嫌な顔や、無視されたことが一番つらかったです。商品販売を通してお客様の笑顔に励まされ、嫌なことを忘れ、とても良い気持ちになりました。また、他店の商品販売方法もとても参考になりました。この経験を通して今後の学校生活の場で生かしていきたいと思います。

販売実習を通して、お客様のさまざまなタイプに応じた接客をすることを学びました。特に1対1での接客では、何を求めているのかを理解したことで商品販売ができたことです。一番うれしかったことは、お客様に「頑張っているから買いに来たよ!」と言っていたことや、差し入れで応援をしていただいたことです。これも喉を潤らすくらい大きな声を出したからの結果でもあります。この経験を、宮古「産業まつり」で生かし、お客様の心をわしづかみたいと思います。

お客様としてIBCまつりに行くことはあったが、今回は販売の立場で接客についてさまざまなことを学んだ。元気を前面に出した大きな声での呼び込みで、多くのお客様に商品を購入していただいた。中には、差し入れをしてくださるお客様もいて、人の温かさを感じる販売活動でした。

【引率者の感想】

課題研究の授業で取り組んだ地域色（エターナルグリーン）を活用したまちづくりの一環として商品開発に取り組んだ生徒は、この春卒業しました。

この商品の販売を通して宮古を広く知ってもらいたい、卒業生の思いを伝えたいと生徒への呼びかけをし、6名が集まりました。事前学習を通して一人ひとりが郷土「宮古」や先輩たちの思いを受け継ぎました。当日は一生懸命な販売活動から達成感や充実感を得たほか、貴重な体験もできました。

また、生徒の頑張りが周辺の企業様に伝わり、販売活動に活気が生まれ相乗効果によって盛り上がりました。この経験を産業まつりや商工祭の販売活動、また将来の進路選択につなげてほしいです。

今回、このような販売機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

【事業名】

POP講習会（講師：Kポップ 代表 菊池 勝也 様）

【日時】

令和6年10月10日（木）

【場所】

岩手県立釜石商工高等学校 課題研究室

【事業概要】

企業のカatalogや広告などの製作を請け負い、また、企業への政策指導を行う事業者からPOP広告について指導を受けることで、授業で学んだ販売促進活動についての学びを深めることを狙いとししました。

（1）事業の内容

講師の菊池様より、POP広告に活用される事態について指導をいただきました。ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、数字とそれぞれに注意事項を確認しながら練習を重ね、最後に広告を作成しました。この成果が、同月に控える文化祭での販売実習に向けてのPOP広告作成の場で示されることを期待しています。

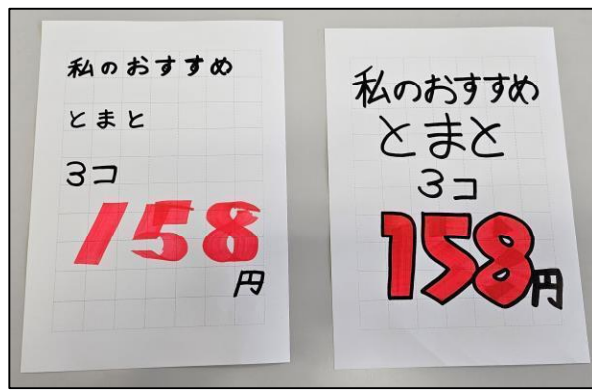
（2）参加者数

2 学年生徒 29 名 3 学年生徒 24 名 職員 4 名 合計 57 名

（3）参加者の様子

生徒たちは、講師の方の技術の高さに驚き、自らもその技術を身につけようと意欲的に学んでいました。講義の中では、文字の書き方だけでなく、目を引く文字を書くための特別なペンの持ち方や書き順なども指導いただき、細やかな部分にまで工夫されている技術であると感じた様子でありました。

【活動の写真】



【感想】

講座の始めにことを何も学ばない状態で広告を作成し、講座の最後に学んだ技術の成果として、同様の内容で改めて広告を作成しました。完成した広告は、始めに作成したものとは明らかに違い、親しみがあり、見やすく、注意をひくPOP広告となりました。生徒自身も確実に技術的な向上と、その成果に驚き、自身の成長を実感していました。また、コンピュータによる作成物が多い現代において、改めて手書きの良さや注目度の高さなどを感じた様子でした。さらに、講師の方がスーパーで販売促進に取り組んだ実体験の話なども伺い、お客様の視点で活動することの重要性を学ぶことができました。今後計画されている販売実習において、今回の講義の内容が大いに発揮されると期待されます。

【キャリアアップ 商業：ラッピング講習会】

岩手県立水沢商業高等学校

【事業名】ラッピング講習会

【日時】1月16日（木）

【場所】水沢商業高等学校被服室

【事業概要】2年商業科の生徒にラッピングの基礎的基本的な技能を習得させる。

（1）実技講習会の内容

（株）川徳様より講師を招聘して、のし紙のマナーや包装の意味を学び、「回転式（デパート包み）」という方法のラッピングを練習しました。「家庭総合」の授業で製作したボックスティッシュケースを、心を込めて丁寧に包装し、家族にプレゼントしました。この講習会を通して、学校生活を支えてくれる家族へ感謝の気持ちを形に表すことができました。

（2）対象生徒数 31名

【写真】



【生徒の感想等】

- ・思っていたよりも、回転式の包装は難しかったです。練習よりは本番うまく包装できました。お仕事で包装している方々はすごいと思いました。頑張ってケースを製作し、ラッピングできたので、家族に喜んでもらいたいと思います。
- ・初めてラッピングをしてみて、とても難しかったです。しわを作らないことや端をそろえることに留意して包装することの大切さがわかりました。のしや水引には種類があり、それぞれに意味が込められていることもわかりました。
- ・本格的な包装は初めて経験したが、講師の方々に丁寧に教えていただき、完成させることができました。水引の種類やのし紙・かけ紙について、さらに調べてみようと思いました。

【大会助成 水産：全国意見体験発表会】

岩手県立宮古水産高等学校

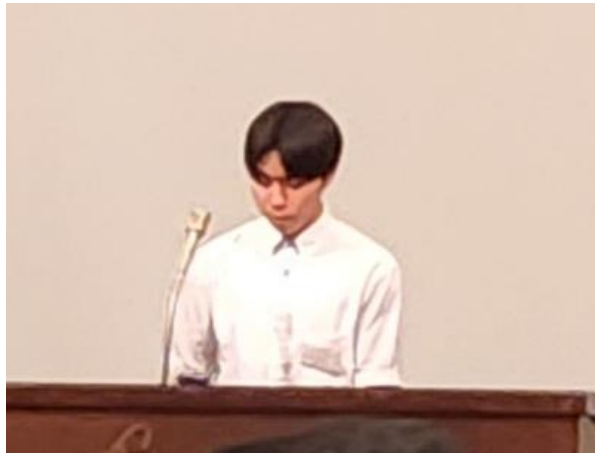
- 【大会名】令和6年度第10回全国水産・海洋高等学校産業教育意見・体験発表会
【日時】令和6年8月6日（火）
【場所】ホテルライフオー・札幌
【大会概要】水産・海洋系高校の生徒が、水産に関する様々な活動を通じて感じた事柄を意見にまとめ、発表する。

- （1）出場校
全国7地区代表校および主管校の計8校
（2）参加者
海洋生産科3年 船舶運航コース 菊池 晃成
（3）大会成績
奨励賞

【写真】



大会発表の様子 1



大会発表の様子 2

【生徒または引率者の感想等】

今回の発表では、中学生の頃に水産業の魅力に触れたことがきっかけで、高校進学と将来の目標が大きく変わり、高校生活を通して人に教えることの楽しさを見出したことを伝えました。慣れない場所で体調を崩してしまいましたが、これまでの経験を、胸を張って伝えることができ、悔いなく終わることができたと思います。以下は発表内容の概要です。

中学生の頃、進学先は普通高校への進学を考えていましたが、水産業の魅力を伝える出前授業で宮古水産高校の先輩と出会い、まぐろ延縄漁業の話に衝撃を受けました。そのとき、水産業に魅力を感じ、進学を決意しました。宮古水産高校では、多くの実習を経験し、充実した日々を送りました。

2、3年生の時には、自分が影響を受けた出前授業の講師として、内陸部の中学校に水産高校の魅力を伝えました。この経験から、人に教えることにやりがいを感じ、将来は航海士として経験を積んだ後、宮古水産高校の教師になりたいと考えています。こうして水産の魅力を次世代へ繋ぐことを目標に、今後も努力を続けます。

【キャリアアップ 家庭：調理技術講習会】

岩手県立平舘高等学校

【事業名】 調理技術講習会

【日時】 6月25日（火）、10月24日（木）、10月30日（水）

【場所】 平舘高等学校調理室

【事業概要】 地元ホテルの調理師を講師にお招きし、専門的な調理技術をご指導いただく機会とする。調理の基礎・心得・調理技術の向上及び定着を図る。

（1）講師：いこいの村岩手温泉ホテル 調理部和食部長 藤村 裕士 氏

（2）対象生徒：1回目：家政科学科2年9名

2回目：家政科学科2年コミュニティデザインコース5名

3回目：家政科学科3年コミュニティデザインコース5名

（3）講習会の様子



< 1回目 6.25 魚のさばき方 >



< 2回目 10.24 弁当献立 >



< 3回目 10.30 供応食 >

（4）生徒の感想等

- ・ 魚のさばく時、内臓と血合いをかき出す作業や、ゼイゴを薄く取る作業がとても大変でした。三枚に卸す作業で骨に当たるように包丁を動かす時に刃が通りにくく切るのがとても難しかったです。（2年）
- ・ 講習会で作ったレシピの内容を調理検定2級に活かせるよう頑張ります。調理を得意になりたいくて、コミュニティデザインコースを選びました。今年は調理検定2級を受験し、来年は1級に挑戦します。今回教わったように、材料、手順、器具等への理解をより深めたいと思います。（2年コミュニティデザインコース）
- ・ 飾り切りのねじ梅や天婦羅について学ぶことができた。どちらも難しい調理なので時間の許す限り沢山練習したいと思った。野菜の適切な処理や調理の仕方は社会人になっても役立つので忘れないようにしたい。（3年コミュニティデザインコース）

【キャリアアップ 家庭：職場見学実習会】

岩手県立平舘高等学校

【事業名】 職場見学・実習

【日時】 令和6年12月3日（火）

【場所】 ANAクラウンプラザリゾート安比高原

【事業概要】 家政科学科1年生が「生活産業基礎」の授業の一環として、近隣リゾートホテルでの見学及び実習を行う。客室清掃実践、フロント業務・ショップ業務体験実習などを通し、観光・サービス関連産業の職業への興味関心を高める。

【見学・実習の様子】 対象生徒：家政科学科1年 5名



【生徒の感想等】

- ・ お客様を接客するときには日本語だけでなく、英語や中国語を使っていてとてもすごいと思いました自分も将来ホテルなどで働くかもしれないので、今日知ったことを意識しながら過ごしていきたいです。
- ・ 実習ではベッドメイキングをやりました。マットレスにシーツをつけることや、枕にカバーをつけるとことなどスピードと正確性が求められる作業でとても緊張しました。
- ・ フロント業務での講話では、質問に答えていた中で大変なことはクレーム対応でした。4年目の方でも困ってしまうことがあると聞いてとても大変な仕事だと感じました。
- ・ ショップの体験では、どうすればお客に買ってもらえるかを考えてポップを作製したり、商品の特徴をつかむのが難しかったですが、貴重な体験になりました。

【事業名】西洋料理講習会

【日時】令和6年6月17日（月）

【場所】宮古水産高等学校C棟1階 第一調理実習室

【事業概要】希望郷いわて文化大使でもあり、国内外で活躍している西洋料理シェフ（フレンチ）から講習を受けることで、地域食材を利用した調理の基本的な知識と技術を身につけるとともに、一流シェフによる料理に対する心を学ぶ。

（1）講習内容

西洋料理の基本技法と岩手短角牛料理の手法

（2）対象生徒

食物科3学年24名

（3）参加生徒の様子

講習会では、地元食材をふんだんに使用した西洋料理を2品教わりました。最初のシェフのデモでは、西洋料理の食材の扱い方や手法をわかりやすく説明した後、短時間で料理ができました。生徒は、手早く調理するシェフの姿を食い入るように見ていました。次に、班ごとに分かれての実習でしたが、積極的にシェフに技法を教わりながら調理し、盛付を丁寧に行いました。料理の試食では、その美味しさに感動していました。試食後の閉会式では、シェフの料理に対する心構え等も聞くことができとても有意義な講習会となりました。

【写真】



（シェフのデモ）



（短角牛の焼き方指導）

【生徒の感想（4名）】

- ・講習会では、肉を焼く前のポイントや調味料の使い方、野菜の下処理や茹で方、どうすればおいしさを保てるのか等を教えていただきました。これからの実習や調理1級検定に活かしていきたいと思います。
- ・料理講習会では、沢山の知識や料理のコツを知ることができました。講習会を通して、美味しい状態で料理を提供できるように、作るときの手順や効率を考えて料理することにもっと意識をしていきたいと思いました。
- ・シェフのデモをしながらの説明はとても分かりやすく、西洋料理の初めての手法を学ぶことができ勉強になりました。学んだことを忘れず、今後も実習で挑戦して技術を向上させていきたいです。
- ・講習会では、初めて見る器具や調味料を使ってみて西洋の食文化に触れることができました。また、地元食材の岩手短角牛や野菜を使った料理は、とても美味しく、岩手の食材の魅力を知ることができました。

【キャリアアップ 総合学科：産業技術短期大学校水沢校との交流学习】

岩手県立岩谷堂高等学校

【事業名】 産業技術短期大学校水沢校との交流学习

【日時】 令和6年7月25（木）～26日（金）（2日間）

【場所】 岩手県立産業技術短期大学校水沢校

【事業概要】

- （１）講習の内容 産業技術短期大学校水沢校に出向いて本校 2 年次の産業工学科の生徒が本校で学べない実習を学ぶ。実習内容は、電気回路実験の体験等、生産技術の概要、配管課題演習、課題作成等などを中心に指導していただく。
- （２）参加者 総合学科（産業工学系列）2 年次 15 名

【写真】



講習の様子①



講習の様子②



講習の様子③



講習の様子④

【引率者感想】

7月25日、26日の2日間をかけて産業技術短期大学校水沢校にて、本校の産業工学系列の2年生15名の生徒が交流学习を行いました。初日は生産技術科のからくりふた付箱の製作体験等を行い、2日目は電気技術科の概要、電気配線、課題作成等を教わりました。

産技短の先生方が生徒一人一人に丁寧に教えていただきながらの実習だったため、生徒にとって分かりやすく順調に作業が進みました。特にも組み立て体験の作業は生徒も初めての实習で、失敗しながらも先生方に手助けしてもらいどうにか完成することができました。

今回の交流学习は、校内では実施できない実習や工作機械に生徒が直接触れることができ、これからの進路選択の上で収穫となる交流学习となりました。

【事業名】出前講座「わくわく農業サイエンス」として地域小学校との交流学习

【日時】令和6年6月～12月

【場所】江刺地域小学校

【事業概要】

身近な存在の農業や食べ物を使った体験活動を通し、小学生が農業・食品に関心を持つきっかけとしたい。また高校生が日頃の学習をいかして小学生と交流をすることにより、地域に目を向け、将来地域を支える人材育成の一助とする。

(1) 開催場所等

ア 令和6年 8月29日(木) 稲瀬小学校 6年生

イ 令和6年 10月25日(金) 田原小学校 6年生

(2) 事業内容 ※下記より小学校の希望する内容を実施

ア アグリカルチャークイズ(導入)

イ アグリカルチャーサイエンス

①色変わり水 ②人口いくらを作ろう ③果物の皮で風船が割れる?

ウ 食品製造体験

①アイシングクッキー作り

②簡単餅つき(お椀とツキ棒)を各自で体験

③簡単バター製造(ジャム瓶使用)各自またはペアで体験

【写真】

◎稲瀬小学校での様子



【果物で風船を割る】



【人工いくらに挑戦】



【キャリア教育の一環】

◎田原小学校での様子



【果物の違いクイズ】



【バター作り】



【集合写真】

【事業運営者感想】

昨年度よりスタートした企画であり、地域小学校との交流授業を行った。

本校の生物生産系列(農業)を学ぶ生徒たちが地域の小学校へ出向き、授業をとおりて農業や食品の魅力や楽しさを共有できたことは嬉しい限りである。配付した振り返りシートを見て児童も学ぶことの楽しさを実感したようである。クイズや実験をとして児童が新しい発見や高校生の優しさなど感じ体験できたことが伝わり、本校生徒も達成感を得たようである。

【キャリアアップ 総合学科：福祉講演会】

岩手県立紫波総合高等学校

【事業名】 令和6年度 福祉講話・体験学習

【日時】 7月16日(火) 2～3校時 (10:00～12:00)

【場所】 福祉総合実習室

【事業概要】 紫波町内で障がい者支援を行う施設の方々から、それぞれの施設の特徴とサービス等について講話をいただき、地域福祉向上を考えるきっかけとする。

(1) 体験学習の内容

川村 秀光 氏（多機能型事業所 Soleil 陽だまり サービス管理責任者）
による講話と実際の就労支援のプログラムの一つであるクラフトコーラの製造
実演

(2) 参加者数

福祉・健康系列3年次生9名

(3) 参加者の様子・感想等

障がいを持つ方が実際の就労で携わるクラフトコーラの製造実演をとおし
て、生徒達は就労継続支援のあり方が、地域との結びつきや障がいを持つ方の
特性そして事業の今後の継続性等を踏まえた、考え抜かれたものであることに
気づくことができました。

【写真】（事業の様子がわかる写真）

①施設の概要とサービスの講義



②施設の概要とサービスの講義



③クラフトコーラの製造実演



④原材料の香辛料等



【キャリアアップ 総合学科：福祉講演会】

⑤原材料の煮出し



⑥ざるで濾す



⑦コーラシロップの完成



⑧氷を入れて炭酸水で割って完成



⑨試飲



【 生徒又は引率者の感想等 】

就労支援は、工夫や仕掛けによっては、障がいを持つ方にとって、地域社会や地域住民につながる一つの方法であり、社会参加を強く実感できるものになりうるということが理解できました。また、今回の講演と実演をとおして、「働く」ということ、「社会に参加する」ということの意味を考える機会にもなりました。

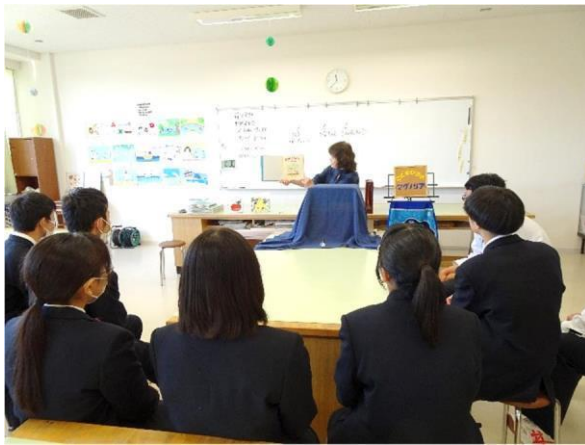
【事業名】「保育実践」特別講習会

【日時】10月29日（火） 10：00～11：50

【場所】紫波総合高等学校 保育実習室

【事業概要】紙芝居の演じ方や絵本の読み聞かせについて、先生から指導していただき、その後、グループごとに分かれた生徒が紙芝居を演じる練習をして、発表する。最後に先生のお話し会に参加する。

【写真】



（先生の読み聞かせの様子）



（生徒がグループで紙芝居を練習する様子）

【生徒感想】

- なぜ絵本や紙芝居が良いのかということや、絵本と紙芝居の違いなど明確に説明してくださって、理解できました。読み方だけでなく読むときの注意や読み終わりなどの細かいところまで教えてもらうことができてすごくよかった。
- 難しいと感じていた紙芝居を抜くときの話を聞いて自分が紙芝居をよむイメージがしやすくなったし、コツをつかんだような気がした。
- 実際に読み聞かせを聴いてみて、紙芝居の抜き方のコツや声の使い方など検定に活かせることがたくさんあった。また、紙芝居を演じてみて声、間、抜き方の細かなところの工夫が良くわかりました。
- 牧野先生の話聞いて、声、間抜きが基本となるのでその3つを工夫できるようにしたい。下読みするときに絵を見ながら読むことでどんな感じで表現するのか考えやすいと思いました。牧野先生のお話し会のまねできそうなところは、真似したいと思いました。
- 紙芝居や絵本の良さを再認識できた。検定では今回の授業で学んだことを活かして、紙芝居の抜き方を変えたり、声の大きさを変えたりして、いろいろな工夫をして検定に合格したいと思います。
- みんなでチャレンジしてみて、演じ手がとても頑張っていると感じた。牧野先生の読み聞かせは、どの本でもその人物のように演じていて、最後の紙芝居は演じているというよりも、お話し的人物が牧野さんにとり付いているかのような演じ方ですごくよかった。
- 場面に合わせて楽器を使ったり声色を変えたりして、色々な工夫ができることがわかった。

岩手県立紫波総合高等学校

【事業名】社会人講師講演会

【日時】12月19日（木） 10：00～11：00

【場所】紫波総合高等学校 大講義室

【事業概要】紫波町唯一の高校に入学した1年次生に、紫波新聞のあらましや情報を発信するときの心得、また紫波町の魅力について語って頂き、地域で学ぶ高校生として今後のどのような考えを持ち活動していくことが大事か、生徒一人ひとりが考える機会とする。

【写真】



（講演会の様子）



（メモを取りながら話を聴いている様子）

【生徒感想】

○もし、情報を発信するときは正確な情報で、新聞の内容が偏らないように、なるべく明るく表現するということを学びました。瀬川正子さんが言っていた、「いいことだけを拾うのではなく問題提起も、解決の糸口を探ることも」。この言葉は今後の生活にいつか役立つと思ったのでちゃんと頭の中に入れていて今後の生活にも、活かしていきたいと思いました。

○view garden には行ったことがあるけれど名前の由来は知らなかったもので、今回の講話で知ることができて良かったです。紫波新聞が毎月届いていることは知っていたけれど、じっくり読んだことがあまりなかったので、今日じっくり読むことができて良かったです。どの世代にも紙媒体の方が情報交流を活発に行いやすく、地域づくりに貢献しやすいということが分かりました。みんなが幸せを感じ、心豊かに前向きに生きられる環境を作ること、都心部に集まった若者たちが帰ってきてくれるから、新聞を作っているということを知って素敵だなと思いました。

○私は、紫波町のことはあまり触れたことがなかったので初耳だったことがたくさんありました。①私は「紫波町」という町は農業が盛んで、主に農業の町だなと思いました。岩手県の歴史で、紫波町にもつながりがあることが分かりました。②紫波町は環境宣言の町でもあるし、教育や文化にも盛んな町だったことが分かりました。③紫波新聞は昔から（紫波町が完成した年）あったものだと思ったが、結構最近にできて、日本がグローバル化で岩手県の人口が衰えているので、地方にもみんなが幸せを感じ、心豊かに前向きに生きられる環境を願って、紫波新聞を始めたのがきっかけだったと知りました。

【事業名】 会社見学会

【日時】 令和6年11月21日（木）

【場所】 小岩井農牧(株)小岩井農場（雫石町丸谷地36-1）

盛岡セイコー工業(株)（雫石町板橋61-1）

キオクシア岩手(株)（北上市北工業団地6-6）

【事業概要】 教科「産業社会と人間」の学習の一環として、会社を知ること、仕事を知ること、将来の職業選択の一助にすること等を目的として、また将来社会人として活躍するための心構えを学ぶ機会としました。

（1）見学会の内容

1年次3クラスの生徒が、クラスごとに異なる会社を訪問し、各会社から事業内容の説明を受け、可能な範囲での主要作業内容の見学を行いました。また、高校生と社会人の違い、高校生活で身につけておきたいもの等の簡単な講話もいただきました。

（2）参加者数 1年93名

（3）参加者の様子・感想等

普段は入れないところや農場の歴史について詳しく知ることができた。牛をあんなに近くで見たのは初めてだったので、嬉しかったし可愛いとも思った。まきば園にしか行ったことがなかったので、あまり行くことができない場所をいろいろ説明を聞きながら見ることができて、とても貴重な時間だった。農場の敷地に人が住む家があったり、小学校や美容院まであったりとは全く知らなかったことなので驚いた。また、進路のことまでたくさん聞くことができて貴重だった。

＜小岩井農牧(株)小岩井農場での見学の様子＞



【事業名】ドリームキャッチャー製作講習会

【日時】令和6年10月1日（火）

【場所】北上翔南高等学校 被服実習室

【事業概要】家庭科「ファッション造形」「保育基礎」を選択している生徒を対象に、ドリームキャッチャー製作を通して、その特徴と変遷について学ぶとともに、ものづくりの楽しさや創造することの意欲を高める。

（1）実技講習会の内容

金ヶ崎町に在住の小関郁恵氏を講師に招聘し、ドリームキャッチャー製作をしました。リングの中の糸の掛け方（蜘蛛の巣模様）や様々な色や形の毛糸やリボン、引き揃え糸の組み合わせにより作品の雰囲気が変わることから、難しさと楽しさを感じながら製作しました。生徒は初めて製作し、自分好みの色合いやオリジナル糸の組み合わせで満足感を感じていました。また、作品は持ち帰り、自分の部屋の枕元に飾り、良い夢だけが網目の真ん中をすり抜けて、寝ている人の元に届けられるという話や子供の魔除けとして飾られているお守りであることを学びました。

（2）対象生徒数 11名

【写真】



【生徒の感想等】

- ・自分の好きな色を組み合わせ、自由に表現することができました。少しずつ華やかになっていく様子が分かり、創造性を発揮できてとても楽しい体験でした。
- ・ふわふわした糸を選び、柔らかい印象を与えて全体の雰囲気を優しくなるようにしました。明るい感じの魔除けになりました。
- ・特に蜘蛛の巣の部分はピンセットを使い編み込んでいくので難しかったけど、出来上がってみるととてもきれいに見えるので、家でも作ってみたいです。
- ・思ったよりも難しくなかったのが、中の模様に種類があるなら、今度は違う模様で作ってみたいと思います。
- ・木枠の中にネットを編んでいく時、2周目に入る時が難しかったです。中心部分の悪夢をひっかける効果がある網目が上手に編むことができず悔しかったです。
- ・赤の糸がきれいに見えるように毛糸を配置しました。また、リボンを付けたこともあり、とてもかわいいもののでき楽しい時間でした。

【キャリアアップ 総合学科：フラワーアレンジメント実技講習会】

岩手県立北上翔南高等学校

【事業名】フラワーアレンジメント実技講習会

【日時】令和6年12月9日（月）

【場所】北上翔南高等学校視聴覚室

【事業概要】学校設定科目「生活教養」を選択している生徒を対象に、フラワーアレンジメントで豊かな生活空間をデザインする技術を習得させる。

（１）実技講習会の内容

外部講師の指導を受け、ヒムロ杉などの材料を用いてクリスマスリースを製作しました。飾りの木の実には校舎前にあるヒマラヤスギの実で、4月に下処理をしていたものを使用しました。

（２）対象生徒数 22名

【写真】



【生徒の感想等】

- ・フレッシュリースというものを初めて知りました。今度は自分で材料を買ってリース以外のフラワーアレンジメントに挑戦したいです。
- ・花の配置や角度によってその魅力が大きく変わることを学びました。
- ・一年中飾ることができるので、まずは生花からドライフラワーになる過程を楽しんでから玄関に飾りたいと思います。
- ・家の玄関の壁に飾っています。家に緑が増えて明るくなったように感じました。

- 【事業名】 食物系列3年 西洋料理実技講習会
【日時】 令和6年10月30日（水）
【場所】 久慈東高等学校 専門調理室
【事業概要】 地域の食材を生かした西洋料理を展開し、地方の活性化に貢献されているシェフの生き方や料理の感性に身近に触れ、技術向上と自身の将来の展望を探る。

(1) 講習会日程・内容

- 10:00～ 講師紹介、講話及びデモンストレーション
講師：伊藤 勝康 氏（ロレオール田野畑オーナーシェフ）
11:00～ 実習、試食
14:30 〈献立〉
「鯖のソテー エゴマスタードクリームソース」
付け合わせ：ほうれん草のグリル、菊芋、ベビーリーフ、紫大根
「短角牛のサーロインステーキ 山葡萄ソース」
付け合わせ：カボチャ、ジャガイモ、サツマイモ、ブロッコリー、カリフラワー
「鯖のアラとふのりのスープ」
「鯖と焼き海苔の鮭魚醬混ぜご飯」

(2) 参加者数 食物系列3年 10名

(3) 参加者の様子

講師紹介の後、伊藤シェフから最初に「家で料理はしていますか？楽しんで料理をしていますか？」を問いかけられ、生徒達は改めて自分にとって調理することの意味を考える機会となりました。さらに、地域の食材との向き合い方や料理人としての志などの貴重なお話に、とても興味深く聞き入る生徒たちの姿がありました。5月にテーブルマナー講習会をロレオールで実施していたので、伊藤シェフからは、料理に関することはもちろん、これから社会人・料理人になるにあたっての、より具体的で深いお話もありました。食材を見ながら、どれを何の料理に使うのか、調理法はどうするのか、全員で献立を考えました。素材を生かした調理を教えるため、口頭説明のみの実習で、普段の実習とは真逆の指導方法に生徒達は、指示を聞き逃さない様に真剣にメモを取りながら、生徒達が積極的に質問をする姿も見られました。調理中の音を聞く、味見の重要性、どのように段取りをするかなど、これから調理に携わっていく上で必要なスキルを教えてくださいました。普段は使わない南部鉄器を使用し、地元食材の素材を生かした調理に刺激を受け、地域の良さも改めて感じる事が出来た実技講習会となりました。



(4) 生徒の感想

今回の西洋料理講習会では、技術面ではブロッコリーの切り分け方や塊り肉の焼き方などを教えてもらいましたが、焼き上がりの見極め方など自分でするようになるためには経験が必要だと感じました。また、調理師としてのメンタルや体調管理などについても教えていただきました。目標は、出来なくても仕方がないくらい高めに持つことや体調不良の時には体に負荷がかからず自分の好きなものを食べる等、最後まで学ぶことが多くてとても良い経験になりました。(3年男子)

講習会を受けてまず伊藤シェフの料理のあり方や感性を知れてうれしかったです。お話の一番最初に「家で料理はしていますか？楽しんで料理していますか？」と聞かれて、家では比較的楽しんで作っていますが、学校の実習ではそんなに楽しんで料理をしていないのかも気づかされました。作れと言われたものを作るのではなく、そこにある食材を見て、どの食材がどの料理に合うのかを考えて行動しているところに、自分も頑張ろうと思えました。(3年女子)

今回の西洋料理実技講習会を受けてみて、柔らかくて程よい火の通りで山ぶどうのソースとよく合う短角牛のステーキ、身がふわふわでバターの風味とエゴマスタードのクリームソースと相性が良い鯖のソテー、鯖のアラと煮干で出汁を取ったふのりのスープ、鯖の身と焼き海苔が入ったバターライスのが全てが初めて出会った味で感動しました。地産地消で地元の食材を使い、フードロス削減のため、『食財』の全てを活用する料理の仕方は、私たちが最も学ぶべき姿だと思いました。料理の盛り付け方はその人のセンスが一番表れるものだと、今回一番実感しました。残り少ない実習で盛り付けのセンスを磨いていきたいと思っています。(3年女子)

今回、西洋料理実技講習会を受けて、今まで知らなかった技術について学ぶことができたり、基礎的なことをシェフから指導を受けることができてとても有意義な時間を過ごすことができてとても楽しかったです。技術的なことだけでなく、人としての在り方や立ち居振る舞いの仕方など、社会に出てからも大事なことを詳しく学ぶことができたので、生かしていきたいです。フランス料理の歴史や日本の料理とフランス料理の違いなど、初めて知ることが沢山あってとても勉強になったし、水の違いで料理の仕方も変わってくることを知り、小さなことでも色々な調理法を学ぶことが大切だと分かったので頑張りたいです。(3年男子)

今回の講習会を受けて、伊藤シェフの調理技術や考え方を身近に学ぶことができて良かったです。ソースを作る時の鍋の動かし方、肉の火の入れ方など、調理の動作一つ一つに意味が込められていて、なぜ今このように調理しているのかを知ることが大切だと思いました。最初のお話で、自分の目標が達成されなかったとしても「諦めなければ成功」という話をされて、自分も一度失敗しても諦めないで取り組もうと思いました。「料理は段取りが8割」という事は、これから料理人として働く上でとても大切になると感じたので、これから意識していこうと思いました。(3年男子)

【事業名】地産地消料理教室

【日時】令和7年1月22日（水）10時～12時

【場所】本校調理実習室

【事業概要】旬の野菜と地域食材である乳製品を活用した減塩を目的とした調理法を学び、現在及び将来の食生活に活用する姿勢を育成すること。また、高血圧等の健康課題を向き合い、疾病予防の視点から家庭料理の重要性を学ぶことを目的とし、生活・文化系列家庭選択生2年生を対象に実施しました。

（1）内容：「減塩で美味しい家庭料理」をテーマとし、鯖缶を活用した炊き込みご飯と二戸産佐助豚、本校農場で栽培されたじゃが芋を活用した味噌肉じゃがの調理実習を行いました。味噌や醤油などの伝統的発酵調味料に「コク味」「旨味」を有している牛乳を組み合わせることで食材本来の風味や特徴を損なわずに食塩を減らし、美味しい和食として食べられる「乳和食」の基本的な調理方法を学びました。

（2）講師：学校法人北日本カレッジ（ハイテクニカルクッキングカレッジ）
藤田隆彦氏、奥寺綾氏

（3）野菜の切り方、下ごしらえの方法、加熱調理のポイント、調味料の特徴と扱い方等、丁寧な説明と具体的で分かりやすい指示により、効率的に失敗なく仕上げることができ、料理の楽しさ、喜びを実感できたように感じます。また、家族のつながりや愛情を感じられる家庭料理こそ御馳走であり、価値ある食事であることを教えていただき、今後の食生活について深く考える機会となりました。



〔日本料理の先生から家庭料理の基礎を学ぶ〕

〔食材を生かす調理方法について〕

【キャリアアップ 総合学科：地産地消料理教室】



〔プロの包丁さばきに興味深々〕



〔煮物に適した食材の切り方を学ぶ〕

【生徒の感想等】

- 野菜の切り方や調理方法の基礎を学ぶことができ、これからの料理作りに活かしていける授業でした。
- 今まで「減塩」を意識して料理をしたことがなく、祖父が高血圧症になり、投薬と通院をされていて、濃い味付けの料理が好きな家族です。牛乳を使うことで少しの塩でも満足できる味に仕上がることを学んだので、家族のためにも減塩料理を作りたい。
- 今回は、和食でしたが洋風にも応用できる料理でアイデアが浮かんできたので自分なりに工夫して料理を作りたいと思います。
- 先生が盛り付けの時、ご飯の上に三つ葉を乗せるではなく、「あしらう」という言葉を使っていて、他の料理にはない和食には美しさのようなものがあると感じました。
- 料理は美味しく、楽しいものだということを実感することができました。自分のためだけではなく、家族や他の人たちにも喜んでもらえるような料理を作っていきたい。

【大会運営 中学校技術家庭部会：中学校技術・家庭科教育研究大会】

岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会

【大会名】第56回 岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会和賀大会

【日時】令和6年9月27日（金）

【場所】一関文化センター他 市内各中学校4会場

（〒021-088 岩手県一関市大手町2-16 TEL0191-21-2121）

【事業内容】

研究主題 未来社会の創り手となる資質・能力を育成する技術・家庭科教育
－問題を見だし、解決する題材開発とその評価－

（1）全体研究会

| 発表者 | 指導助言者 |
|--|---|
| 岩手県中学校教育研究会技術・家庭部会 研究部長 釜石市立甲子中学校 教諭 城内 博人 | 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 熊谷 有紀子 氏 |

（2）公開授業並びに授業会場

| 内容 | 授業者 | 所属・公開授業会場 | 授業時刻 |
|-------------|--------|-----------|------------|
| 技術D 情報の技術 | 千田 友一 | 一関市立東山中学校 | 9:50～10:40 |
| 家庭A 家族・家庭生活 | 三戸 己奈子 | 一関市立磐井中学校 | 9:50～10:40 |

（3）授業別分科会

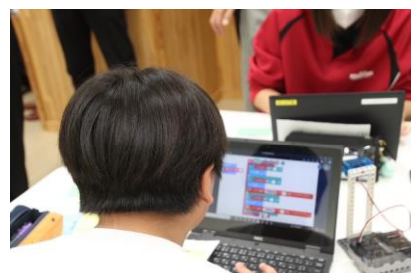
| 分科会 | 内容 | 指導助言者 |
|-----|-------------|----------------------------|
| 1 | 技術D 情報の技術 | 一関市教育委員会 指導主事 柴田 典夫 |
| 2 | 家庭A 家族・家庭生活 | 八幡平市教育委員会 主任指導主事 八重樫 英広 |

（4）内容別分科会

| 分科会 | 内容 |
|-----|----------------|
| 1 | 技術A 材料と加工の技術 |
| 2 | 技術B 生物育成の技術 |
| 3 | 技術C エネルギー変換の技術 |
| 4 | 技術D 情報の技術 |
| 5 | 家庭A 家族・家庭生活 |
| 6 | 家庭B 衣食住の生活 |
| 7 | 家庭C 消費生活・環境 |



（大会風景等1）



（大会風景等2）

【事業紹介】

県大会には77名参加（役員含め総数96名）県の研究部を中心に研究を進めることができました。また、一関地区の先生方にもご協力いただき、円滑な運営を執り行うことができ、各会員にとって学びを深める大切な機会とすることができました。

午前に開催した全体研究会では文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官熊谷有紀子先生にご講評いただき、現行の学習指導要領について理解を深めるための貴重なご助言をいただくことができました。午後に開催した実践交流では、技術領域4分科会と家庭領域3分科会に分かれて、日頃の授業実践や研究の交流を行いました。

これからも、県研究部・県事務局と各地区の研究会との繋がりを大切にしながら、子どもたちのために研究を更に深めてまいりたいと思います。

専門高校等の生徒による学習成果発表の場
第34回 全国産業教育フェア栃木大会 **さんフェアとちぎ2024**

| 開催日程 | | 10/26(土) | | | | | | | | | | 10/27(日) | | | | | | | | | |
|------------|---------|------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 会場 | フロア | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | |
| | | 10/26(土) | | | | | | | | | | 10/27(日) | | | | | | | | | |
| ライトキューブ宇都宮 | 大ホール 東側 | 総合開会式 | | | | | | | | | | 参加・交流イベント | | | | | | | | | |
| | 大ホール 西側 | 参加・交流イベント | | | | | | | | | | 総合開会式 | | | | | | | | | |
| マロニエプラザ | 1F | 全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト | | | | | | | | | | 全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト | | | | | | | | | |
| | 小会議室 | 意見・体験発表 | | | | | | | | | | 作品・研究発表 | | | | | | | | | |
| 宇都宮白鶴高校 | 2F | 大会開会式 | | | | | | | | | | 大会開会式 | | | | | | | | | |
| | 中ホール | 大会閉会式 | | | | | | | | | | 大会閉会式 | | | | | | | | | |
| 日蓮アリーナ栃木 | メインアリーナ | 全国・県内作品展示 | | | | | | | | | | 全国・県内作品展示 | | | | | | | | | |
| | バルティ | 体験・実演 | | | | | | | | | | 体験・実演 | | | | | | | | | |
| 宇都宮白鶴高校 | 第2体育館 | 展示販売 | | | | | | | | | | 展示販売 | | | | | | | | | |
| | メインアリーナ | とちまるジョブタウン(就業体験) | | | | | | | | | | とちまるジョブタウン(就業体験) | | | | | | | | | |
| 宇都宮白鶴高校 | 第2体育館 | 企業・大学・専門学校等展示 | | | | | | | | | | 企業・大学・専門学校等展示 | | | | | | | | | |
| | メインアリーナ | 高校生カフェ(特別支援教育部コーナー) | | | | | | | | | | 高校生カフェ(特別支援教育部コーナー) | | | | | | | | | |
| 宇都宮白鶴高校 | 第2体育館 | 全国高校生介護技術コンテスト | | | | | | | | | | 全国高校生介護技術コンテスト | | | | | | | | | |
| | メインアリーナ | 全国高等学校ロボット競技大会[準決勝・公式練習・開会式] | | | | | | | | | | 全国高等学校ロボット競技大会 | | | | | | | | | |
| 宇都宮白鶴高校 | 第2体育館 | 全国高校生タッピングコンテスト「リバーサル」 | | | | | | | | | | 全国高校生タッピングコンテスト | | | | | | | | | |
| | メインアリーナ | 全国高校生タッピングコンテスト | | | | | | | | | | 全国高校生タッピングコンテスト | | | | | | | | | |

※1 上記開催日程は変更となる可能性があります。最新情報は大会HPでご確認ください。
※2 フラワーアレンジメントコンテストの開会式は2F大会議室202で行います。

会場アクセス

メイン会場周辺

1 ライトキューブ宇都宮

2 マロニエプラザ

3 宇都宮白鶴高校

宇都宮市街地は大変混雑します。また、近隣の駐車場は満車になる可能性があります。時間に余裕を持ってご来場ください。

こちらの2会場の地図は下記のQRコードから大会HPでご確認ください。

日蓮アリーナ栃木
バルティ(とちぎ県立宇都宮高等学校)

最新情報は大会HPをチェック！

ライトキューブ宇都宮

- JR宇都宮駅 直口より徒歩2分
- 東北自動車道 宇都宮ICより約13km、約30分
- 北関東自動車道 宇都宮上三川ICより約13km、約25分(駐車場無し)

マロニエプラザ

- 芳賀・宇都宮JCTより 駅東公園より徒歩約10分
- 東北自動車道 宇都宮ICより約14km、約30分
- 北関東自動車道 宇都宮上三川ICより約13km、約25分(無料駐車場あり・約400台)

栃木県立宇都宮白鶴高等学校

- マロニエプラザより 徒歩2分



会場の様子



フラワーアレンジメントコンテスト 銀賞 花巻農業高校 伊東さんの作品

【予 選】（順位順）

令和6年10月27日(日)

| 順位 | 準決 組 | 準決 コート | ゼッケン | 都道府県 | 学校名 | チーム名 | 得点 | 結果 |
|----|---------|-----------|------|------|-----------------|------------|-----|-------|
| 1 | 1 | 1 | 85 | 大分県 | 大分県立鶴崎工業高等学校 | 新婚九六位 | 504 | 準決勝進出 |
| 2 | 1 | 2 | 86 | 大分県 | 大分県立中津東高等学校 | JYOSUI II | 495 | 準決勝進出 |
| 3 | 1 | 3 | 45 | 福井県 | 福井県立坂井高等学校 | しろくま X | 490 | 準決勝進出 |
| 4 | 1 | 4 | 84 | 大分県 | 大分県立中津東高等学校 | JYOSUI I | 486 | 準決勝進出 |
| 5 | 1 | 5 | 91 | 宮崎県 | 宮崎県立佐土原高等学校 | さこのこ | 477 | 準決勝進出 |
| 6 | 1 | 6 | 80 | 熊本県 | 熊本県立熊本工業高等学校 | SF-Noir | 477 | 準決勝進出 |
| 7 | 1 | 7 | 55 | 島根県 | 島根県立出雲工業高等学校 | 須佐之男 | 461 | 準決勝進出 |
| 8 | 1 | 8 | 46 | 長野県 | 長野県駒ヶ根工業高等学校 | 駒工 A | 440 | 準決勝進出 |
| 9 | 2 | 1 | 44 | 福井県 | 福井県立坂井高等学校 | しろくま Y | 430 | 準決勝進出 |
| 10 | 2 | 2 | 70 | 愛媛県 | 愛媛県立新居浜工業高等学校 | TO GO | 420 | 準決勝進出 |
| 11 | 2 | 3 | 89 | 宮崎県 | 宮崎県立宮崎工業高等学校 | RED_SERVO | 410 | 準決勝進出 |
| 12 | 2 | 4 | 48 | 長野県 | 長野県駒ヶ根工業高等学校 | 駒工 B | 410 | 準決勝進出 |
| 13 | 2 | 5 | 63 | 山口県 | 山口県立岩国工業高等学校 | GANKO 白蛇 | 390 | 準決勝進出 |
| 14 | 2 | 6 | 37 | 富山県 | 富山県立砺波工業高等学校 | となみ 1 号 | 390 | 準決勝進出 |
| 15 | 2 | 7 | 39 | 富山県 | 学校法人不二越工業高等学校 | らいでんしゃふと | 390 | 準決勝進出 |
| 16 | 2 | 8 | 33 | 新潟県 | 新潟県立長岡工業高等学校 | 白菊 | 390 | 準決勝進出 |
| 17 | 3 | 1 | 7 | 岩手県 | 岩手県立水沢工業高等学校 | 水工紫魂 | 390 | 準決勝進出 |
| 18 | 3 | 2 | 90 | 宮崎県 | 宮崎県立宮崎工業高等学校 | BLUE_SERVO | 380 | 準決勝進出 |
| 19 | 3 | 3 | 58 | 広島県 | 学校法人呉武田学園呉港高等学校 | 呉港14号C | 380 | 準決勝進出 |
| 20 | 3 | 4 | 59 | 広島県 | 学校法人山中学園如水館高等学校 | JOSUI 27 | 380 | 準決勝進出 |

ロボット競技大会 水沢工業 17 位／ 96 チーム

令和6年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

公益財団法人産業教育振興中央会 公益社
団法人経済同友会

1.趣旨

今日、世界ではA I やIoTなどの急速な技術発展により産業構造も大きく変わり、グローバルな競争も激化するとともに、SNSの普及により、自ら情報発信でき、情報を取捨選択する社会になってきた。さらに、生成A I の登場により、教育はもとより、産業の在り方もさらに大きく変化し、それに向き合う課題も大きくなると考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症の位置づけが見直されて以降、経済は活性化しているが、中東やウクライナにおける戦争や為替状況等により、今後の経済の状況は不透明である。このように大きく変わる社会において、今後とも我が国がさらに活力を増し、発展して行くためには、未来を支える若い世代の力が必要であり、とりわけ、将来の自己の仕事に明確な目的意識を持ち「しごと」に直結する知識や技術を学んでいる専門高校の生徒には大きな期待が寄せられている。

このため、将来の日本の産業・企業を支える専門高校の生徒の学習意欲の高揚を図るとともに専門教育に対する社会からの関心を高め、専門高校の活性化を図るため、専門高校の生徒を対象に、公益財団法人産業教育振興中央会及び公益社団法人経済同友会の共催により「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を実施する。

2.応募資格

専門教育を主とする学科(専攻科を除く。総合学科を含む)に在籍する高等学校生徒

3.作品募集内容

(1)研究文の部

- ・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
- ・未発表のものであること。
- ・A4判縦型(1ページは、22字×38行×2段)8ページ以内(写真・図表等を含む)とし、電子データで作成すること。
- ・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横2段に通して10行分(左段10、右段10計20行分)に入れること(原稿1枚目のみ)。
- ・写真・図表等がある場合は、その分の余白(標準1段8行分)を取り、挿入個所を指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2)作文の部

- ・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負・将来の仕事などを述べたものであること。
- ・未発表のものであること。
- ・A4判縦型(1ページは、22字×38行×2段)2ページ以内とし、電子データで作成すること。
- ・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横2段に通して10行分(左段10、右段10計20行分)に入れること(原稿1枚目のみ)。

4.応募方法

- (1)応募作品は、学校所在地、学校名、学科名、学年、氏名を明記した表紙(A4判)を添付し、学校長を経由して、学校所在の各都道府県産業教育振興会宛(振興会の定める必要部数を期日まで)に提出すること。
- (2)各都道府県産業教育振興会においては、応募作品を取りまとめ、9月9日(月)までに作品1部と電子データを産業教育振興中央会宛に送付すること。

5.審査

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉、情報の各専門高校校長協会及び経済同友会より推薦された者を審査委員として、10月下旬～11月上旬までに応募作品を審査し、「研究文」及び「作文」のそれぞれについて、産業教育振興中央会から最優秀賞、優秀賞、佳作を決定する。経済同友会賞は、12月中旬～翌1月初旬に決定する。

6.審査結果の発表等

審査結果については、産業教育振興中央会より各振興会長宛に通知し、学校長及び本人に伝達を依頼するほか、月刊誌「産業と教育」の誌上で発表する。また、併せて、経済同友会 HP に掲載する。

なお、入選作品(最優秀賞、優秀賞等)については、本会の文集「翔」第34集(令和6年度版)として刊行し、教育諸機関へ頒布する。また、経済同友会 HP に掲載する。

- (1)入選作品の掲載に際し、その本質を損なわない範囲で、字句の削除、修正をすることがある。
- (2)応募作品は返却しない。
- (3)今回の募集で得た個人情報は、受賞者への連絡及び受賞作品の出版、web サイトへの掲載以外には使用しない。

7.表彰

- (1)産業教育振興中央会より「研究文」及び「作文」ごとに次の表彰を行うものとし賞状と副賞(図書カード)は、所属学校長を経由して本人に伝達する。

| 副賞(図書カード) | | | | 「研究文の部」 | 「作文の部」 |
|-----------|--------|-----|--|---------|---------|
| 最優秀賞 | 研究文・作文 | 各1編 | | 15,000円 | 10,000円 |
| 優秀賞 | 研究文・作文 | 各2編 | | 10,000円 | 5,000円 |
| 佳作 | 研究文・作文 | 各5編 | | 3,000円 | 2,000円 |

- (2)経済同友会における表彰については、賞状と盾を授与する。

経済同友会賞 研究文・作文 各1編程度

令和 6 年度 岩手県産業教育振興会主催
「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

- 1 主 催 岩手県産業教育振興会（公益財団法人産業教育振興中央会）
- 2 趣 旨 産業の各分野における急速な技術革新の進展に伴い、専門教育の充実に新たな期待が寄せられている。このため、専門高校に学ぶ生徒の自覚と学習意欲の高揚を図るとともに、専門教育に対する社会的な関心を高めることに役立てるよう、研究文・作文を募集し、表彰を行う。
- 3 応募資格 専門教育に関する学科・コース(専攻科を除く)に学ぶ高等学校の生徒であること。

4 内 容

(1) 研究文の部

- ・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
- ・未発表のものであること。
- ・A 4 判縦型（1ページ22字×38行×2段・フォントサイズ10.5ポイント）8 ページ以内とし、電子データで作成すること。
- ・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は最初のページの頭に、横 2 段に通して 10 行分(左段10、右段10計20行分)に入れること（原稿 1 枚目のみ）。
- ・写真・図表等がある場合、その分の余白（標準 1 段 8 行分）を取り、挿入個所をご指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2) 作文の部

- ・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負などを述べたものであること。
- ・未発表のものであること。
- ・A 4 判縦型（1 ページ22字×38行×2段・フォントサイズ10.5ポイント）2 ページ以内とし、電子データで作成すること。
- ・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に横 2 段に通して 10 行分(左段10、右段10 計20行分)に入れること。（原稿 1 枚目のみ）

※ なお、研究文・作文とも未発表のものに限るが、今年度の県内の研究会等において発表したものについては、未発表として取扱うものとする。ただし、県代表として東北大会以上で発表したものは既発表として扱う。

5 応募方法

- ・研究文・作文の応募作品の一覧をEXCELファイルで作成すること。
応募作品一覧には学校所在地、学校名、作品ごとにタイトル、学科名、学年、氏名、フリガナを明記すること。

- ・応募作品一覧と研究文・作文の応募作品は、メールの添付ファイルにより岩手県産業教育振興会あてに送信すること。

6 締切期日

令和6年8月23日（金）

7 審査・推薦

- ・応募された作品は全て産業教育振興中央会に推薦する。ただし、産業教育振興中央会未加入校の作品を除く。
- ・岩手県産業教育振興会では産業教育振興中央会とは別に審査し、最優秀賞、優秀賞を決定し表彰する。
- ・審査の観点は次のとおりとする。
 - (1) 主題の設定が適切で高校生にふさわしいか。
 - (2) 計画が適切で綿密に進められているか。
 - (3) 記録が正確で資料が適切に使われているか。
 - (4) 内容が適切で創意工夫が見られるか。
 - (5) 結果のまとめが適切であるか。

8 審査結果の発表

審査の結果については、令和6年12月上旬までに、高等学校長あてに通知する。

9 表 彰

- (1) 岩手県産業教育振興会では入選作品について、記念品を添えて次のとおり表彰する。
 - ア 最優秀賞 研究文・作文各1編
 - イ 優 秀 賞 研究文・作文各1編※ 研究文については学校表彰とする。
※ 今年度は「佳作」の表彰及び表彰状の送付は予算の関係で行わない。
- (2) 産業教育振興中央会における入選作品の表彰は、次のとおりである。
 - ア 最優秀賞 研究文・作文各1編
 - イ 優 秀 賞 研究文・作文各2編
 - ウ 佳 作 研究文・作文各5編
 - エ 経済同友会賞 研究文・作文各3編※ 研究文については学校表彰となる。

10 その他

- (1) 入選作品については、「事業活動報告書」を掲載する。
- (2) 作文については、校内で選考し、各学科(1～3年)ごと3編以内で応募すること。
 - ※ 1編目：機械科1年○○ 2編目：機械科3年○○ 3編目：機械科3年○○
 - 1編目：電気科2年○○ 2編目：電気科3年○○
 - 1編目：土木科3年○○ 2編目：土木科3年○○ 3編目：土木科3年○○

産業教育振興中央会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部 佳作 受賞作品

松尾鉾山開発を学び四十四田ダムの役割と課題を探る（その1）

岩手県立盛岡工業高等学校

土木科 3年

田鎖 奏汰 主演 優輝 小松 千洸 砂合 海斗

はじめに

岩手県には、東北流域面積最大を誇る北上川が流れている。岩手の鉾山開発の歴史の中で、松尾鉾山跡地から流出する鉾廃水は酸性水として流域内に歴史的な環境破壊をもたらした。県立博物館主催の日曜講座「五大ダムが岩手県にはたしてきた役割」を受講し、歴史的な環境汚染やその恒久対策をととして北上川本流にある四十四田ダムの役割とその課題を学んだ。私たちは、土木科で学んだ技術やフィールドワークを生かしてその解決策を探る。

1 県立博物館主催の日曜講座に参加して

令和5年6月25日（日）に開催された本講座では、岩手のダムが果たす役割と県内にある各ダムの特徴について説明がありました。各ダムには土砂吐が無く、当初から土砂の堆積があり貯水量や洪水調節において機能を果たせなくなる可能性もあることがわかりました。盛岡市にある四十四田ダムは、建設から60年が経過し旧松尾鉾山跡地から流れる鉾廃水（酸性水）は、北上川に多大な環境破壊をもたらしたことを初めて知った。現在も、当時建設した、廃水処理施設から流れ出た有害物質が、ダムの堤体内に堆積しているという事実も驚く内容だった。現在は、最新の廃水処理施設（鉄酸化バクテリア）の稼働により、河川環境も改善している。この歴史的な国家プロジェクトを知り、実際堆積してる土砂やその抑制対策に

ついて探究してみることにした。



県立博物館で開催された日曜講座の様子

四十四田ダムは、洪水調節、水力発電等に活用されている。形式は重力式コンクリートダムであるが、両岸の岩盤が弱いために両岸脇をアースダムとして施工し中央を重力式としたため、結果としてコンバインダムとなっている。建設当時の北上川は、上流の松尾鉾山からの坑内水・硫黄によって強酸性の河水が流れており、ダムサイトにおける pH は 4.0 であった。従って、河川工作物も酸性水に耐えるための材質が絶対条件であり、建設に使うコンクリートは酸性水に耐えられるフライアッシュセメントを使用。また放流により終始河水にさらされる越流部・導流部はタールエポキシ樹脂系の塗料を使い酸に耐える対策を施した。さらに水門については、通常の鋼材ではなく耐酸性に優れたステンレス、ステンレスクラッド鋼を使用し強酸に対処した構造になっている。近年では、旧松尾鉾山の鉾廃水処理が向上し、ダムの水は農業用水にも利用されている。

2 探究目標について

- (1) 四十四田ダムに係る現状と課題を探るため、現場見学を踏まえて、私たちは以下のような取組みを目標とした。

- ① ダム堤体に堆積する土砂量の把握
- ② 恒久的な土砂堆積抑制方法の検討

- (2) 土木科では、旧松尾鉱山の鉱廃水処理施設や四十四田ダムを見学して、環境破壊の事実やその対策を学び、北上川本流にある四十四田ダムを見学させていただいた。



旧松尾鉱山鉱廃水処理施設見学



四十四田ダム施設見学

- (3) 四十四田ダムの現状と課題



堤体に残る茶色の染みは、当時の酸性水の痕跡

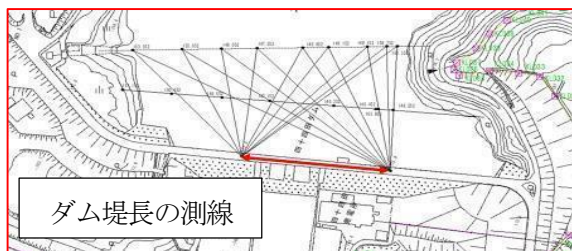
四十四田ダムの課題

- ① 土砂の堆積状況が年間計画量の90%を超えている。
 - ② 早急な堆砂量の制御が必要
 - ③ 必要貯水量が減少すると洪水調節や水力発電用の水量を確保できなくなる。
 - ④ 堤体内に堆積している有害物質の存在
- 国土交通省東北地方整備局北上川流域ダム統合管理事務所は、上記の課題を踏まえてダムの嵩上げ工事を計画している。

3 調査計画について

- (1) ダム堤体に堆積する土砂量の把握

まずは、土木科で学んでいる測量技術トータルステーション（以下 TS と略す）を用いて、土砂の堆積高さを標高から求めることにした。



ダム堤長の測線

(ダム担当官立ち合い)



マーカーで TS を設置する場所を決めた。



測点に TS を設置して観測している様子

(2) 調査手順について

学んだ測量技術を用いて標高を求める。

① 川床標高の求め方

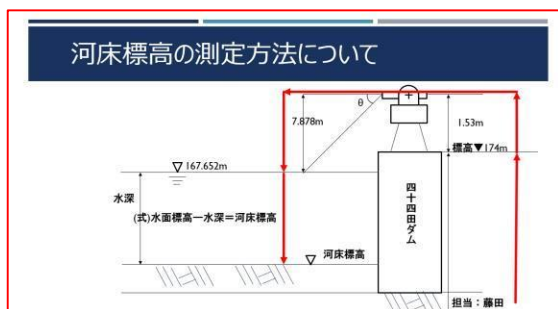


図1 河床標高＝ダム堤頂標高－湖面標高＋水深で算出



図2 ダム担当官から示された船の観測線



図3 湖面を移動する船をTSで観測する

② 水面の高さと船舶の水平位置をTSで求める



TSにより船舶の水平位置を測定



船には、TS視準用ピンポールと測深器を設置



観測を終えて国交省ダム担当者と記念撮影

(3) 堆積状況をCADで図化する

ダム建設前の等高線データから、観測した川床の標高を差し引いて土砂の堆積高さを求めてみた。

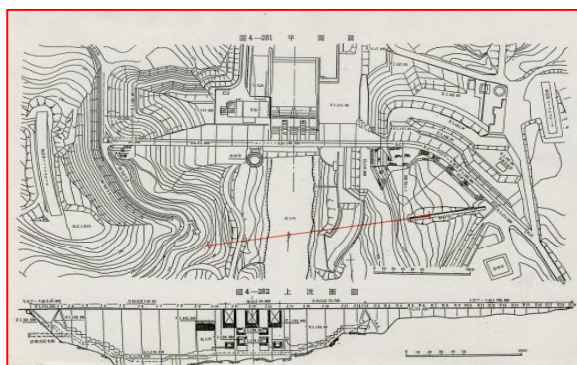
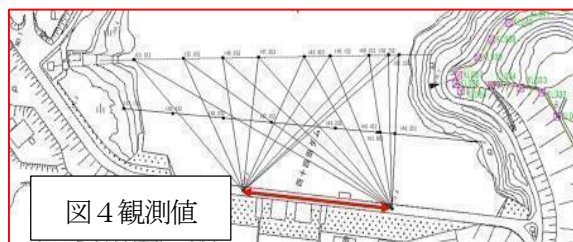
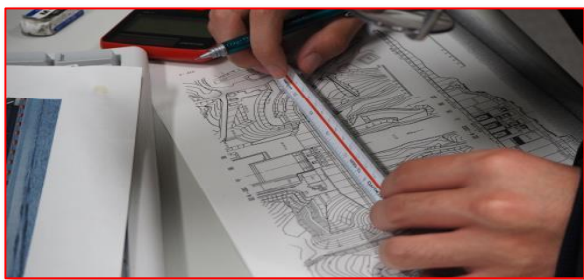


図5 ダム建設前の等高線図 (建設当時図面)



スケールで観測位置を確認して標高データを求める

昨年度は、観測線数が少ないため、堆積状況を図化するにあたり、ダム正面から見て堆積状況が分かるようにCADで図化した。

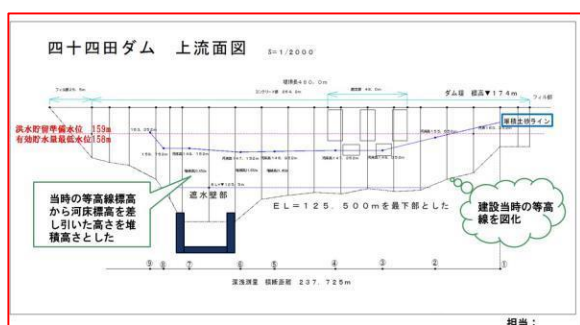


図6 青色のラインが、川床の高さを示す

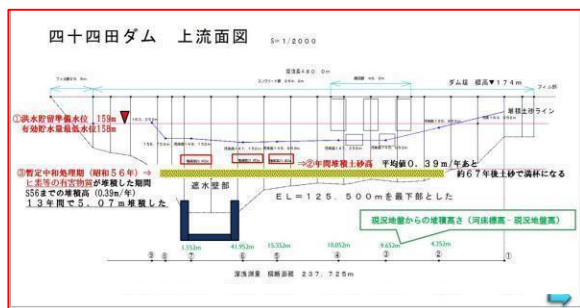


図7 標高データから考えられることを図面に記述

4 ダム河床標高からわかること

EL=125.500mをダムの最下部の標高として考えると、以下のことが考えられた。

- (1) 堆積高さは最大で23.652m、最小で21.452mであった。これは凹凸の地形であることから場所によって差がある。
- (2) 単純に堆積高さを年数割すると年間堆積土砂高さは0.39m/年であり、67年後ダムは土砂で満杯になる。

(3) ダムの洪水貯留準備水位 159mから河床標高を引くと、最大で水深12m程度しか余裕がない。

(4) 昭和56年の暫定中和処理が始まるまでの13年間(0.39m/年)に堆積した土砂高さは5.07mと推測される。この間にヒ素等の有害物質が堆積しており、地形が均一であれば河床標高130.570mまでの土砂に有害物質が含まれていると考えられる。

(5) 土砂の堆積高さが高くなっているためか、河床標高の高さの分布をみると、放流ゲートに流れる流向に沿って河床標高が減少している傾向がみられる。

5 恒久的な堆砂の抑制対策を検討する

国交省北上川流域ダム統合管理事務所では、堆砂の抑制対策として、H28年に貯砂床止め工を上流に設置している。私たちは、図8の平面図から南部片富士湖に流入している流れの状況がわかれば、この場所に土砂や流木を拾い上げる浚渫ポイントを建設できると考え、その根拠を調べることにした。

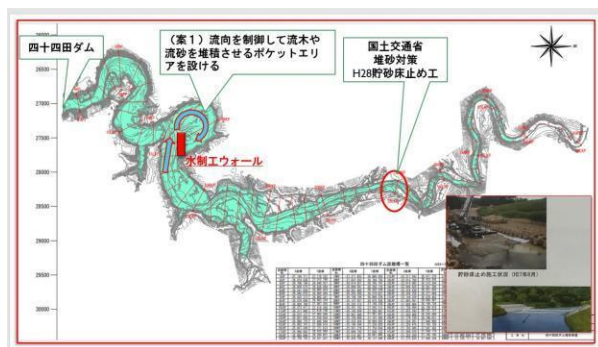


図8 南部片富士湖と貯砂床留工を示す図

(1) 流況を調べる調査方法について

流況を調査する手法として浮きフロートを使った追跡観測があげられる。

このことから、浮きフロートの追跡調査をする事を前提として4つの方法をあげて最良と思われる観測方法を選んでみた。

- ① ドローンによるフロート追跡 表現△
- ② 船によるフロート追跡 表現△
- ③ TS によるフロート観測 観測場所×
- ④ GPS データを活用した観測 表現◎

調査方法については、GPS フロートを製作して、移動するフロートの軌跡を GPS ロガーでデータを記録することにより Google Earth での可視化ができれば調査に係る負荷を軽減し、ICT 機器を活用できる④が最良の方法だと判断した。



使用した GPS ロガー (SONY 製)



GPS フロートを投入した実験を行いデータログの取得が可能か確認

私たちは、北上川上流から南部片富士湖に流れが流入して周回した上で下流に流れていくと考え、南部片富士湖付近における GPS フロートの軌跡を写真 1 の白線矢印のように仮定し、下地図の赤丸で囲まれた南部方富士湖の流況を調べることにした。



写真 1 渇水期の南部片富士湖上空写真

製作した GPS フロートは、下写真のように浮標に十字羽を取り付けて川の流れを受けやすいように設計した。



製作した GPS フロート (左)、GPS ロガー (右)

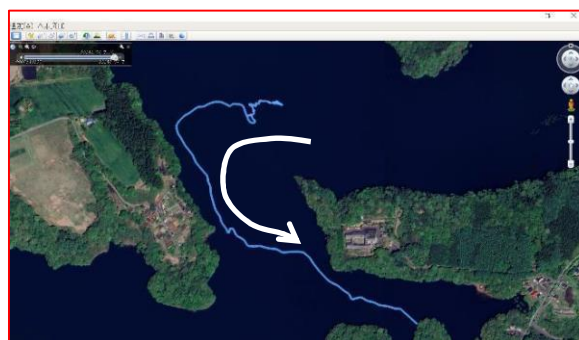


写真 2 Google Earth で GPS フロートの軌跡を可視化

8月2日(金)は、天候晴れ、気温 32° 7月下旬からの洪水調節のためダム水位は低く、写真 1 のように南部片富士湖内は島や倒木や水草が出現しており、Google Earth 上の写真 2 とは異なるため、10月の水位が上昇した時点で再度 GPS フ

ロート調査を実施する事にした。現地は、水鳥たちの楽園となっており、この環境を変えることについては課題が残される。

写真2の白丸印は GPS フロートを投入して漂流の様子を可視化したものである。GPS フロートは 8 kg の重しでバランスを取っているため、渇水期において、水深の浅い堆積土砂のある付近では根掛かりを起こしてしまった。そのため想定しているような動きを観測することは出来なかった。急遽であったが、カヌーに GPS を取り付けて観測を継続してみた。



湖面から出ている木々に留まる白鷺



GPS フロートの投入



8月2日 南部片富士湖を湖面のカヌーから視る

渇水期には、土砂の堆積箇所が露出するため、小型の GPS フロートが必要になることがわかった。次回観測は河川水位の高い10月下旬を予定している。その時まで小型の GPS フロートを製作しておきたい。

また、堆積している土砂はシルト分が多くカヌーのオールも根深く入り込むため、浅瀬に人が立つことは困難と考えられた。しかし、川の流れとの相関性を知る上で、堆積土砂を採取して土の粒度試験を行い土砂の性質も調べる必要があると考えた。(令和6年8月5日時点)

6 今年度のまとめ(令和6年8月5日現在)

(1) 令和6年度後期から取組むこと

- ①GPS フロートのコンパクト化
- ②水位が高い時期に GPS フロートの追跡調査を実施する。
- ③堆積土砂の粒度分析

以上が、後半の取組となる。

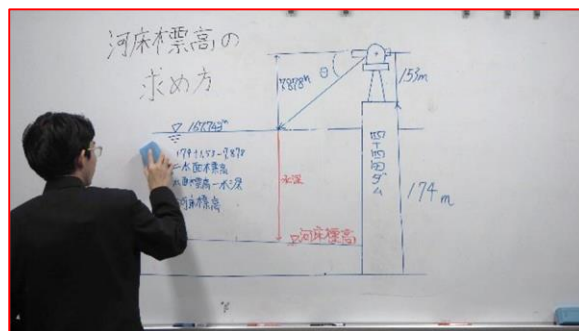
(2) 昨年度は、ダムに滞積する土砂の状況を把握することを第一に探究活動を進めてきた。観測点は少なかったが、ダムの洪水調節や発電用水の確保など、現在の堆積状況を見ると危うい状況にあり、堆積土砂の抑制は急務であることがわかった。この観測は次年度も継続して行っていきたい。

土砂堆積に係る抑制方法の検討については、水流による制御方法を考えてみたが、渇水期や洪水期において湖畔の状況が大きく変わることが現地調査からわかった。現段階では流況を知る上でも、どのような種類の土が多く運ばれてきているかを知る必要がある。

また、流況については10月以降のところではフロートを2種類用意してデータを取得する必要がある。今年度の報告には間に合わないと思うが、総合的に調査をすすめて、流れの特性を掴み抑制対策を考えていきたい。

なお、浚渫ポイントとなる湖畔の自然環境については関係団体との協議が必要となってくると思われる。

本探究活動にご協力いただきました、国土交通省東北地方整備局北上川流域ダム統合管理事務所管理第二課の皆様には、この場をかりて心より感謝申し上げます。



河床標高の求め方を考える



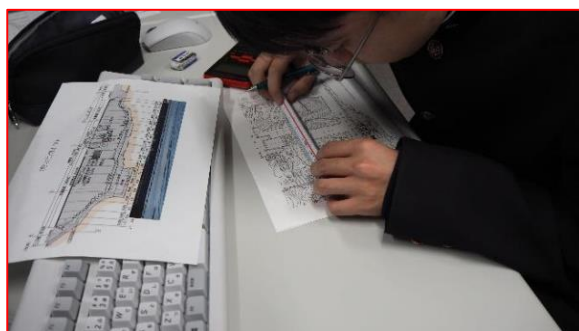
GPS フロートの羽づくり



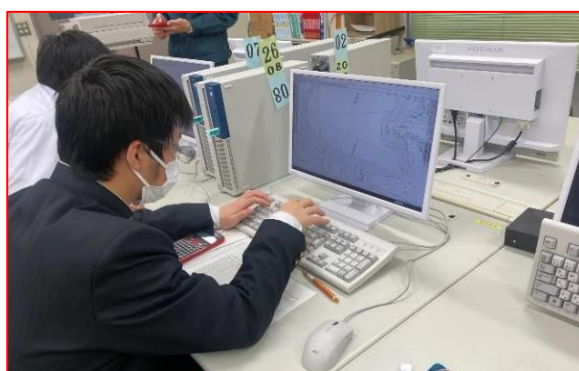
GPS ロガーの取り付け



プールでカヌーの操縦練習



ダムから岩手山を眺める



標高の読み取りと観測平面図の CAD 作業

参考資料 図4、図7、図8、写真1

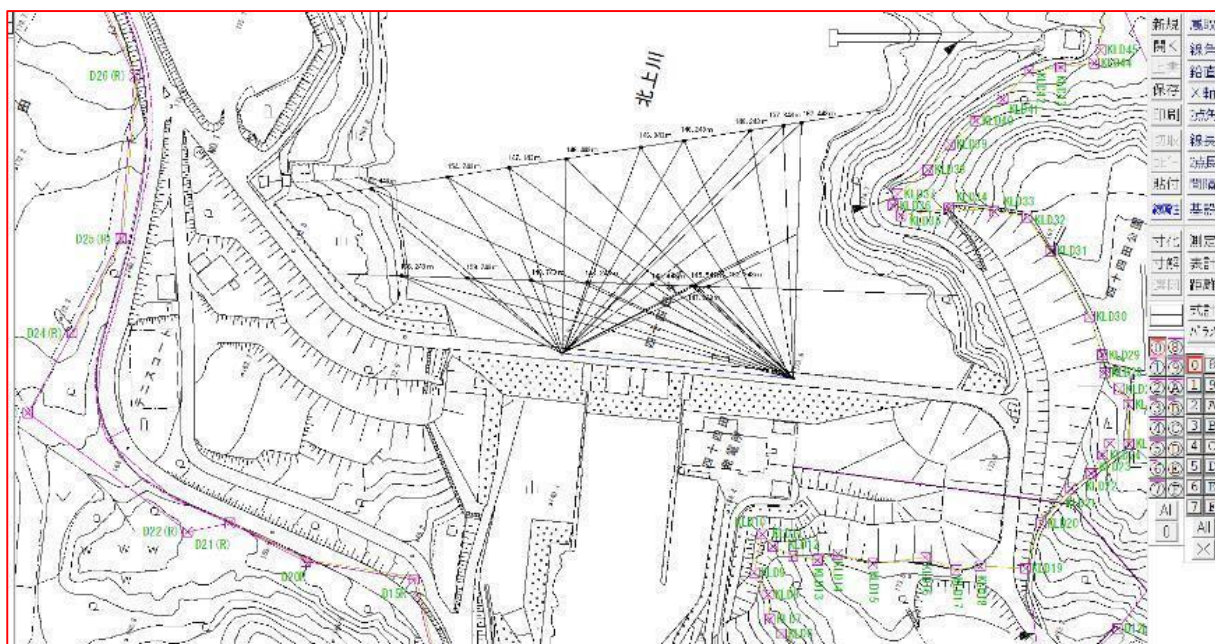


図4 TSによる観測結果を示したCAD図面（国交省北上川流域ダム統合管理事務所提供数値地図を活用）

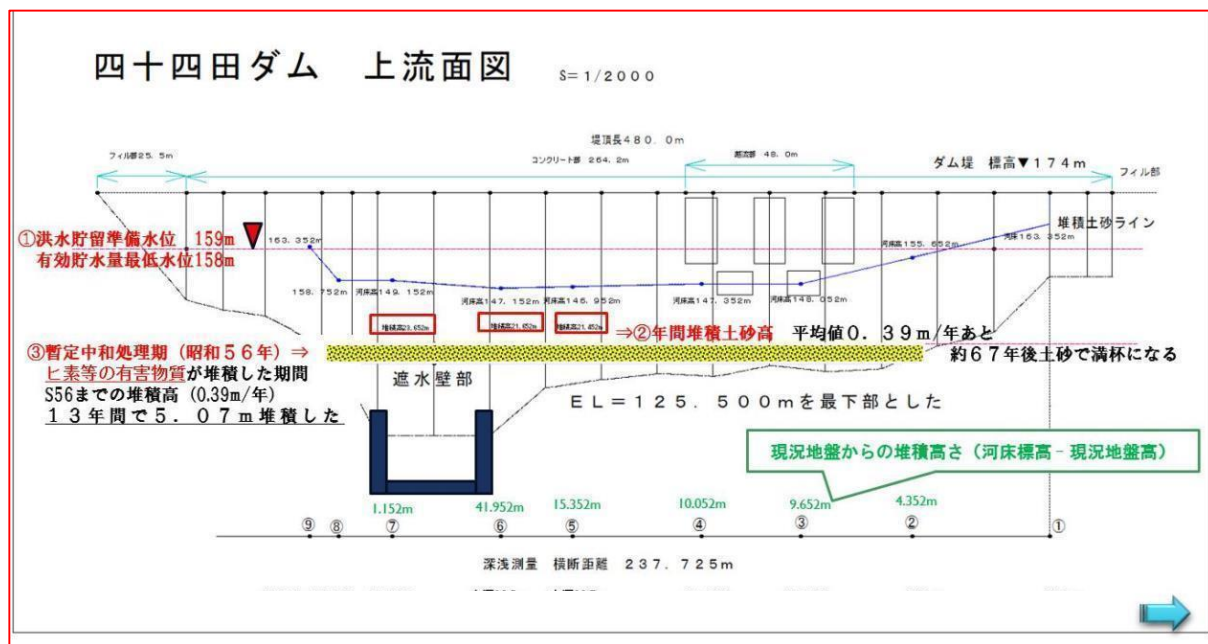


図7 河床標高の観測結果を示したCAD図面（ダムに向かって堆積状況がわかるように図化）

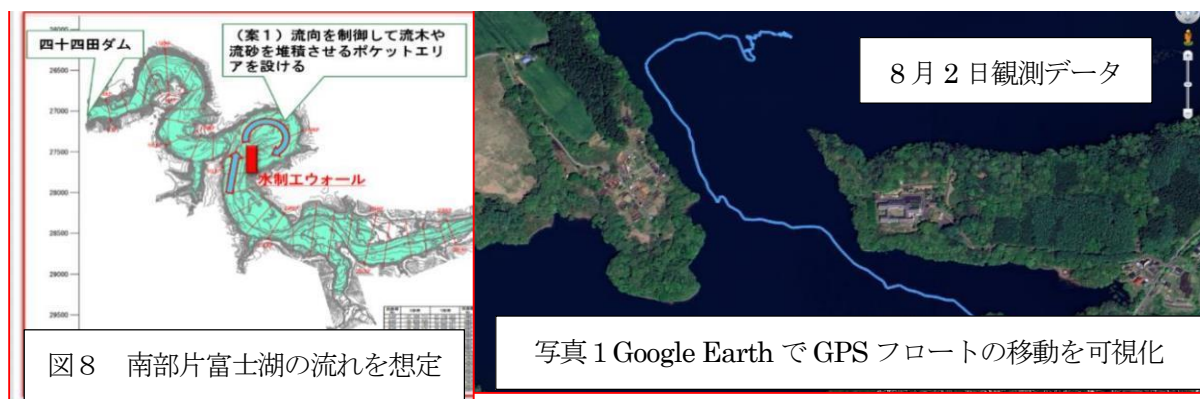


図8 南部片富士湖の流れを想定

写真1 Google EarthでGPSフロートの移動を可視化

岩手県産業教育振興会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部 最優秀賞 受賞作品

広めよう！梅でつなぐ私たちの特産品
～盛農から沿岸地域へ活力を～
岩手県立盛岡農業高等学校

食品科学科 3年

竹村 蓮 岩崎 さら 川崎 俊平 菅原 百
兼平 楽々 芳賀 湮玖 三橋 園香

1 研究動機

岩手県の沿岸部は東日本大震災津波により甚大な被害を受けました。大槌町もその地域の一つであり、震災後、地域の人々は心のよりどころとして三陸御社地天満宮を再建しました。天満宮の紋は梅の花であり、社務所を営む甘輝舎から梅ジャムを製造している本校に梅を活用した特産品を開発して欲しいと依頼がありました。原料の梅は沿岸地域で採れた梅であり、釜石の酒造会社浜千鳥で梅酒製造に利用している梅です。製造後の梅は廃棄されており、特産品を開発することで梅の廃棄量の削減にも貢献できることから共同で商品の開発に取り組むことにしました。

研究目標は梅酒製造後の梅を活用した商品開発を行い、開発した商品の販売及び普及活動により沿岸地域の特産品として育成すること。さらに製造技術を提供、沿岸地域で製造することができるように生産移行することとしました。

2 実施計画

- (1) 梅酒製造後の梅を活用した商品開発
- (2) 商品販売及び普及活動による特産品としての育成
- (3) 沿岸地域への生産移行

3 実施内容及び結果

- (1) 梅酒製造後の梅を活用した商品開発
本校で製造方法が確立している梅ジャム、梅の

形状をまるごと残した甘露煮、多くの人が食べているパンに着目し、梅ジャムを使用したパンの開発を目指しました。

①梅ジャム製造

梅酒製造後の梅のため、アルコールの除去が製造上の課題でした。私たちは2つの方法でアルコールの除去を試みました。「1 梅の実を一晩、水に漬ける」。アルコールは水に溶けるため梅の実からアルコールが溶出、除去ができ、さらに非加熱処理のため、色の退色も防止できると考えました。「2 お湯で茹でる」。アルコールの沸点は水よりも低く、加熱により除去ができ、さらに梅のエキスが溶け込んだゆで汁も使用することができると考えました。

1の方法は果肉が硬くペーストにできませんでした。2の方法はペーストにすることができ、梅ジャムを製造することができました。製造後の検査でアルコールの除去を確認しました。

次に商品ラベルの作成です。ラベルの作成は三陸御社地天満宮の狛犬をデザインした「たぐさん」



が担当となりました。「甘輝舎、浜千鳥、盛農の三者の交流について表現したい」という私たちの意見を取り入れていただき、さらに班員全員の似顔絵が描かれた商品ラベルが完成、商品販売を開始しました。しかし、問題が発生しました。7ヶ月間5℃以下で保存をしていたジャムに砂糖の結晶化を発見。冬季期間にも発生する可能性を考え、商品の改良を行いました。

私たちは砂糖の結晶化が起こる原因について調べ、科目「食品化学」の転化糖に着目しました。転化糖とは砂糖の主成分であるスクロースに希酸を添加することで生じる糖類です。転化糖は結晶化しにくいので、冷蔵で販売される冷菓や清涼飲料水に利用されています。この原理から原料の梅が長期間、酒類へ浸漬されることで多くの酸が溶出し、ジャム製造で加える砂糖が転化糖に変化できないため結晶が発生するのではないかと仮説を立てました。この仮説を証明するためにクエン酸を総重量の3%、5%、10%添加した梅ジャムを試作しました。5℃で1ヶ月間保管していますが、すべての濃度で砂糖は結晶化していません。今後も経過を観察し、仮説を立証したいと思います。

味について食品科学科の生徒に食味検査を実施し、最も美味しいと意見が多かったクエン酸濃度3%で令和6年度はジャム製造を行いました。

②梅の甘露煮製造

製造上の課題はアルコールの除去と色のくすみでした。アルコールの除去については、竹串で果肉を刺し、果肉に穴をあける工程と種を抜くことでアルコールが除去されやすくなると考えました。しかし、竹串は作業効率が悪く、大量に処理することができる剣山に変更し、作業効率は飛躍的に向上しました。さらに検査でアルコールの除去が確認できました。

加熱工程による色のくすみについては日本料理の伝統的調理法である「青寄せ」に倣い、金属イオンの反応を利用して梅の色を緑色に戻せないか検討しました。金属素材の鍋のうち、銅鍋には

食材の色をあざやかにする効果があることを調べ、銅鍋で製造を行いました。結果、くすんだ梅の色が深みのある緑色に戻りました。



商品ラベルは「たぐさん」に作成していただき、商品のラインナップを考慮したデザインになりました。

③梅ジャムを使用したパン製造

パンの形状について班員が考案、製造したパンを本校の先生方にどのパンが特産品としてふさわしいか投票をしてもらいました。投票の結果、蟹の形のパンの得票数が多く、沿岸地域では蟹が多く採れることから「かにパン」と名付けました。また、蟹みそを梅のジャムで表現したらよいのではとアドバイスをいただいたため蟹の胴体をへこませ、その中に梅ジャムを入れて製造してみました。すると緑がかった色合いの梅ジャムが見事に蟹みそを表現、さらに「かにパン」の足をちぎり、梅ジャムをつけて食べる食べ方は遊び心があり、少しずつ食べ進めることができるため、子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方々に愛されるパンになると考えました。また、パン生地について班員で試作品を製造し、柔らかく、もちもちとした食感で梅ジャムと相性のよいパン生地を選定し、「かにパン」は完成しました。



(3) 商品販売及び普及活動による特産品としての育成

①商品販売

開発した梅ジャムは三陸御社地天満宮社務所で令和5年10月より販売しています。また、「おおつち産業まつり」や「盛農祭」、「川徳」で商品を販売しました。

生産個数については、令和5年度は梅ジャム1,109個、梅の甘露煮70個、かにパン261個でした。令和6年度は5月末時点で梅ジャム499個を生産し、甘輝舎に納品しました。令和5年度よりも早いペースで商品は売れています。



②「SDG s QUEST みらい甲子園」への参加

SDG s QUEST みらい甲子園とは全国の高校生が主体的にSDG sを探究し、社会課題を解決するためのアクションアイデアを創出・発表する大会です。

岩手県大会で私たちは廃棄される梅酒製造後の梅を活用した取組について発表を行い、優秀賞を受賞しました。この取組を行うことでテレビへの生出演や「かにパン」開発秘話をドラマ仕立てで制作、テレビ放送されるなど、私たちが開発した商品を多くの方々へPRすることができました。



(3) 沿岸地域への生産移行

梅ジャムや梅の甘露煮の製造方法について、甘輝舎へ繰り返し技術提供を行ったことで生産工房を建設し、製造の準備を始めています。そして、浜千鳥の方々も技術指導を受けるため本校を訪れる予定です。



研究の成果については梅酒製造後の梅を活用した商品を開発し、商品を販売することができました。また、マスメディアの報道により商品の認知が進み販売数が増加、特産品の育成に貢献しました。さらに、生産工房の建設や技術指導を受けるための来校が予定されており、生産移行の準備ができました。

4 今後の課題

- (1) クエン酸を添加した梅ジャムの経過観察を継続します。
- (2) 商品の販売促進活動を継続し、効果的なPR方法を検討します。
- (3) 甘輝舎へは製造機械が導入され次第、加工技術の支援をします。浜千鳥へは技術提供を開始します。沿岸地域で製造できるように生産移行を進めていきます。今後も商品の販売や普及活動を継続し、地域の特産品として広く認知されるように活動を行うとともに生産移行を進め、地域で製造するための技術支援を行っていきます。

岩手県産業教育振興会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部 優秀賞 受賞作品

地域資源と私たちの可能性
～世代を超えて笑顔を広める～

岩手県立盛岡農業高等学校
人間科学科 3年

千葉 心晴
佐々木 拓海
吉村 衣乃

荒 響己
佐藤 寧々
渡辺 玄

坂本 瑛夢 佐々木 あづみ
関 夏菜絵 古川 倫乃
渡邊 友仁

1 はじめに

私たち農福連携班は、SDGsが掲げる「すべての人に健康と福祉を」をモットーに、農業に秘めた福祉的效果と人とのかかわりを持つことで『生きがい』や『充実感』を感じてほしいと考え活動しています。福祉科目「生活支援技術」の授業で、超高齢社会の日本において、「ただ長く生きる」ことよりも「よりよく生きる」という高齢者



のQOLを高めることが重要であることを学び、科目「地域資源活用」では、農業が地域社会の環境と福祉に役立つことを学びました。

そこで、私たちは盛岡市が推進するプロジェクト「美食王国もりおか」の特産品6品のうち、盛岡市玉山地区の地域資源であり、短期間での栽培



が可能な「黒平豆」を、盛岡市内の特別養護老人ホームの高齢者と一緒に育てて活用することによって、高齢者の生きがいが高まる可能性があると考え、テーマを「地域資源と私たちの可能性」とし、研究活動に取り組んでいます。

2 事前学習

(1) 施設見学

はじめに高齢者の生活を知るために施設見学を行いました。興味を引き出すような声掛け、わかりやすいルールで、手の運動、記憶を使うレクリエーションを楽しんでいる姿を見ることができ、今後の交流会で、個々の利用者さんへの対応方法を検討する良い機会になりました。



(2) 黒平豆を活用した郷土料理に挑戦

黒平豆は黒豆よりも少し大きくて光沢があり、表面に3本のしわが出るのが特長です。ポリフェノールを豊富に含み、体内のコレステロールを分解し、血圧を下げる効果も期待できます。昨年、黒平豆を使った郷土料理づくりに挑戦し、できあがった黒平豆味噌は黒平豆の深いコクがあり美味

しかったです。このように優れた黒平豆を高齢者と一緒に栽培から収穫、そして加工までできれば、喜んでもらうことができるのではないかと大きな期待を持つことができました。



3 研究目標及び実施計画

- (1) 高齢者に負担の少ない農業活動の検討
- (2) 地域資源「黒平豆」を取り入れた交流会の実施
- (3) 生きがいを評価する方法の検証及び交流会の評価

4 実施内容および結果・考察

- (1) 高齢者に負担の少ない農業活動の検討

①ふれあい交流会



昨年の秋には、初めてふれあう交流会を実施しました。高齢者が座る車いすの操作は初めてで緊

張し、操作に集中しすぎて、会話をする余裕がありませんでした。また方言があって聞き取りづらかったり、話題に困ってしまい、コミュニケーションが取れなくなってしまうこともありました。その後、ハンドマッサージを行いました。麻痺のある方や、指の拘縮、手の変形など、さまざまな症状がありますが、痛みを与えることなく、ゆっくりとした時間を過ごしながら会話もできるようになりました。



年末に活動を振り返り、本校の畑に招いて収穫を楽しめたらと今後の交流会の計画を立て高齢者理解を続けてきました。交流予定の方々の要介護度が高いことから、畑での作業は足元が不安定になるため安全とはいえないと悩みましたが、施設長さんから「土に触れることで安心する」、「土いじりが好きな人もいる」というお話をいただき、農業を取り入れた交流会をしたいと強く思いました。



②農業を取り入れた交流会

前回のふれあい交流会の経験を活かし、次は一緒に黒平豆を栽培できないか？播種はどうだろうか？また、ハンドマッサージをした時の手の状態から、つかむ力や、指の曲がり方に対応できるように、アイスのヘラを使う工夫をしたらどうだろ

うか？と考えました。ポリポットへの播種に決めて、色を選んでもらう楽しみを想定し、7色のポットを用意しました。達成感を得るためには、交



流会の成功が一番です。確実に発芽することが大切だと考え、学校で昨年収穫した黒平豆を6つのポットに入れ、恒温器を使用して発芽実験をしたところ、開始5日目には芽が出始め、7日目には4つのポットから確認できました。

(2) 地域資源「黒平豆」を取り入れた交流会の実施

①デザートレシピづくり

利用者が甘いデザートを好んで召し上がることを知り、プリンに加工しました。見た目も楽し



めるように2層にして、容器の形やトッピングも工夫しました。施設の管理栄養士の方から二度アドバイスいただきましたが、どうしても豆の芯が口に残ってしまいます。黒平豆特有の調理方法



があるのではないかと考え、近所の産直に豆の炊き方を伺うと、浸水時間と炊き方に工夫があることを丁寧に教えていただきました。

教えていただいたとおりに調理すると、ほくっと崩れる柔らかさと黒いツヤを出すことができました。

②黒平豆プリンの試食

今年4月に認知症の方12名が参加しての交流会を実施し、黒平豆を取り入れた内容を3つ用意しました。黒平豆を知ってもらうために黒平豆プリンをご馳走しました。目の前に置いた瞬間から表情が明るく変わり、「おいしい！」「豆がやわらかい！」「もっと食べたい！」と感想をいただき、



一人もむせることなく、全員が完食しました。次の作業のために身支度を整えます。「次は何をするの？」と興味を湧いている様子が伝わってきます。

③黒平豆の播種

次に一緒に黒平豆の播種を行いました。7色のポットを目の前に用意すると、「赤いのがいい！」「いろんながあるのね！」と早速興味をもってお話してくれました。ヘラを上手に使いながら、



ご自身の思い出や豆栽培のお話をしてくださり、あっという間にすべてのポットに播種をすることができました。明るい声が会場いっぱいに広がり、

笑顔をたくさん見ることができました。

④黒平豆味噌のプレゼント

最後に私たちが昨年仕込んだ黒平豆の手作り味噌をプレゼントしました。笑顔で受け取ってくださったのがとてもうれしかったです。


⑤評価

交流会後、私たちの活動を見学に来てくださった滝沢市社会福祉協議会の方から「食事と農業をツールにできるのはみなさんの強みだと思う。」と人間科学科の学びの成果だとお話をいただきました。施設長さんからは「コロナで昨年からやっとふれあう交流をはじめたところ、みなさんの交流がありがたい。」と継続した交流を評価していただきました。

評価

人間にとって食べること、土を始めとして物を育てることは大事なことです。
畑づくりをしていた大先輩が喜んでいました。

昨年からふれあう交流をはじめたところ。
継続したみなさんの交流がありがたい。
また来てください！



特別養護老人ホーム
施設長

(3) 生きがいを感じる方法の検証及び交流会の評価

参加者にどのような効果があったのか、『生きがい意識尺度』という質問用紙を使って 10 名の方に回答していただきました。9つの質問に対し

| 生きがい意識尺度 (Ikigai-9) | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|
| あなたの思っている気持ちを教えてください。 | | | | |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 自分は幸せだと感じる事が多い。 | | | | |
| ここにゆとりがある。 | | | | |
| 生活がゆたかに充実している。 | | | | |
| 何か楽しい事を学んだり、始めたいと思う。 | | | | |
| 色々なものに興味がある。 | | | | |
| 自分の可能性を伸ばしたい。 | | | | |
| 自分が何かに他人や社会のために役立っていると思う。 | | | | |
| 自分の存在は、何や、誰かのために必要だと思う。 | | | | |
| 自分は誰かに影響を与えていると思う。 | | | | |

て5段階で答えることにより、「生活・人生に対する楽天的・肯定的感情」「未来に対する積極的・肯定的姿勢」「自己存在の意味の認識」の3つの項目を点数で評価します。認知症の方は、主観的な回答が難しいため、職員の方に客観的に回答してい

ただきました。回答期間は前日までの様子と、交流会直後の2つの期間です。



特に変化が大きく見られた参加者のグラフです。ピンク色の棒が交流会直後を表し、上昇したことがわかります。「自己存在の意味の認識」という項目において 40%の方は現状維持、60%の方が



平均して 1.83 点上昇しました。これは他者と接することで、自分の価値を見出した、生きがいを感じることができたと評価できます。特にHさんには大きな上昇が見られました。交流会でのHさんは、ニコニコ笑顔で「楽しいね!」「来てくれてうれしい!」と積極的に私たちに話しかけてくれた方でした。参加者に良い効果をもたらすことができたと確信しました。

5 研究成果及びまとめ

- (1) 継続した交流を重ねたことで、高齢者に負担の少ない内容を取り入れることができた。
- (2) 地域の方々の協力により、黒平豆の調理方法を学ぶことができ、黒平豆交流会を実施することができた。
- (3) 私たちの活動がたくさんの笑顔を引き出し、生きがいにつながる喜びを体験してもらうことができた。

6 今後の課題

- (1) 高齢者と一緒に収穫・脱穀の実施
- (2) 黒平豆を使った遊具や食品の開発と認知
拡大

7 おわりに

人間科学科で学ぶ農業の知識や農機具の扱い方で不十分な点は本校の各学科の専門分野を共有し合い、農業と福祉が連携した学びも多かったです。そして、地域の方々の協力により活動を進めることができました。協力してくださった方々にとても感謝しています。

人間科学科で学ぶ私たちには、「相手を思いやる力」、「人とかかわる力」があります。進学、就職してからもこの力や経験は活かされ、無限大の可能性を持っています。

地域資源も同様に多くの可能性があります。私たちは農業をきっかけに人とのかかわりを増やし、世代を超えて人々の笑顔を増やせるよう、これからも学びを深めていきます。



産業教育振興中央会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部 佳作 受賞作品

私の運命を変えた一言

岩手県立釜石商工高等学校

電気電子科 2年

成田 慧七

私が進路を決めるにあたり、専門高校の電気電子科を選択した理由は、中学3年生の時に各高校の先生方が来校され、各学校のさまざまな特色を紹介する高校説明会でのお話がきっかけとなりました。

正直、当時の私は、具体的な夢や目標がなく、漠然と普通高校へと進学し、その後はもしかしたら大学に進学して、何か人の役に立つ仕事がしてみたい、としか考えていませんでした。そんな時に釜石商工高校の先生のお話を伺って、私の考えは一転しました。その時に先生が話されたことは「電気・水道・道路の3つのライフラインは、人々が生活していく上で必要不可欠なものであり、これらの業種に就職することは、産業や暮らしの土台を支えるとてもやりがいのある仕事になることは間違いありません」という言葉でした。

私はこの時、その先生のお話に納得すると同時に祖父がずっと私に話してきたことを思い出しました。それは祖父がまだ若く、仕事に就こうと職を探しはじめた時、電気関係の会社と地元の製鉄所関連の会社の両方から声をかけられた事があったそうです。当時の釜石は、約10万人くらいの人口があり、鉄の街と言われるほど製鉄所の仕事が盛んでした。祖父は勢いのある製鉄所関連の仕事に就職し、充実した日々を過ごしましたが、その後、釜石に2基あった巨大な溶鉱炉は時間を経て、一基ずつ解体されることになりました。ともに働いていた人々は次々と他県へと異動し、会社の規模も徐々に縮小していききました。その間にも発電所や送配電施設など

の電気施設は地方でも次々と増設され、電気技術も発展し続け、祖父は心の片隅にあった電気技術への憧れから、「目先の良いことだけに捕らわれず、自らの興味や、自分がどのような技術をもって社会に関わっていきたいかをしっかり考えていきなさい。そのうえで電気技術については今後も発展し、社会の需要はますます大きくなるので、魅力ある仕事になるのではないかと、自らの思いを私に託すよう何度も語ってくれました。

その祖父も他界し、私は自分たちが今暮らしているこの地域に電力を供給する電力会社で働きたい、という未来予想図を描き始めた中学3年の私に、また運命的な出来事が起こりました。夏休みの課題で書いた作文が、作文コンクール岩手県第2位、東北第3位、という結果をいただきました。この作文コンクールの主催者は東北電力で、与えられたテーマは「未来の自分に伝えたいこと」、そして私が書いた作文の内容は、大好きな祖父への感謝を綴ったものでした。

秋の終わり頃、まだコロナ禍の影響で学校の行事が中止や縮小となっていた時期でしたが、東北電力の方が中学校へ来校され、作文コンクールの表彰をしていただきました。その後、話をしていく中で、将来の希望はと聞かれ、私は「東北電力を目指しています」と答えたところ、東北電力の方は「待っている」と言って下さいました。祖父が私に託した思いを作文に描き、その思いを祖父が憧れた企業から認めていただいたことで、さらに電気のことを勉強し、電

気をととして社会で活躍したいという意欲が湧いてきました。

現在は釜石商工高校の電気電子科へ入学し、毎日大好きなバスケットボール部での活動が続け、学習と部活動との両立を意識した学校生活を送っています。

専門教科の学習では、電気技術の基礎を学び、多くの資格取得にチャレンジしています。入学当初は、直接は目に見えない電気の働きに難しさを感じ、理解するまでに時間がかかることもありましたが、徐々に電気回路、電子回路の考え方、計算方法にも慣れ、毎回テーマが変わる電気実習やその実習レポートの製作にも興味をもって取り組んでいます。

去年は第2種電気工事士を受験しました。第2種電気工事士は筆記試験と実技試験の二つの試験があり、筆記試験では計算、公式、鑑別など覚えることが多くありました。勉強を始めたばかりの頃は、計算方法が分からず、テキストの解説を見ながら計算方法を身に付けようとしていました。また図記号や、工具や器具の名称や役割を覚えられず、模擬試験ではなかなか合格点をとることができませんでした。そこで、家で勉強時間を増やし、過去の出題問題を繰り返し解くなど、これまで以上に勉強に励むことで、悩まずに計算問題も解けるようになり、図記号や鑑別の名称とその役割なども確実に覚えることができました。模擬試験の結果も上昇し、最終的に筆記試験に合格することができました。

その後の実技試験に向けても、やはり勉強の出だしはつまずくことがありました。複線図を正確に描けない、電気回路を指定時間内に完成できない、など失敗が続きましたが、仲間と練習を重ねていくうちに、複線図を描くことに自信が付き、時間内の回路製作も難なくこなせるようになり、第2種電気工事士に合格することができました。

今年度は第2級陸上特殊無線技士に合格し、つい最近、工事担任者試験第2級デジタル通信の受験を終えました。そしてこの秋には第1種電気工事士に挑戦します。

東日本大震災では、すべてのライフラインが止まり、恐怖と不安の日々を過ごした記憶があります。日常の生活が失われたその中で、一番最初に電気がついたときの安心感は忘れられません。あの大震災を経験したからこそ、電気のありがたみを身に染みて感じています。私はこの気持ちを忘れずに、地域の方々に安心、安全に電気を届けることができる仕事に従事していきたいと思っています。

中学時代に私たちの学校に出向き、電気の仕事とその学習の魅力について話をされた先生の言葉に励まされ、将来の職業を決断することができました。

いつ、どこに自分の目標となるヒントが隠れているのかはわかりません。私はそのことに気が付くきっかけをつくって下さった高校の先生に感謝をしています。

そして中学時代に私が電力会社の方にお答えした、将来、進路先として希望する会社への思いも変わっていません。むしろ本格的に高校で電気を学び、専門資格に挑戦することで、その気落ちはより強くなり、はっきりとした形でイメージすることができるようになってきたと思っています。

高校卒業後、目指す会社に就職するべきか、大学へと進学してからその道に進むべきなのかを悩んだ時期があります。そんな時、祖父の「目先の良いことだけに捕らわれず、自らの興味や、自分がどのような技術をもって社会に関わっていきたいのか」という問いに対して、今では「大学へ進学したい」とはっきり言えます。それは、大学で電気工学を専攻し、高度な技術や知識を習得し、教養を養うことで、より自分を成長させることができるのではないかと今は考えているからです。

簡単な道のりではないと思いますが、自分を信じ、目標である地域の産業や暮らしに最も貢献できる電力会社での電気技術者を目指したいと思っています。

岩手県産業教育振興会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部 最優秀賞 受賞作品

未来は、ダイバーシティ農業だ！

岩手県立花巻農業高等学校

生物科学科 3年

高橋 孝太

私は、花巻市鍋倉地区で米を作る専業農家の長男です。父と母、祖父母の家族経営で、9町歩の水田にひとめぼれともち米を栽培しています。また、母や祖母を中心に大福餅や串団子、きなこ餅など加工品も作り地元の産直で販売しています。

私は近い将来、この経営を引き継ぎます。昨年4月、進路希望調査があり、両親に相談したところ、父からは、「お前は、まだまだ考え方が幼すぎる。進学してもっと勉強なさい。ただし、金はないぞ。」と強烈な一言を言われました。このことを担任の先生に相談すると、「進学は良い話だね。でも進学にはお金がかかる。まだ時間があるので、とりあえず大学進学を目標に勉強はしとくか。」と助言いただき、とりあえず進学の勉強をはじめました。それから数日後、先生に呼ばれ、「今、市内の富士大学で花巻市民を対象としたまちづくりのワークショップ参加者を募集している。高校生も参加できるので、大学の雰囲気味わってきなさい。」と紹介され、行くことにしました。このワークショップのテーマは、「多文化共生社会のまちづくりワークショップ」といい、市内に住む外国人、留学生、一般市民が参加して異文化の外国人との関わりの中でお互いの住みやすいまちづくりについて意見交換をするもので、年5回開催されました。第3回目のワークショップで、ある参加者から、せっかく花農生が参加しているので、「多文化共生社会の農業のまちづくり」で意見交換するのも良

いかもね。次回少し話そうかと発案されました。私は多文化共生と農業をどう考えるのか理解できず、学校に持ち帰り先生に話すと、農業もいろいろな形があり、「ダイバーシティ農業」という研究があることを教わりました。ダイバーシティは、「多様性」という意味で、さまざまな人たちが活力ある地域農業社会の実現を掲げ、今ある地域農家の課題を解決しながら発展を目指すものであることを知りました。そこでワークショップの参加者にも農業経営者がいることから、その力も借りてアドバイスをいただき、これから私が後継ぎとしてダイバーシティ農業を理解し、持続的な農業と地域農業を盛り上げるための経営者となるためにどう取り組むべきか、これから実践できることはないか、就農5年後、10年後の将来のビジョンを考えてみることにしました。

まず第1に今やるべきことは、高度な農業を学ぶことです。父から学ぶ栽培技術はもちろんのこと、これからは固定化された伝統農業にこだわらず、新しい技術導入の知識を修得することです。DX、デジタルトランスフォーメーションといわれるITの活用が今後の農業経営者の絶対条件になると考えます。ITの浸透がこれからの農業を大きく変えます。そのために大学に進学し、あわせて自治体や地域団体の新技術研修会を受講することで、新しい農業のあり方がどんどん見えてくると思います。今、花巻市では、民間企業や研究

機関にテストフィールド、実験圃場を提供するプロジェクトが推進され、水田の水管理を携帯があればどこからでも遠隔操作を可能にした農業用IoT通信のインフラが整備され大活躍しています。低コストなため、本校の水田でも導入しています。

就農5年後の目標は、経営者として地域経済や他産業の状況を知ることです。これもワークショップに参加する経営者から教えていただいたことで、地元の多様な経営者が集まる商工会議所や中小企業同友会などの会員となり、他産業の経営者と意見交換する機会があれば地域の課題を見つけやすいことを知りました。また、個人経営を法人化して、高齢化で作付けできない水田を引き受け、規模拡大することも地域貢献のひとつになることを学びました。

さらに10年後の目標は、我が家の経営が、地域農家の中核としてコミュニティに貢献することです。自治体やJA、集落農家と協力して地域に存在する課題を共通理解することで農業基盤の整備が推進され、助成されます。個人では実現できないことを地域全体、まちがまとまれば実現可能になることを確信しています。また、経営の完成形として、時代にあった柔軟な働き方改革を実践します。プライベートと仕事の両立を図り、多様な生活スタイルに対応する経営者になることです。個人経営の各農家は、様々な事情やニーズを持った多様な形で農業を営んでいます。それぞれを尊重しながら集落で孤立せず、毎日声を掛け合うことができるコミュニティであることがダイバーシティ農業の重要なポイントになります。

今年も富士大学では、「多文化共生社会のまちづくりワークショップ」が開催され、私も再び参加しています。今、私が就農前にすべきことは、ダイバーシティ農業を理解し、より高度な知識を学ぶことです。ワークショップに参加して、多くの方々と意見交換したことで、人生を変えるほど大きく成長できたと自覚しています。私は、農業高校を卒業して、我が家の繁栄と地域農業に貢献

する力をつけるために農学部に進学します。これからも多くの先生方の力を借りながら、近い将来に向けての地固めを一步一步進め、稲作農家の後継ぎとして就農の日まで精一杯努力していきたいと思っています。

岩手県産業教育振興会 専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部 優秀賞 受賞作品

伝統工芸品を地域のために

岩手県立盛岡農業高等学校

環境科学科 2年

平田 彩笑

岩手県の伝統工芸品は、なんですか。そう聞かれたとき、みなさんはなんと答えますか。南部鉄器や浄法寺塗、岩谷堂タンスと答える人が多いと思います。私も実際に聞かれた時は、これらの伝統工芸品を答えます。ですが、正直これ以外も紹介して欲しいと言われると、なかなか出てこないものです。岩手県の伝統工芸品について調べてみました。岩手県には、知る人ぞ知る伝統工芸品が豊富にあることに気がついたとともに、これからの伝統工芸品のあり方について考えさせられるきっかけにもなりました。

高校一年生の私は、一戸町のあるイベントに参加する機会がありました。そこでひとりの「おじさん」に会いました。ここで紹介したいのが、岩手県の北部、一戸町で長い期間続く伝統工芸品、ニギョウ箕です。

箕というのは、穀物を脱穀した際に出た殻やゴミを振り分けるために使う道具のことで、どじょうすくいに使われる道具と同じものです。その箕を、サルナシやコクワと呼ばれるニギョウの木の皮を主として、サクラやヤナギも編み込んで作っている方が、一戸町の戸部定美さんです。ニギョウの皮は、水に漬け乾燥させることを繰り返すことで、森に映える美しいオレンジ色へと変わっていきます。そのオレンジ色が私に伝統工芸品のすばらしさを伝えてくれました。

「無駄にならんように、無駄にならんように」この言葉は戸部さんが木の皮を削ったり、切ったり

していたときに繰り返していた言葉です。自然を大切にしていきたいという戸部さんの思いがとても伝わってきました。それと同時に、私には、こんな素晴らしい伝統工芸品をもっと広めたい、守っていききたい、そういう思いが生まれてきました。イベントと一緒に参加した仲間にこの思いを共有したところ、同じような思いを持っていました。

「一戸町の魅力を広めていきたい」。そこで、戸部さんと私の仲介をしてくれた一戸町役場の方とお話しして具体的にどのようなことを行っていくのかを考えました。

初めに出た課題は、対象を誰にするのか。全国に向けて発信していきたいという案が出ましたが、学生の力だけでは難しいことや、まだ一戸町の知識が私たちに不十分なことが問題として挙がってきたため、この案はなしとなりました。まずは、一戸町の人に自分の住んでいる町の魅力を知ってもらうことが一番ではないか、という案に賛同し、対象は一戸町民ということで決定しました。

次に出た課題は、どのように一戸町民に発信していくか。SNSが一番効果的のように感じられましたが、高齢化の進んでいる一戸町では向いていないのではないか、というアドバイスを役場の方からいただきました。それと同時に、一戸町の全世帯に配られ、広報力の高い「広報いちのへ」という広報の存在を教えていただきました。この広報は私たちにとっての救世主であり、これは活用させていただくべきだということで、役所の方に

ご協力していただくことになりました。この案が通れば次の課題は、何をどのように掲載していただくか。自分が担当した方の氏名、何を作っているのかを主に、どんな特徴があるのか、作っているときの思いなども混ぜながら掲載していきたいと話し合っています。

また、町の魅力について賛同したグループは全員で6人。ちょうど半年間の連載にできるのではないかと考えました。連載にすることでより多くの作品を作っている方を紹介することができるので、この案を役場の方に提案していく予定です。

伝統工芸品を使ってほしいというのが私の思いではありますが、少し課題があります。それは値段です。大量生産が難しいことからこれは仕方ありません。伝統工芸品は高級品で、数に限りがあることから値段を下げる必要はないと考えます。都心部の方々が伝統工芸品の素晴らしさを感じることができたら、購入してくれる機会が増え、発展していくと考えました。そこで私ができることは、伝統工芸品のすばらしさを伝えていくことです。さらに伝統工芸品を作っている方をビデオカメラに保存し、後継者育成のためにも地域のコミュニティで活用していただき、私は「後継者をなくさない」お手伝いをしたいと思います。

私の思う伝統工芸品の一番の良さは、作っている人の温かさを感じることができることです。こんなこと誰でもわかる、そうってしまう人もいるかと思いますが、実際に戸部さんが箕の編み方で作った手提げカバンを使ってみてとても温かみを感じました。色、触り心地が同じものは一つもなく「唯一のもの」ということも良さの一つです。

また、木を使った工芸品に限られることですが、森林の過密化を改善する良さもあると思います。地域の資源を使って作られる伝統工芸品。私たちが、地域のために積極的に使っていきたいと思います。実際に私は、戸部さんと森へ行って、「この木はもう切っていいやつやね、この木はまだ若いから切っちゃいかん」などと教えていただきました。そ

う言いながら険しい山を猛スピードで駆け上がっていく戸部さんのたくましい背中を、この人にはかなわないなと思いながら後を追いました。

最新技術を使えば、同じ伝統工芸品でも、簡単に早くかつ正確に大量生産することができ、安く購入することができるようになります。しかし、伝統ある手作りの工芸品を使うことで、作っている方の温かさを感じられるだけではなく、心が落ち着いたり、新たな気持ちになったりと、日常生活にプラスαできると思います。伝統工芸品を使って自然に触れてみるのもとてもいい機会だと思いませんか。

私は将来、身近に迫っている社会問題や地域資源の活用について、様々な視点や農学的視点で解決し、あらたな価値を創造できるよう知識と技術を身に付けたいと思います。そして、将来、岩手で貢献できる人材になるために、大学進学を目指し、地域資源活用を学びながら、今後も伝統工芸品のすばらしさを伝えられるよう取り組んでいきます。

ご か し き ん
御下賜金記念優良卒業生選奨規程

公益財団法人 産業教育振興中央会

1. 趣旨

各専門高校等の卒業時に、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を選奨することにより、我が国産業教育の振興に寄与するとともに、生徒の学業等諸活動の活性化に資することを目的とする。

2. 選奨の対象生徒について

- (1) 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの専門教育を主とする学科及び総合学科を置く高等学校等（**本会会員校**）において、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を対象とする。選奨候補者は、原則として学校ごとに1名とし、分校、定時制及び通信制の課程は、それぞれ1校とみなす。
- (2) 複数の分野の学科を置く高等学校においては、例えば、農業の園芸科、農業土木科、畜産科、工業の機械科、電気科、建築科などの学科別とせず、農業、工業等の分野ごとに1名に限定する。
- (3) 総合学科については、専門分野コースの数にかかわらず総合学科として、1名とする。
- (4) 別科、専攻科については、上記に準じて選奨することができる。

3. 表彰状の授与

選定された者に対し、卒業式当日、本会会長名の表彰状を授与する。

岩手県産業教育振興会優良卒業生選奨規定

岩手県産業教育振興会

- 1 令和6年度卒業予定者で人物・学業ともに優秀である者、もしくは専門高校生徒の研究文・作文コンクール、各種競技会、体験発表会等で優秀な成績を収めた者。
- 2 各学科ごとに1名とする。総合学科にあっては各系列1名（普通科系列を除く）
また、普通科にあっては産業に関するコース選択者を含めてもよいこと。
- 3 各学科内における〇〇〇コース・〇〇〇班ごとの表彰は行わない。あくまでも、各学科1名の表彰に限る。
※ 生産技術科〇〇コース・生産技術科△△コース
（生産技術科は1名のみの表彰）
- 4 専攻科及び定時制も対象とすること。
- 5 御下賜金記念優良卒業生と重複しないこと。

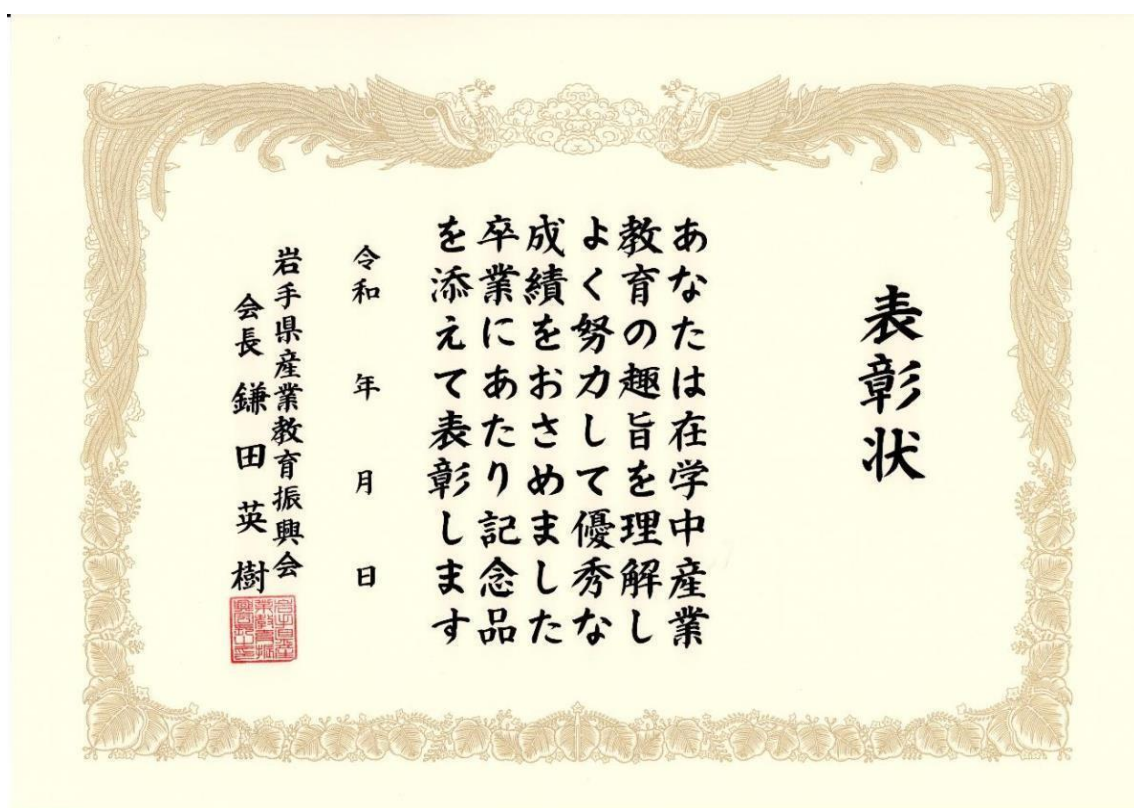
令和6年度 御下賜金記念優良卒業生選奨 表彰状配布一覧

| 番号 | 学校名 | 中央会表彰 | | 岩手県産業教育振興会表彰 | | | | | | | | |
|----|----------|------------|------------|---------------------|----|----|----|----|----|----|------|-----------|
| | | 大学科 各1名 | 専攻科 定時制 | 各小学科代表1名・総合学科は各系列1名 | | | | | | | | 小学科 合計 |
| | | | | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 福祉 | 看護 | 普通就職 | |
| 1 | 盛岡農業 | 1 | | 5 | | | | | | | | 5 |
| | 盛岡農業(専) | | 1 | 1 | | | | | | | | 1 |
| 2 | 盛岡工業(全) | 1 | | | 7 | | | | | | | 7 |
| | 盛岡工業(定) | | | | | | | | | | | 0 |
| 3 | 盛岡商業 | 1 | | | | 3 | | | | | | 3 |
| 4 | 平舘 | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 5 | 紫波総合 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | 4 |
| 6 | 花巻農業 | 1 | | 3 | | | | | | | | 3 |
| 7 | 花北青雲 | 3 | | | 1 | 1 | | 1 | | | | 3 |
| 8 | 北上翔南 | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| 9 | 黒沢尻工業 | 1 | | | 6 | | | | | | | 6 |
| | 黒沢尻工業(専) | | 1 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 10 | 水沢農業 | 1 | | 2 | | | | | | | | 2 |
| 11 | 水沢工業 | 1 | | | 4 | | | | | | | 4 |
| 12 | 水沢商業 | 1 | | | | 3 | | | | | | 3 |
| 13 | 岩谷堂 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | 4 |
| 14 | 一関第二 | 1 | | | | 1 | | 2 | 1 | | | 4 |
| 15 | 一関工業 | 1 | | | 3 | | | | | | | 3 |
| 16 | 大東 | 1 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 17 | 千厩 | 2 | | 2 | 1 | | | | | | | 3 |
| 18 | 高田 | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 19 | 大船渡東 | 4 | | 1 | 3 | 1 | | 1 | | | | 6 |
| 20 | 釜石商工 | 2 | | | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 21 | 遠野緑峰 | 2 | | 1 | | 1 | | | | | | 2 |
| 22 | 宮古商工 | 2 | | | 2 | 3 | | | | | | 5 |
| 23 | 宮古水産 | 2 | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| | 宮古水産(専) | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 24 | 久慈東 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 5 |
| 25 | 久慈工業 | 1 | | | 2 | | | | | | | 2 |
| 26 | 種市 | 1 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 27 | 北桜 工業 | 1 | | | 2 | | | | | | | 2 |
| | 北桜 総合 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | 4 |
| 28 | 盛岡市立 | 1 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 29 | 岩手女子 | 2 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 |
| | 岩手女子(専) | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 30 | 盛岡誠桜 | 2 | | | | 1 | | 2 | | | 1 | 4 |
| | 盛岡誠桜(専) | | 1 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 31 | 盛岡スコーレ | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 32 | 専大北上 | 2 | | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 33 | 水沢第一 | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 34 | 江南義塾 | ※ | ※ | | | | | | | | 1 | 1 |
| 35 | 一関学院 | ※ | ※ | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 合計 | 47 | 5 | 19 | 37 | 23 | 5 | 16 | 5 | 1 | 4 | 110 |

※ 江南義塾及び一関学院は産業教育振興中央会に未加入のため中央会表彰に該当せず



産業教育振興中央会 御下賜金記念優良卒業生表彰



岩手県産業教育振興会 優良卒業生表彰

令和6年度 岩手県産業教育振興会 支援対象校・支援対象生徒一覧

| 番号 | 学校名 | 学科名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 | 総計 |
|----|-------|--------------|----|----|----|----|-----|-----|
| 1 | 盛岡農業 | 動物科学科 | 30 | 38 | 41 | | 109 | 435 |
| | | 植物科学科 | 16 | 26 | 22 | | 64 | |
| | | 食品科学科 | 33 | 37 | 36 | | 106 | |
| | | 人間科学科 | 20 | 21 | 27 | | 68 | |
| | | 環境科学科 | 23 | 31 | 27 | | 81 | |
| | | 特別専攻科 | 2 | 5 | | | 7 | |
| 2 | 盛岡工業 | 機械科 | 40 | 32 | 30 | | 102 | 713 |
| | | 電子機械科 | 36 | 37 | 32 | | 105 | |
| | | 電気科 | 36 | 29 | 39 | | 104 | |
| | | 電子情報科 | 40 | 35 | 40 | | 115 | |
| | | 土木科 | 36 | 27 | 39 | | 102 | |
| | | 工業化学科 | 20 | 15 | 14 | | 49 | |
| | | 建築・デザイン科 | 40 | 38 | 36 | | 114 | |
| | | 工業科(定時制) | 8 | 8 | 5 | 1 | 22 | |
| 3 | 盛岡商業 | 流通ビジネス科(2学級) | 82 | 74 | 79 | | 235 | 710 |
| | | 会計ビジネス科(2学級) | 82 | 71 | 82 | | 235 | |
| | | 情報ビジネス科(2学級) | 82 | 78 | 80 | | 240 | |
| 4 | 平舘 | 家政科学科 | 6 | 9 | 10 | | 25 | 25 |
| 5 | 紫波総合 | エコロジーフード系列 | | 22 | 15 | | 37 | 147 |
| | | ライフデザイン系列 | | 15 | 13 | | 28 | |
| | | 情報・経済系列 | | 28 | 25 | | 53 | |
| | | 福祉・健康系列 | | 20 | 9 | | 29 | |
| 6 | 花巻農業 | 生物科学科 | 24 | 31 | 32 | | 87 | 234 |
| | | 環境科学科 | 15 | 17 | 24 | | 56 | |
| | | 食農科学科 | 31 | 32 | 28 | | 91 | |
| 7 | 花北青雲 | 情報工学科 | 35 | 38 | 35 | | 108 | 446 |
| | | ビジネス情報科(2学級) | 75 | 78 | 68 | | 221 | |
| | | 総合生活科 | 40 | 40 | 37 | | 117 | |
| 8 | 北上翔南 | 情報系列 | | 29 | 25 | | 54 | 102 |
| | | 環境系列 | | 27 | 21 | | 48 | |
| 9 | 黒沢尻工業 | 機械科 | 37 | 25 | 24 | | 86 | 449 |
| | | 電気科 | 28 | 22 | 32 | | 82 | |
| | | 電子科 | 27 | 21 | 30 | | 78 | |
| | | 電子機械科 | 29 | 30 | 23 | | 82 | |
| | | 土木科 | 24 | 16 | 20 | | 60 | |
| | | 材料技術科 | 13 | 22 | 11 | | 46 | |
| | | 専攻科課程 工業技術科 | 8 | 7 | | | 15 | |
| 10 | 水沢農業 | 農業科学科 | 21 | 29 | 25 | | 75 | 117 |
| | | 食品科学科 | 13 | 14 | 15 | | 42 | |

令和6年度 岩手県産業教育振興会 支援対象校・支援対象生徒一覧

| 番号 | 学校名 | 学科名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 | 総計 |
|----|------|---------|----|----|----|----|-----|-----|
| 11 | 水沢工業 | 機械科 | 36 | 39 | 37 | | 112 | 378 |
| | | 電気科 | 27 | 22 | 26 | | 75 | |
| | | 設備システム科 | 38 | 28 | 37 | | 103 | |
| | | インテリア科 | 31 | 40 | 17 | | 88 | |
| 12 | 水沢商業 | 商業科 | 38 | 31 | 34 | | 103 | 296 |
| | | 会計ビジネス科 | 20 | 23 | 31 | | 74 | |
| | | 情報システム科 | 40 | 41 | 38 | | 119 | |
| 13 | 岩谷堂 | 生物生産系列 | | 23 | 19 | | 42 | 139 |
| | | 産業工学系列 | | 15 | 13 | | 28 | |
| | | 流通情報系列 | | 23 | 17 | | 40 | |
| | | 生活・福祉系列 | | 9 | 20 | | 29 | |
| 14 | 一関第二 | ビジネス系列 | | 6 | 9 | | 15 | 104 |
| | | 環境・生活系列 | | 31 | 24 | | 55 | |
| | | 福祉系列 | | 15 | 19 | | 34 | |
| 15 | 一関工業 | 電気電子科 | 29 | 36 | 37 | | 102 | 309 |
| | | 電子機械科 | 32 | 40 | 39 | | 111 | |
| | | 土木科 | 34 | 23 | 39 | | 96 | |
| 16 | 大東 | 情報ビジネス科 | 17 | 13 | 11 | | 41 | 41 |
| 17 | 千厩 | 生産技術科 | 37 | 18 | 40 | | 95 | 168 |
| | | 産業技術科 | 26 | 25 | 22 | | 73 | |
| 18 | 高田 | 海洋システム科 | 11 | 11 | 9 | | 31 | 31 |
| 19 | 大船渡東 | 農芸科学科 | 13 | 13 | 18 | | 44 | 212 |
| | | 機械電気科 | 10 | 18 | 21 | | 49 | |
| | | 情報処理科 | 16 | 21 | 22 | | 59 | |
| | | 食物文化科 | 18 | 23 | 19 | | 60 | |
| 20 | 釜石商工 | 機械科 | 22 | 33 | 21 | | 76 | 180 |
| | | 電気電子科 | 8 | 4 | 10 | | 22 | |
| | | 総合情報科 | 27 | 29 | 26 | | 82 | |
| 21 | 遠野緑峰 | 生産技術科 | 25 | 34 | 31 | | 90 | 113 |
| | | 情報処理科 | 5 | 7 | 11 | | 23 | |
| 22 | 宮古商工 | 機械システム科 | 27 | 20 | 32 | | 79 | 421 |
| | | 電気システム科 | 11 | 18 | 6 | | 35 | |
| | | 総合ビジネス科 | 40 | 40 | 39 | | 119 | |
| | | 流通ビジネス科 | 36 | 38 | 30 | | 104 | |
| | | 情報ビジネス科 | 15 | 38 | 31 | | 84 | |
| 23 | 宮古水産 | 海洋生産科 | 10 | 12 | 11 | | 33 | 127 |
| | | 食物科 | 28 | 29 | 24 | | 81 | |
| | | 専攻科漁業科 | 5 | 8 | | | 13 | |

令和6年度 岩手県産業教育振興会 支援対象校・支援対象生徒一覧

| 番号 | 学校名 | 学科名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 | 総計 |
|----|--------|---------------|----|----|----|----|-----|-----|
| 24 | 久慈東 | 食物系列 | | 18 | 10 | | 28 | 221 |
| | | 介護福祉系列 | | 11 | 14 | | 25 | |
| | | 海洋科学系列 | | 12 | 7 | | 19 | |
| | | 環境緑化系列 | | 7 | 20 | | 27 | |
| | | 情報ビジネス系列 | | 60 | 62 | | 122 | |
| 25 | 久慈工業 | 電子機械科 | 9 | 20 | 19 | | 48 | 68 |
| | | 建設環境科 | 11 | 5 | 4 | | 20 | |
| 26 | 種市 | 海洋開発科 | 12 | 8 | 15 | | 35 | 35 |
| 27 | 北桜 | 機械システム | 16 | 19 | 28 | | 63 | 210 |
| | | 電気情報システム | 17 | 14 | 31 | | 62 | |
| | | 情報ビジネス系列 | | 3 | 7 | | 10 | |
| | | 介護・福祉系列 | | 8 | 6 | | 14 | |
| | | 生活・文化系列 | | 32 | 29 | | 61 | |
| 28 | 盛岡市立 | 商業科(2学級) | 79 | 75 | 79 | | 233 | 233 |
| 29 | 岩手女子 | 看護科 | 22 | 38 | 42 | | 102 | 137 |
| | | 福祉教養科 | 9 | 9 | 17 | | 35 | |
| | | 看護専攻科 | | | | | | |
| 30 | 盛岡誠桜 | 商業系列 | | 34 | 20 | | 54 | 201 |
| | | 家政系列 | | 25 | 18 | | 43 | |
| | | 食物調理系列 | | 24 | 24 | | 48 | |
| | | 専攻科(保育子供未来) | 25 | 31 | | | 56 | |
| 31 | 盛岡スコーレ | 調理選択 | | 32 | 32 | | 64 | 64 |
| 32 | 専大北上 | グローバルビジネス科 | 81 | 79 | 50 | | 210 | 295 |
| | | 自動車科 | | 29 | 18 | | 47 | |
| | | メカニックエンジニアリング | 38 | | | | 38 | |
| 33 | 水沢第一 | 調理科 | 34 | 27 | 36 | | 97 | 97 |
| 34 | 一関学院 | | | | | | | |
| 35 | 江南義塾 | | | | | | | |

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|----|-------|
| 令和6年度 | 2,137 | 2,691 | 2,629 | 1 | 7,458 |
| 令和5年度 | 2,219 | 2,731 | 2,558 | 4 | 7,512 |
| 令和4年度 | 2,291 | 2,671 | 2,929 | | 7,891 |

岩手県産業教育振興会
令和6年度
事業活動報告書

令和7年3月24日発行

発行者：岩手県産業教育振興会

事務局：〒020-0841

岩手県盛岡市羽場18-11-1

岩手県立盛岡工業高等学校内

TEL 019-639-7250 FAX 019-656-0677

E-mail e-info@sanshin-iwate.jp

URL <https://www/sanshin-iwate.jp/>